

資 料

資料 1.

令和 6（2024）年度 中核的人材養成研修 募集要項

資料 2.

令和 6（2024）年度 中核的人材養成研修 eラーニング資料

資料 3.

令和 6（2024）年度 中核的人材養成研修 研修各回資料

資料 4.

令和 6（2024）年度 中核的人材養成研修 ワークシート・
実践報告フォーマット

資料 5.

令和 6（2024）年度 情報アップデート Day 募集要項

令和6年度 中核的人材養成研修 — 受講者の募集について —

中核的人材養成研修の日程

	内容・対象	方法	日程	西日本チーム	東日本チーム	
説明会	Teamsの使い方 受講者事前課題 の周知 事前視聴案内	動画視聴	6月頃			
第1回目	3頁目参照	WEB (LIVE)	8月26日 (月)	9:30~12:00	14:00~16:30	
第2回目		集合		9月27日 (金)		14:00~16:30
				10月1日 (火)	14:00~16:30	
第3回目		WEB (LIVE)	10月29日 (火)	9:30~12:00	14:00~16:30	
第4回目		WEB (LIVE)	11月26日 (火)	9:30~12:00	14:00~16:30	
第5回目		WEB (LIVE)	12月24日 (火)	9:30~12:00	14:00~16:30	
第6回目	WEB (LIVE)	2月10日 (月)	9:30~12:30 もしくは 14:00~17:00		14:00~17:00	
フォロー アップ	トレーナー サブ・トレーナー 事務局	受講者 事業所 訪問	適宜 (1回)			

※西日本チーム：近畿・中国・四国・九州
東日本チーム：北海道・東北・関東・甲信・北陸・東海
(参照：総務省統計局 地域区分)

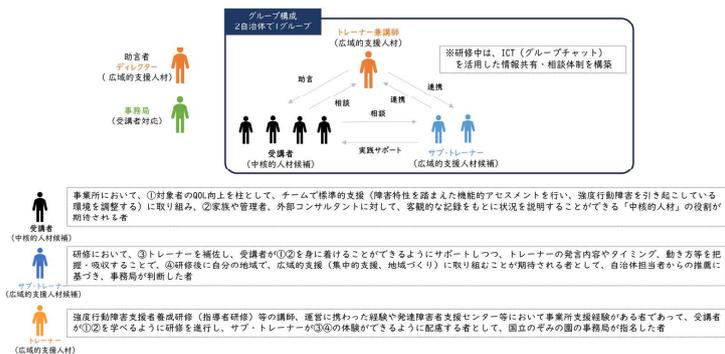
主催：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

中核的人材養成研修 — 受講者用募集要項 —

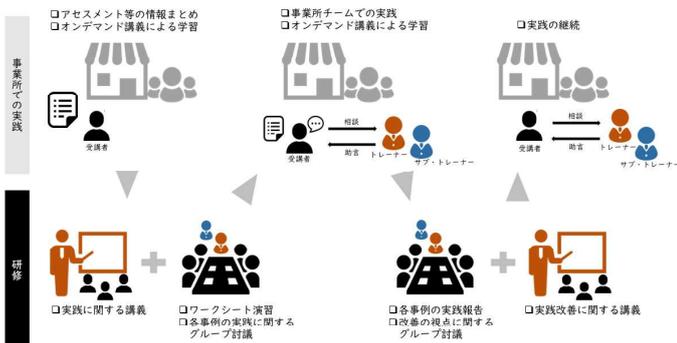
目的	中核的人材養成研修は、“強度行動障害支援者養成研修”の内容を踏まえて、支援現場において適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としています。
対象者	チームで支援を行う上で、適切なマネジメントを行い中心的な役割を果たすことが期待されることから、下記の募集要件を全て満たす者としてします。 なお、中核的支援人材研修の受講者を決定する際には、障害分野に加えて、障害児分野の支援者も含めて検討をお願いします。
募集要件	① 強度行動障害支援者養成研修(実践研修)を修了し、内容を十分に理解している者 ② 強度行動障害の状態にある利用者の直接的な支援を行っており、事業所において支援の中核的な役割を担っている(その予定を含む)者 ③ 事業所所属長の承諾を得て、全回参加し、事例報告ができる者 ④ 事業所所属長又はそれに代わる者が、第1回目の研修・第6回目の実践報告会に参加可能であり、研修参加後の職場体制整備に前向きであること ⑤ グループチャット(Microsoft Teams)による情報共有ができる者
募集人数	各都道府県から2名
申込方法	推薦者を都道府県でお取りまとめいただき、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園ホームページから申込書(Excel ファイル)をダウンロードし、申込案内に従い記入した申込書を下記のメールアドレスまで添付して送信してください。
申込期日	令和5年5月30日(木) 17時00分まで(申込期日を過ぎたものは受け付けません)
申込後の流れについて	都道府県担当者へ受講者決定通知を、各受講者へ受講案内をメール等でお送りします。メールでのご連絡となりますので、メールアドレスをご記入の際には間違えないようにご注意ください。 ※ メールが届かない場合は、都道府県担当者に確認させていただきます。
受講環境について	Zoomを使用したオンライン研修及び集合研修となります。演習では、グループに分かれ、ワークシートの画面共有や文字入力などの作業がありますので、パソコンでの受講をお願いします。グループチャット(Microsoft Teams)を使用します(機器説明会を研修前に行います)。推奨環境については、別紙をご参照ください。
修了証について	令和6年度中核的人材養成研修の修了証は、6回開催される全ての内容を正しく理解し、必要な演習を適切に実施、および事例報告をした者に交付します。なお、受講者側に起因するトラブルへの対処している時間が15分以上あったり、受講態度が著しく不良であったりする場合は、修了証を交付しません。 ※修了証は、研修全日程終了後に発送します。
お問合せ	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町2120番地2 TEL：027-320-1357 E-mail：nozomi-seminar-01@nozomi.go.jp 総務企画局事業企画部研修・養成課 担当：槻岡(つきおか)・長井

中核的人材養成研修とは

中核的人材養成研修は、“強度行動障害支援者養成研修”の内容を踏まえて、支援現場において適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としています。



中核的人材養成研修の構成

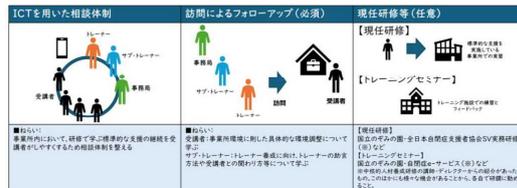


中核的人材養成研修のプログラム ※プログラムは変更になる可能性があります

	時間	科目名・役割	研修内容(グループ討議)
事前課題	1.5	eラーニングの視聴等	
第1回目	2.5	チーム支援とガイダンス	モデルを含む現場支援の状況・課題整理
実践		eラーニングの視聴 / 事業所における実践	
第2回目	2.5	特性理解とアセスメント	モデル紹介と質疑(特性理解)
実践		eラーニングの視聴 / 事業所における実践	
第3回目	2.5	支援プランの検討	優先課題(標的行動)の検討
実践		eラーニングの視聴 / 事業所における実践	
第4回目	2.5	支援プランの立案	構造化・コミュニケーション支援等の検討▶試行
実践		eラーニングの視聴 / 事業所における実践	
第5回目	2.5	支援プランの実施と修正	支援プランの実施報告と質疑
実践		事業所における実践	
第6回目	3.0	実践報告	実践報告
フォロー	1回	訪問フォローアップ等	

【フォローアップ】

- 受講者の実践サポートの観点から研修期間中・研修後にフォローアップを実施します。



その他

- ・ 本研修は、各受講者が実際に支援を提供するご利用者様の支援記録等を持ち寄り、助言者と受講者間で討論を重ねながら、支援計画を作成して、行動や様子の変容を振り返りつつ支援の質向上を目指す内容となっております。そのため、個人情報等が含まれる内容となりますので、本研修で知り得た個人情報に関して、同意書の提出をお願い致します。 ※同意書は受講決定後に受講者へ郵送いたします。
- ・ 本研修は、募集要件に記載してあります“強度行動障害支援者養成研修(実践研修)を修了”を確認するため、受講申し込み時に修了証のコピー提出をお願いしております。

令和6年度 中核的人材養成研修 — サブ・トレーナーについて —

中核的人材養成研修の日程

	内容・対象	方法	日程	西日本チーム	東日本チーム	
説明会	Teamsの使い方 受講者事前課題の周知 事前視聴案内	動画視聴	6月頃			
事前打合せ	ディレクター トレーナー サブ・トレーナー 事務局	WEB (LIVE)	7～8月頃			
第1回目	4頁目参照	WEB (LIVE)	8月26日 (月)	9:30～12:00	14:00～16:30	
第2回目		集合		9月27日 (金)		14:00～16:30
				10月1日 (火)	14:00～16:30	
第3回目		WEB (LIVE)	10月29日 (火)	9:30～12:00	14:00～16:30	
第4回目		WEB (LIVE)	11月26日 (火)	9:30～12:00	14:00～16:30	
第5回目		WEB (LIVE)	12月24日 (火)	9:30～12:00	14:00～16:30	
第6回目	WEB (LIVE)	2月10日 (月)	9:30～12:30 もしくは 14:00～17:00		14:00～17:00	
フォローアップ	トレーナー サブ・トレーナー 事務局	受講者 事業所 訪問	適宜 (1回)			

※上記で記している時間は、「研修時間」です。前後30分、準備と振り返りがあります。第6回のみ、研修時間が3時間となります。

※西日本チーム：近畿・中国・四国・九州
東日本チーム：北海道・東北・関東・甲信・北陸・東海
(参照：総務省統計局 地域区分)

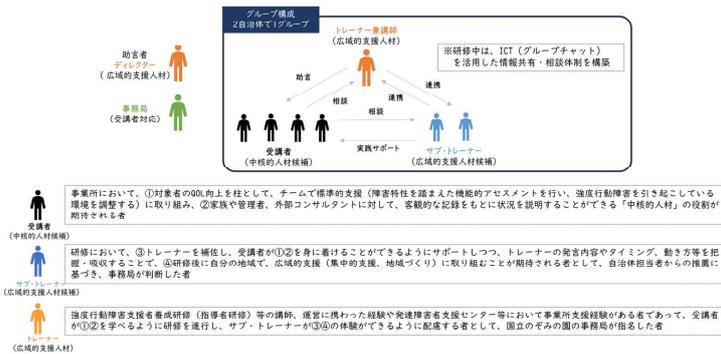
主催：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

中核的人材養成研修 — サブ・トレーナーについて —

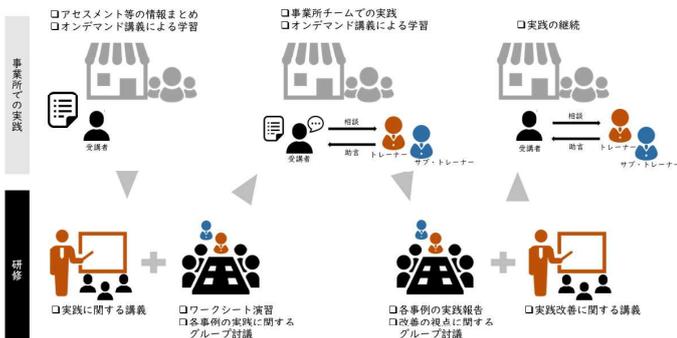
目的	中核的人材養成研修は、「強度行動障害支援者養成研修」の内容を踏まえて、支援現場において適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としています。
対象者	将来的に本研修の指導者となること、各地域における強度行動障害支援の核になることが期待されることから、下記の募集要件を満たす者とします。 なお、中核的支援人材研修のサブ・トレーナーを選定する際には、障害分野に加えて、障害児分野の支援者も含めて検討をお願いします。
募集要件	① 地域のために動くことに対する所属先の理解がある者 ② 強度行動障害支援に関する豊富な知識・経験があり、他事業所等への助言経験がある者 ③ 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）修了かつ強度行動障害支援者養成研修の講師等の経験がある者 ④ 強度行動障害支援に関する事業、地域の連携体制づくり・人材養成等に関与している者 ※ ①は必須、②～④はいずれかに該当する者
募集人数	各都道府県から1名
申込方法	推薦者を都道府県でお取りまとめた後、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園ホームページから申込書（Excel ファイル）をダウンロードし、申込案内に従い記入した申込書を下記のメールアドレスまで添付して送信してください。
申込期日	令和6年5月30日（木）17時00分まで（申込期日を過ぎたものは受け付けできません）
申込後の流れについて	都道府県担当者へ受講者決定通知を、サブ・トレーナーへ受講案内をメール等でお送りします。メールでのご連絡となりますので、メールアドレスをご記入の際にはお間違のないようご注意ください。 ※ メールが届かない場合は、都道府県担当者に確認させていただきます。
受講環境について	Zoomを使用しているオンライン研修及び集合研修となります。演習では、グループに分かれ、ワークシートの画面共有や文字入力などの作業がありますので、パソコンでの受講をお願いします。グループチャット（Microsoft Teams）を使用します（機器説明会を研修前に行います）。推奨環境については、別紙をご参照ください。
修了証について	令和6年度中核的人材養成研修の修了証は、受講者と同様、6回開催される全ての講義・演習を受講した者に交付します。なお、サブ・トレーナー側に起因するトラブルへの対処している時間が15分以上あったり、受講態度が著しく不良であったりする場合は、修了証を交付しません。 ※修了証は、研修全日程終了後に発送します。
お問合先	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町2120番地2 TEL：027-320-1357 E-mail：nozomi-seminar-01@nozomi.go.jp 総務企画局事業企画部研修・養成課 担当：槻岡（つきおか）・長井

中核的人材養成研修とは

中核的人材養成研修は、「強度行動障害支援者養成研修」の内容を踏まえて、支援現場において適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としています。



中核的人材養成研修の構成



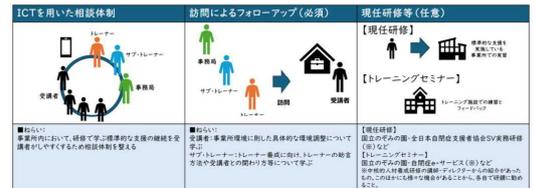
中核的人材養成研修のプログラムと 研修と研修の間のサブ・トレーナーの役割

	時間	科目名・役割	研修内容（グループ討議）
事前課題	1.5	eラーニングの視聴等	
第1回目	2.5	チーム支援とガイダンス	モデルを含む現場支援の状況・課題整理
実践		受講者のフォロー	
第2回目	2.5	特性理解とアセスメント	モデル紹介と質疑（特性理解）
実践		受講者のフォロー	
第3回目	2.5	支援プランの検討	優先課題（標的行動）の検討
実践		受講者のフォロー	
第4回目	2.5	支援プランの立案	構造化・コミュニケーション支援等の検討▶試行
実践		受講者のフォロー	
第5回目	2.5	支援プランの実施と修正	支援プランの実施報告と質疑
実践		受講者のフォロー	
第6回目	3.0	実践報告	実践報告
フォロー	1回	訪問フォローアップ等	

※プログラムは変更になる可能性があります

【フォローアップ】

■ 受講者の実践サポートの観点から研修期間中・研修後にフォローアップを実施します。



その他

- 本研修は、各受講者が実際に支援を提供するご利用者の支援記録等を持ち寄り、助言者と受講者間で討論を重ねながら、支援計画を作成して、行動や様子の変容を振り返りつつ支援の質向上を目指す内容となっております。そのため、個人情報等が含まれる内容となりますので、本研修で知り得た個人情報に関して、同意書の提出をお願い致します。※同意書は受講決定後に受講者へ郵送いたします。
- 本研修は、募集要件に記載してあります「強度行動障害支援者養成研修（実践研修）を修了」を確認するため、受講申し込み時に修了証のコピー提出をお願いしております。

研修概要について

本講義で使用するワークシート

- なし

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	研修概要	①研修概要について ②中核的人材養成研修の目的 ③研修の基本構造 ④-1標準的な支援を実施するための基本的な手順書 ④-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ④-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハリスク編)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ④水山モデル ④チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動増進アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェイズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	④課題となっている行動の観察と記録 ④診断的アセスメント ④日常生活現場での記録観察	[9/27、10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細情報の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート(上段)、スキッチャープロット(プル) FAST
フェイズ2	③課題行動に対する支援の検討(行動の分析)	④見てわかるエピソード(録音化) ④コミュニケーションプログラム ④診断的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(継続行動)の検討と実践立て	2.5h	ハリスク場面の整理、継続行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイズ3	(4)支援プランの立案と実施	④支援プランの立案 ④支援手帳書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳書(録音合符)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ4	④実践プランの見直し(PDCAサイクル)	④実践後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(録音・録画)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ5	(4)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェイズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補修		未受講生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー/サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

研修の流れにおける本講義の位置

この講義の内容とねらい

この講義の内容

- 中核的人材養成研修の目的
- 中核的人材養成研修の概要
- 事前課題について

この講義のねらい

- 中核的人材養成研修の背景、目的、内容等の理解をとおし、研修受講体制を整える

中核的人材養成研修の目的

中核的人材養成研修が、なぜ必要か

強行研修修了者※
基礎修了者 122,556人(2013~2022年)
実践修了者 65,799人(2014~2022年)
研修修了者は一定数確保できた

しかし、実践を継続している事業所は一部(図1)

実践を継続できるようになるための研修が必要

2023年度~ 中核的人材養成研修 開催

※強行研修=強度行動障害支援者養成研修



中核的人材の役割

中核的人材の役割

- ① 強行研修の内容を事業所内の支援チームに説明できる
- ② 強行研修の内容をチームで実践できる
- ③ コンサルテーションを活用しながら実践が持続ができる
- ④ 法人内の他事業所のサポートができる

広域的支援人材の役割(参考)

- ① 都道府県内の事業所のサポートができる
- ② 他県のサポートができる(当面)



※参照:「広域的支援人材(指導的支援人材)の養成に関する研究」(国立のぞみの園 2023)

中核的人材養成研修で何を学ぶのか

受講者(中核的人材候補)

- 強行研修で学んだ内容(標準的な支援)を、チームで実施し続けること
- コンサルテーションの活用

サブ・トレーナー(広域的支援人材候補)

- 事業所が強行研修で学んだ内容(標準的な支援)を、チームで実施し続けられるようにサポートする方法
- ＝コンサルテーションの方法



※コンサルテーション＝一定期間継続的に組織(法人)外の人材(コンサルタント)から、支援員が専門的な知識やスキル等を学ぶこと

中核的人材養成研修の経過

2023年 一部地域でのモデル研修の実施

【研修構成のポイント】

- 事業所内チームでの標準的な支援の実践
- 標準的な支援定着のための実践サポート(助言を受けられる+フォローアップ)

【研修内容のポイント】

- 強度行動障害支援者養成研修とのつながり
- 環境調整の3つの視点
- ICFによる生活全体の把握
- 自閉症の学習スタイル
- 機能的アセスメント

改善点

✓研修の全体像が見えづらさ ✓研修各回の時間配分・実施内容 等

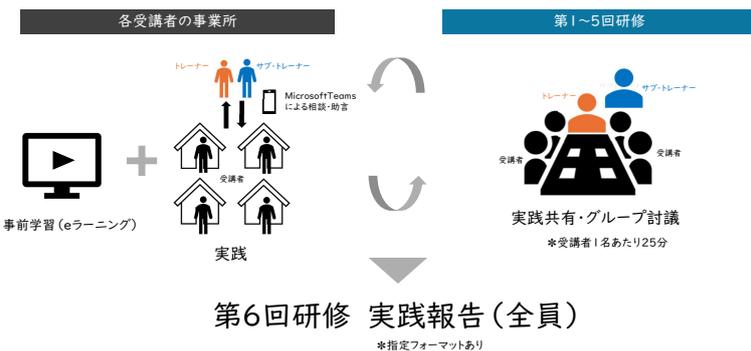
2024年 改善した研修の実施

- 講義のeラーニング化
- 研修当日のグループ討議の時間増

- PDCAサイクルのベース減
- モデル事例に即したシートの活用

中核的人材養成研修の概要

中核的人材養成研修(全6回)の構成



研修プログラム

担当	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月)または実践シート類
水山モナミ	事前課題	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-①標準的な支援を実施するための基本的な仕組み ③-②ICFシステムでのターゲット人かごと分析 ③-③ICFシステムで把握した情報をQQに支援に活用する	-	1.5h	モデル情報、事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハイリスク場面)、BPI-S ICFシートの環境図子(できるだけ実施)
フェイス1	(1)研修がターゲットとチーム支援	④自閉症の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修デザイン モデルを含む現場支援の状況・留意課題の報告	2.5h	支援現場・モデルの様子動画撮影 特徴と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 自閉症行動場面アセスメントシート(4ICFシートの活動)参加
フェイス2	(2)特性理解とアセスメント・基盤構築	⑦課題と関与している行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面での直接観察	[9/27, 10/11] モデルの紹介と質疑(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの評価場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート(上段)、スクリーンプロット(プル)FAST
フェイス3	(3)課題行動に対する支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかる工夫(構造化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 像と課題(構造的行動)の検討と仮説立て	2.5h	ハイリスク場面の整理、構造的行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活動に参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイス4	(4)支援プランの立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手帳書の作成と実施の対応	[11/26] 実施計画書の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳書(課題分析)の作成と実施 支援場面の動画撮影②、実践報告書の作成 スクリーンプロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート②
フェイス5	(5)実践プランの見直し(PDCAサイクル)	⑮実践後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(報告/検証) [2/10] 現場支援の実践報告	2.5h 3h	実践報告書の作成 スクリーンプロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイス6	(6)実践報告会				
フェイス7	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補講			各受講者の事業所に訪問する、オンラインで実施(1回/トレーナー・サブ・トレーナーで対応)		研修期間中、受講生への個別のフォロー(他支援をおこなって、サブ・トレーナーが対応)

③ICFシート

- ICFシートは「環境因子」と「活動と参加」の2種類があります
- 事前課題では、「環境因子」のシートをご記入ください
- 記入方法については、eラーニング③-2「ICFシステムのデータ記入と分析方法」をご覧ください

ICFコアセット 環境因子 進行支援 (6-16歳版採用) 情報把握シート 第3章-第4章

※環境因子の分類は、環境因子の分類と活動と参加の分類、活動と参加の分類と環境因子の分類の3つに分かれています。

1.2 各々の環境因子、活動と参加の分類

環境因子	環境因子の分類	活動と参加の分類
1.1.1.1 身体的環境	環境因子	活動と参加
1.1.1.2 社会的環境	環境因子	活動と参加
1.1.1.3 文化的環境	環境因子	活動と参加
1.1.1.4 経済的環境	環境因子	活動と参加
1.1.1.5 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.6 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.7 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.8 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.9 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.10 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.11 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.12 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.13 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.14 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.15 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.16 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.17 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.18 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.19 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.20 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.21 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.22 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.23 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.24 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.25 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.26 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.27 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.28 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.29 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.30 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.31 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.32 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.33 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.34 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.35 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.36 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.37 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.38 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.39 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.40 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.41 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.42 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.43 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.44 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.45 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.46 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.47 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.48 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.49 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.50 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.51 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.52 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.53 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.54 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.55 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.56 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.57 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.58 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.59 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.60 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.61 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.62 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.63 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.64 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.65 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.66 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.67 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.68 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.69 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.70 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.71 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.72 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.73 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.74 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.75 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.76 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.77 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.78 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.79 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.80 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.81 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.82 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.83 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.84 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.85 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.86 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.87 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.88 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.89 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.90 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.91 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.92 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.93 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.94 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.95 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.96 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.97 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.98 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.99 環境因子	環境因子	活動と参加
1.1.1.100 環境因子	環境因子	活動と参加

④問題行動評価尺度短縮版 (BPI-S)

原本

項目	1	2	3	4	5
1. 問題行動の頻度	1	2	3	4	5
2. 問題行動の強度	1	2	3	4	5
3. 問題行動の持続性	1	2	3	4	5
4. 問題行動の悪影響	1	2	3	4	5
5. 問題行動のコントロール	1	2	3	4	5
6. 問題行動の回避	1	2	3	4	5
7. 問題行動の悪影響の軽減	1	2	3	4	5
8. 問題行動の悪影響の軽減	1	2	3	4	5

中核的人材養成研修用記入フォーム

項目	1	2	3	4	5
1. 問題行動の頻度	0	1	2	3	4
2. 問題行動の強度	0	1	2	3	4
3. 問題行動の持続性	0	1	2	3	4
4. 問題行動の悪影響	0	1	2	3	4
5. 問題行動のコントロール	0	1	2	3	4
6. 問題行動の回避	0	1	2	3	4
7. 問題行動の悪影響の軽減	0	1	2	3	4
8. 問題行動の悪影響の軽減	0	1	2	3	4

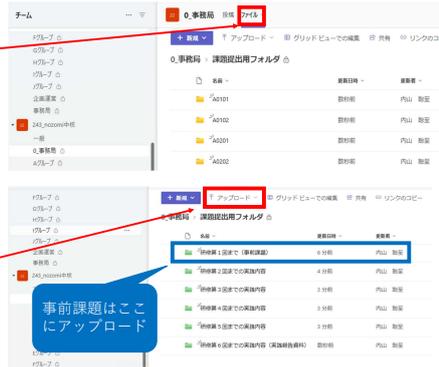
記入フォームは中核的人材養成研修用に作成したものです。配布は禁止いたします。

BPI-Sの説明や活用方法を深く学びたい方は右記QRコードをご参照ください。



MicrosoftTeamsへのアップロード方法

- 各グループチャットの【ファイル】をクリック
- 各受講者フォルダ内の該当フォルダにアップロード
- アップロードしたら、各グループチャットに報告



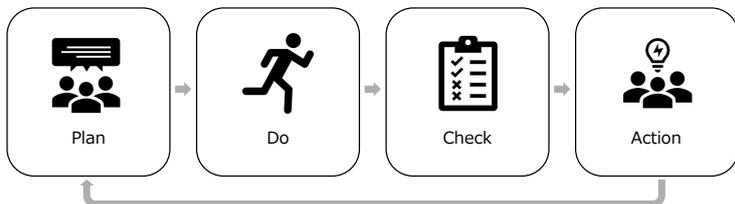
アンケートフォームでの回答方法

- 配布資料「中核的人材養成研修実施概要について」5ページにある事前課題 回答フォームをクリック
- Microsoftformsへリンクしますので、項目に沿ってご回答ください
- 回答送信後の修正はできません
- 間違えた場合は、再度ご回答ください

項目	内容
事前学習 (eラーニング)	<ul style="list-style-type: none"> ① 研修概要について ② 標準的な支援と中核的人材養成研修の基本概念 ③-1 標準的な支援を実施するための標準的な枠組み ③-2 ICFシステムからのゴール設定の考え方 ③-3 ICFシステムで整理した情報EQQOL表紙に活用する
現場実践	<ul style="list-style-type: none"> ・電子化基本情報シート ・事前学習情報シート ・BPI-S ・ICFシート(環境因子)
研究に関する実践(ウェブ)	<ul style="list-style-type: none"> 1)研修概要について 2)標準的な支援と中核的人材養成研修の基本概念 3)研修概要について 4)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 5)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 6)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 7)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 8)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 9)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 10)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 11)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 12)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 13)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 14)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 15)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 16)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 17)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 18)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 19)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 20)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 21)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 22)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 23)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 24)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 25)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 26)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 27)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 28)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 29)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 30)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 31)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 32)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 33)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 34)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 35)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 36)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 37)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 38)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 39)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 40)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 41)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 42)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 43)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 44)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 45)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 46)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 47)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 48)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 49)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 50)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 51)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 52)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 53)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 54)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 55)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 56)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 57)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 58)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 59)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 60)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 61)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 62)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 63)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 64)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 65)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 66)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 67)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 68)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 69)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 70)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 71)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 72)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 73)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 74)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 75)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 76)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 77)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 78)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 79)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 80)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 81)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 82)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 83)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 84)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 85)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 86)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 87)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 88)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 89)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 90)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 91)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 92)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 93)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 94)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 95)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 96)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 97)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 98)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 99)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み 100)標準的な支援を実施するための標準的な枠組み

研究へのご協力のお願い

- ・本研修は、研究事業の一環として実施しています
- ・2024年度に、中核的人材・広域的支援人材研修のパッケージの完成を目指します
- ・研修で活用する尺度、資料、講義内容は、みなさまのご意見を参考に調整します
- ・忌憚のないご意見をお寄せください



標準的な支援と 中核的人材養成研修の基本視点

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ研修 (オンライン/集合研修)	時間	グループ研修後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	事前学習	①目標設定について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な視点 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・研修所情報の整理 モデルの基本情報シート、研修所情報シート(ハイルスク場面)、BPT-S ICFシート(環境因子(できるだけ実施))
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシート)の活用(参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題のアセスメント ⑧日常生活場面の記録 ⑨日常生活場面の記録	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの親子場面の動画撮影 ASBC記録とストラテジーシート(上段)、スキップシート(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかるエピソード(録音化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫個別アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(個別行動)の検討と実践	2.5h	ハイルスク場面の整理、個別行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活動と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手帳の作成と実践の対応	[11/26] 実践計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳(録音分析)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成(ICFシートの記録)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実践の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(質疑-応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキップシート(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受援者の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー-サブトレーナーで対応) 研修期間中、受援者への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

研修の流れにおける本講義の位置

講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- 強度行動障害を有する者への標準的な支援
- 中核的人材養成研修の基本的な視点

この講義のねらい

- 標準的な支援を実施するためのアセスメントや基本的な支援方法を理解することができる
- 標準的な支援するポイントとしてチーム支援やマネジメントサイクルの必要性を理解できる
- 中核的人材の求められる役割や強度行動障害の地域支援体制のイメージが理解できる

強度行動障害を有する者への標準的な支援

強度行動障害を有する者への支援の考え方



WHOによって採択されたICF (国際機能分類) では、「障害」を健康状態(診断)に加えて、生活機能(心身機能身体構造、活動、参加)と背景因子(環境因子、個人因子)の観点で説明。

強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉症といった診断名だけでなく、その障害特性の現れである「活動と参加」そして強度行動障害の発生に影響している「環境因子」を含めた観点を合わせて分析していく。

「活動と参加」の困難性が発生する生活場面(環境)から、個々の障害特性のアセスメントを実施し、強度行動障害の発生に影響している「環境因子」を把握・調整していくことで、QOLを高める支援を実践していく

(参考) 強度行動障害を有する者への標準的な支援

標準的な支援のためのアセスメント

(強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より)

○(中略)強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など個人因子と、どのような環境のもとで強度行動障害を引き起こしているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

課題となっている行動の例

- 先の実施し方が持てず何度も予定を破綻する
- 音に敏感で騒がしい部屋に入れない
- 「指名」が伝えられず動きを即いでしまう など

本人の特性

自閉スペクトラム症や知的障害など個々の障害特性

環境・状況

困り感やストレスの原因となっている環境や状況

冰山モデル

見えている行動だけに着目せず行動の背景を考慮することが重要
*強度行動障害支援者養成研修より

課題となっている行動

本人の特性 環境・状況

強度行動障害

強度行動障害は特性と環境のミスマッチから生じる

アセスメントに基づく支援計画を立て、実施し、実施内容を評価して次の支援につなげる

標準的な支援

障害特性を踏まえた*機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する

*機能的アセスメント
課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているか調べる

予防的支援の重要性 (強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より)

- 予防的観点を含めた標準的な支援を行うことが必要
- 強度行動障害を引き起こさなくても良い支援を日常的におこなうことが重要
- 支援者、家族、教育等の関係者が、標準的な支援の知識を共有し、地域の中に拡げていくことが重要

障害特性のアセスメント

【個々に違った自閉症の特性】

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会的な特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

「認知・記憶」「注意・注目」「運動」も確認することもあります

機能的アセスメント

【問題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているのか】

不安や緊張から 逃れたい
不安や緊張を 伝えたい
不安や緊張に 気づいてほしい

でも方法がわからない

気持ちを **行動** で表す

家庭環境のアセスメント

家族支援を進めることも必要であり、家庭環境のアセスメントも行い、家族も含めて、困り感やニーズの把握

標準的な支援のための環境調整

標準的な支援の効果

自閉症は脳の機能的な障害

情報 → 認知の違い、認識の違い、理解の違い → 行動の違い

非定型発達の人 (発達に特性のある人)

支援のアイデア

目で見てわかる支援が基本

6つの情報		5つの工夫	
いつ	時間の工夫	やりとりの工夫	
どこで	場所の工夫		
なにを	方法の工夫		
どのくらい	方法の工夫		
つきは	方法の工夫		
どうやって	見え方の工夫		

強度行動障害支援技法のコンセンサス①

「3つのグループごとの標準的な支援の成果の判断」

結果はみられない
とまどき成果がみられる
おおむね成果がみられる
十分な成果がみられる

活用グループ (68事業所) 中間グループ (100事業所) 非活用グループ (53事業所)

令和元年度 障害者総合福祉推進事業「強度行動障害児者に携わる者に対する体系的な支援スキルの向上及びスキルアップに関する実践的研修」全日本自閉症支援者協会 2020年3月

- 標準的な支援で最も成果があると判断されているのは「場所の工夫(物理的構造化)」
- 次いで「見通しの工夫(視覚的スケジュール)」「支援手順書」
- 活用しているグループほど、標準的な支援の成果は高いと判断している

強度行動障害を有する者への標準的な支援のプロセス

標準的な支援を提供するポイント

【標準的な支援のプロセス】

課題となっている行動

本人の特性 環境・状況

強度行動障害は特性と環境のミスマッチから生じる

必要なサポート

アセスメント

障害特性上、意思疎通が難しく行動観察が主となる客観的な行動観察を行うため記録の活用
行動の理論に基づき行動の機能をアセスメント
心理検査などの標準化されたアセスメントも有効

アセスメントと環境調整を繰り返し、困り感やストレス軽減し行動障害の減少、適応行動の増加を図る

環境調整

障害特性に合わせた環境を整える
過度な刺激を減らす
個々の理解に合わせた関わり方や教え方を行う
適切な活動を提案し目標の組み立てを行う

「この支援の見直しの作業を繰り返しながら、本人にあった支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境を作っていくのです (強行基礎 講義3スライドより引用)」

支援手順書等

- ・ 事業所内でのかわりや支援を統一して、標準的な支援を一貫して提供することが重要
- ・ 客観的な記録から支援の効果を確認し、PDCAサイクルを機能させる

外部専門家の指導助言の活用

- ・ 困難なケースは自分たちのチームだけで抱えず、事業所の課題、地域の課題として考えていく
- ・ 外部専門家を活用することで自分たちの支援の検証や新たな支援のアイデアを取り入れる

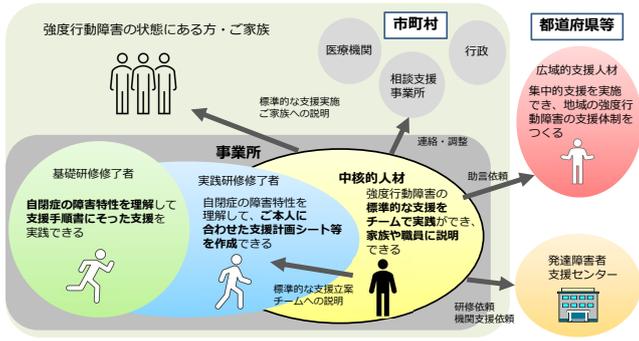
予防的な支援

- ・ 強度行動障害の状態にならないように予防的な支援が必要
- ・ 自閉症の方たちの力が十分に発揮できるように日頃から、障害特性に基づいた支援を実施する

医療との連携

- ・ 強度行動障害の状態を医療により完全に治すことは難しく、日頃から医療と福祉の相互の連携を強化していくことが重要であり、連携した支援をすすめる

中核的人材に求められること



標準的な支援を実施するための基本的な枠組み

本講義・演習で使用するワークシート

- なし

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本概念 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な枠組み ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ④-1ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題となっている行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面での記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実演(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野鳥場面の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート(上段)、スキッチャープロット(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかるエピソード(録音化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(目標行動)の検討と実践立て	2.5h	ハリスク場面の整理、目標行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、参加と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手帳書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳書(録音分析)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、支援報告書書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実装の途中経過報告(質疑-応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書書の作成 スキッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補綴		各受援者の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー-サブトレーナーで対応) 研修期間中、受援者への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

研修の流れにおける本講義の位置

講義・演習の内容とねらい

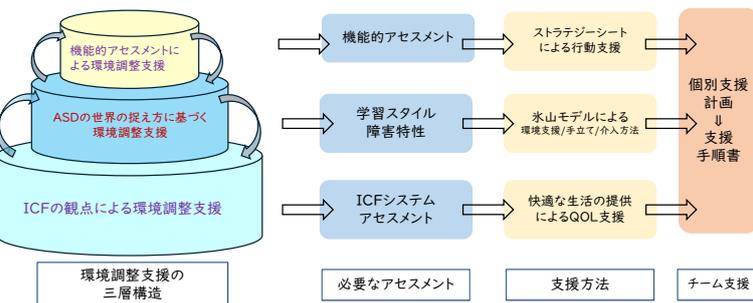
この講義の内容

- ① 環境調整支援の三層構造
- ② 環境調整支援 三層構造の第一層 >> ICFシステムによるQOL支援

この講義のねらい

- ① 「環境調整支援の三層構造」が機能的アセスメント、学習スタイルの評価、ICFアセスメントの3つで構成されること、及びこれら3つが相互補完的にQOL向上の支援へとつながることを理解する。
- ② ICFの観点で強度行動障害の状態像を整理するとともに、環境因子および活動と参加の情報把握から環境調整支援を実施し、強度行動障害の状態にある方の快適な生活とwell-beingを目指す。

環境調整支援の三層構造



QOL向上に向けた環境調整支援の三層構造

強度行動障害の状態像にある行動は、周囲にとっては「課題となる行動」ですが、本人にとっては「その行動をすることに意味がある行動」です。そして、その意味とは、「快適ではない状況」を脱して「快適な状況」に向かおうとしていると考えられます。

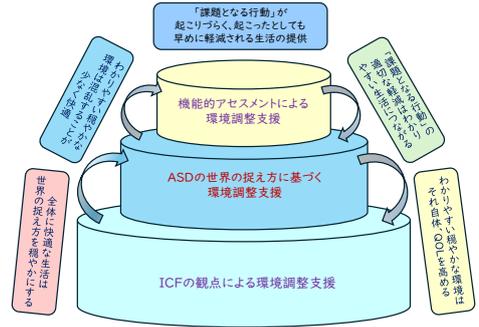
QOL向上を実現する「3つの環境調整にかかわる支援」

- ①機能的アセスメントによる課題行動の軽減で「穏やかな生活」を実現する環境調整
- ②ASDの学習スタイル(世界の捉え方)を考慮し「わかりやすい生活」を実現する環境調整
- ③ICFの観点を援用した「生活全体の評価」により「快適な生活」を実現する環境調整

「3つの環境調整にかかわる支援」は相互に補充しあう

- (a) 特定の場面で起こっている「課題となる行動」が軽減された状態が維持されるには、より広く生活全体のわかりやすさと快適さが必要。
- (b) わかりやすい生活環境では不安や緊張は軽減され環境の理解が進んでいく。
- (c) 自閉症の観点だけでなく、ICFの観点から「その人の生活全体」を評価することで、その人に固有の生活に根ざした環境調整により快適な環境が実現できる。

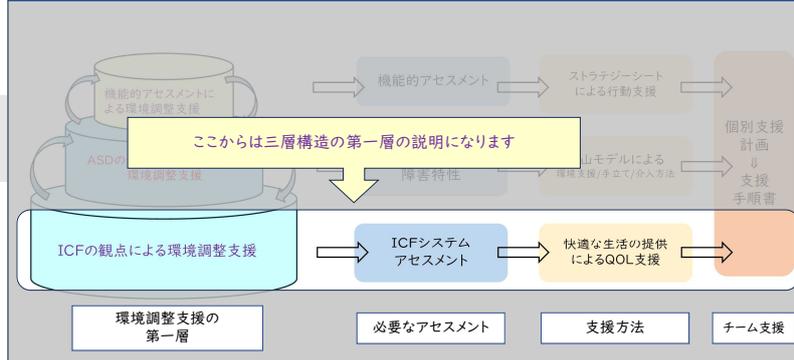
環境調整支援の三層構造は相互に補充しあってQOLを高める



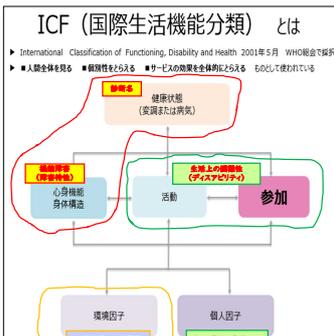
支援は「環境調整」に始まり、最後まで「環境調整」が続く。

環境調整支援 三層構造の第一層 >> ICFによるQOL支援

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



強度行動障害の状態像をICFの観点で整理する



○WHOによって採択されたICF(国際機能分類)では、「障害」を健康状態(診断)に加えて、生活機能(心身機能身体構造、活動、参加)と背景因子(環境因子、個人因子)の観点で説明。

○強度行動障害を有する者への支援にあたっては、**知的障害や自閉症といった診断ラベルだけでなく、その障害特性が困難性として現れてくる「活動と参加」、そして困難性の発生に影響する「環境因子」という2つの観点を合わせて分析していく。**

○「活動と参加」として現れてくる困難性を個々の障害特性を念頭に、その困難性が発生する生活場面(環境)との関連を考慮してアセスメントし、困難性の発生に影響している「環境因子」を把握・調整していくことは、強度行動障害の標準的な支援を生活の観点から支える基盤的支援であり、QOLの向上につながる。

環境因子:「快適環境の提供」という予防的支援

自閉症の人たちの生活環境が快適であれば、それは課題行動発生の予防的支援になります。

- ①「快適でHappyな対人環境」 = 周囲の人が受容的・肯定的・共感的な環境
- ②「過ごしやすい環境」 = 身の回りのものがわかりやすく使いやすい環境
- ③「穏やかに落ち着ける環境」 = 苦手な刺激を排した好ましい刺激に富む環境が大きな三本柱になります

快適な環境(例)	快適さをもたらす支援(例)
①快適な対人環境(例1)	人が多すぎない静かで落ち着いた環境
①快適な対人環境(例2)	適度な大きさの声でゆっくり話しかける
②過ごしやすい環境(例1)	簡単な操作で音楽が聴けるプレーヤー
②過ごしやすい環境(例2)	自身の背格好にフィットした椅子と作業机
③穏やかに落ち着ける環境(例1)	エアコンで適温に保たれた居室
③穏やかに落ち着ける環境(例2)	窓からの光を和らげるスクリーン型ブラインド

「自閉症の人たちにとって快適な環境調整を行えば、彼らも周囲の環境に馴染みやすく、周囲の状況を学んでいきやすい。」

活動と参加：「困難さの軽減」というQOL支援

人は誰も「快適ではない状況」を脱して「快適な状況」に向かおうとしています。強度行動障害の状態像を示す人たちも同じです。そして「快適ではない」という状態の背景には「日々の活動や参加がご本人にとって負担や困難が大きい状況」があります。その負担感や困難さを減らす支援はQOL向上支援であり、課題となる行動の予防的支援ともなります。

困難さが軽減される場面や支援の把握により、QOL向上を目指す環境調整支援

① 日々の生活で困難さが軽減される場面や支援への意識的な気づきと把握

：例1) 余計な刺激がないほうが、作業に集中できる・・・という気づき
：例2) 自立課題をステップごとに超ゆっくりモデル提示すると真似できる・・・という気づき

② ご本人の困難さが軽減される場面や支援を生活の中に入れていくQOL支援

：例1) 食事の時に、壁のポスターが見えない席にしたほうが食事が進む
：例2) 日常生活用品の使い方を超スローでモデル提示すると使い方を覚えられた

- (a) 「活動と参加」を評価するのですが、活動や参加だけを環境から切り離して評価するのではなく「場面や支援によって活動や参加がどう変わるか」を評価します。
(b) 自閉症の観点だけでなく、その人の生活全体を (a) の観点で評価することで、その人の固有の生活に根ざした環境調整にかかわる支援が実現できます。
(c) そして、そのことが生活全体の快適さを実現していくこととなります。

ICFの観点を取り入れたQOL支援

▶QOLの向上を目指した生活全体の見直し

- ✓ 自閉症の観点だけでなく、その人の生活全体を評価する。
- ✓ 支援者視点ではなく「その人の視点」に立って生活を見直す。
- ✓ ICFの捉え方を通じて、生活全体のQOL状況を把握し、快適な生活を提供する

▶快適な生活の手がかりを日々の活動や参加から探る

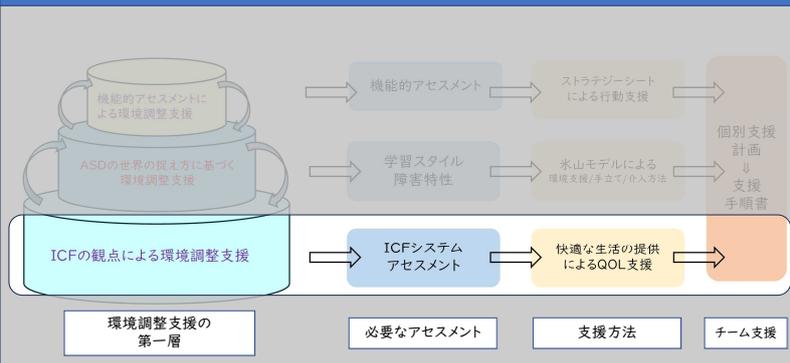
- ✓ 日々の活動でその人が負担や困難さを感じていることはあるか？
- ✓ 日常の中にその負担や困難さが軽減される環境や場面があるか、また支援の働きかけはあるか？
- ✓ そういった「環境や場面、支援の働きかけ」で、その人の負担や困難さはどの程度軽減されるか？

▶快適な生活の手がかりを生活の環境要因（環境因子）から探る

- ✓ 生活の快適さが損なわれる環境因子はあるか？（阻害的環境因子の把握）
- ✓ 生活の快適さを支えてくれる環境因子はあるか？（促進的環境因子の把握）
- ✓ その「支援」で、その人の困難さはどの程度軽減されるか？

日々の生活がQOLの高い「快適な生活」になることを通じて、その人のwell-being（幸せで満たされた感覚）を目指す

標準的な支援を実施するための基本的枠組み（支援パッケージ）



ICFシステムのデータ入力と分析方法

本講義・演習で使用するワークシート

- なし

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活場面行動アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェイズ1	(2)特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題となる行動の観察と記録 ⑧活動のアセスメント ⑨日常生活場面の記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート(上段)、スキッチャープロット(プル) FAST
フェイズ2	(3)支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかるエピソード(録音化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫活動のアセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(個別行動)の検討と実践	2.5h	ハリスク場面の整理、個別行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活動と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイズ3	(4)支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手帳の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳(録音分析)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ4	振り返りの見直し(PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ5	(5)実践報告会		[2/10] 実践報告の発表	3h	
	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補綴		各受講生の事業所に訪問する。オンラインで取り取り(1トレーナー・サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

研修の流れにおける本講義の位置

講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- ICFシステムの情報把握とデータ分析 ~ 使用するエクセルファイルと手順 ~
- 環境因子シートの説明
- 活動と参加シートの説明
- 【活動と参加シートと日常生活場面行動アセスメント(レインボウ)との連動】
- 把握情報から支援の手がかりを得るための分析方法について

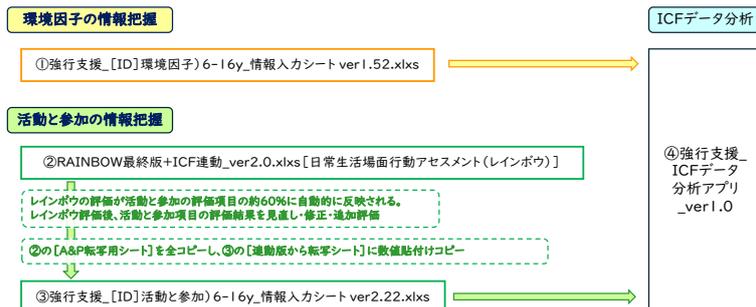
この講義のねらい

- ICFシステムの活動と参加および環境因子の情報把握を行うためのエクセルシートの使い方を理解すること。また、活動と参加シートについては、日常生活場面行動アセスメントに連動して評価がなされる仕組みについて理解すること。そして、活動と参加と環境因子の把握情報を分析して、支援の手がかりを得る方法について理解すること。

ICFシステムの情報把握とデータ分析 ~ 使用するエクセルファイルと手順 ~

ICF情報把握とデータ分析の手順

##これらの手順をpreで1回、postで1回の2回実施し、支援前後の変化を確認します##



①と③のエクセルファイルの基本情報への入力

ICFコアセット 環境因子 6歳-16歳用 情報把握シート 基本情						
支援チームID	支援対象者ID(必須)	イニシャル(任意)	生年/月/日	年齢	性別	回答者
			2024年9月			
>記載例						
支援チームID	支援対象者ID	イニシャル(任意)	生年/月/日	年齢	性別	回答者
任意のID	任意のID	(JA など記入)	2012/3/12	12年3ヶ月	男性	20x
支援チームID、支援対象者ID、チームリーダーIDは個人情報保護しつつ支援対象者を特定するためのものです。 「支援対象者ID」は回答分析アプリでシートを解析した結果が書き込まれるファイル名に反映されるため(必須)です。						

ICFコアセット 活動と参加 6歳-16歳用 情報把握シート 基本情						
支援チームID	支援対象者ID(必須)	イニシャル(任意)	生年/月/日	年齢	性別 (7才以下)	回答者
			2004/5/3	20年2ヶ月		
>記載例						
支援チームID	支援対象者ID	イニシャル(任意)	生年/月/日	年齢	性別	回答者
任意のID	任意のID	(JA など記入)	2005/3/12	19年3ヶ月	男性	20x
支援チームID、支援対象者ID、チームリーダーIDは個人情報保護しつつ支援対象者を特定するためのものです。 「支援対象者ID」は回答分析アプリでシートを解析した結果が書き込まれるファイル名に反映されるため(必須)です。						

環境因子シート

環境因子シートの記入(3章・4章)

環境因子シートの記入(3章・4章)

第3章 物理的支援と心理的支援 / 第4章 特性理解と障害観 (周囲の人たち)

項目番号	項目タイトル	視点	状況把握	チェック	補足情報
e310	家族や近い関係の物理的支援と心理的支援	物理的支援 心理的支援	物理的支援 心理的支援	○	①物理的支援: ②心理的支援: ③その他:
e410	家族や近い関係の特性理解と障害観	特性理解 障害観	特性理解 障害観	○	①特性理解: ②障害観: ③その他:
		物理的支援	物理的支援		①物理的支援:

項目番号	項目タイトル	視点	状況把握	チェック	補足情報
e310	家族や近い関係の物理的支援と心理的支援	物理的支援 心理的支援	物理的支援 心理的支援	○	①物理的支援: ②心理的支援: ③その他:
e310	家族や近い関係の物理的支援と心理的支援	物理的支援 心理的支援	物理的支援 心理的支援	○	①物理的支援: ②心理的支援: ③その他:

1. 第3章・第4章の情報把握に際しての留意点

- 注1) **物理的支援**とは「具体物による支援や身体的な支援」のこと。「具体物による支援」は例えば、絵や文字で情報伝達する、スケジュールを事前提示する、タイマーを使う、漢字にフリガナを振る、文字を読みやすい大きさにするなど。「身体的な支援」は例えば、衣服の着脱・洗髪や爪切り・物や道具を使うことなどを手伝う、わかりやすい話し方をする(危険回避のために)手をつないで歩く、など。
- 注2) **心理的支援**とは「心理的な安定につながる支援」のこと。例えば、ほめる、なぐさめる、安心させる、元気づける、気持ちを落ちつかせる、受容的に関わる、自信や自己肯定感を支える、など。
- 注3) **特性理解**とは「対象児者の生活上の困難さを見者の特性の観点から理解すること」で、例えば、課題に長時間取り組むことの難しさを注意機能の問題として理解することなど。**障害観**とは「障害に対する考え方や信念」で、拒否的(抵抗感あり)または受容的(抵抗感なし)に障害を捉えること。
- 注4) **助言が必要**とは「物理的支援、心理的支援、特性理解が不十分なために、周囲の人たちが支援的でない、または逆境的な環境となっている場合」にチェックします。**助言が不要**とは「物理的支援、心理的支援、特性理解が十分であり、周囲の人たちが支援的な環境となっている場合」にチェックします。**抵抗感あり**は「障害の存在に拒否的な場合」、**抵抗感なし**は「受容的な場合」にチェックします。

2. 第3章・第4章の補足情報に記入する内容の解説

- ①**物理的支援**: 周囲の人たちが実施している物理的支援の具体的内容や実施状況、それが支援的環境となっている程度を記載。未実施の場合は、物理的支援が特に必要な場面と具体的支援内容を記載。
- ②**心理的支援**: 周囲の人たちが実施している心理的支援の具体的内容や実施状況、それが支援的環境となっている程度を記載。未実施の場合は、心理的支援が特に必要な場面と具体的支援内容を記載。
- ③**その他**: 物理的支援や心理的支援を充実させていく上で障壁となっている状況があれば記載。
- ①**特性理解**: 周囲の人たちの特性理解の具体的内容や程度、それが支援的環境となっている程度を記載。特性理解が不十分な場合は、特に理解が必要な特性とその特性理解が必要な具体的な場面を記載。
- ②**障害観**: **抵抗感あり**では、それが支援環境の実現を阻む具体的な状況に記載。**抵抗感なし**では、周囲の人たちの障害に対する具体的なイメージ、それが支援的環境となっている具体的な状況に記載。
- ③**その他**: 特性理解の向上、障害観の転換を働きかけていく上で障壁となっている状況があれば記載。

環境因子の記入(1章・2章・5章)

項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する視点	把握状況	補足情報(当該項目の環境因子の具体的な影響)
e110a	食べ物の飲み物 生活の場下につき影響をもたらすもの	あり	①悪影響・生活場下の食品とその状態: ②好影響・生活上の食品とその状態: ③その他:
e110a	食べ物の飲み物 生活の場上につき影響をもたらすもの	あり	①悪影響・生活場下の食品とその状態: ②好影響・生活上の食品とその状態: ③その他:

※第4章の一部(障害観)および第1, 2, 5章の補足情報に記入する内容の解説
(項目によって表現は変わるが、①生活への悪影響、②生活への好影響、③その他の構成となっている)

- ①生活への悪影響: 当該環境因子の具体的な内容と生活への悪影響の具体的な状況を記載。さらに当該の悪影響を生活全体から除去している程度や範囲(悪影響の除去による生活の快適度)を記載。
- ②生活への好影響: 当該環境因子の具体的な内容と生活への好影響の具体的な状況を記載。さらに当該の好影響を生活全体で充実させている程度や範囲(好影響の充実による生活の快適度)を記載。
- ③その他: 悪影響の除去や好影響の充実を図る上で障壁となっている状況があれば具体的に記載。

「環境因子」評価項目の第一選択・第二選択

項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する視点	把握状況	補足情報(当該項目の環境因子の具体的な影響)
e110a	食べ物の飲み物 生活の場下につき影響をもたらすもの	あり	①悪影響・生活場下の食品とその状態: ②好影響・生活上の食品とその状態: ③その他:
e110a	食べ物の飲み物 生活の場上につき影響をもたらすもの	あり	①悪影響・生活場下の食品とその状態: ②好影響・生活上の食品とその状態: ③その他:

活動と参加シート

【日常生活場面行動アセスメント(レインボウ)と連動】

[RAINBOW最終版+ICF_ver2.0.xlsx]のシートタブを確認

The screenshot shows the 'Rainbow Score' section with a bar chart and a table of scores. The 'Rainbow and ICF Activity/Participation Sheet' is highlighted, showing a mapping between Rainbow items and ICF activities.

「RAINBOWの評価」と「ICF活動と参加の情報把握」との連動例

The diagram illustrates how RAINBOW items (e.g., d110) are linked to specific ICF activities and participation levels. A callout box explains that yellow cells in the Rainbow chart indicate items that are linked to ICF activities.

[A&Pシートに転写用]シート → [連動版から転写]シート

① RAINBOW最終版+ICF連動.xlsxの[A&Pシートに転写用]シートの左上角を右クリックし、シート全体をコピー

② シート全体が薄灰色と緑点線で囲まれてコピー状態となる

③ 強行支援_ID]活動と参加.xlsxの[連動版から転写]シートの左上角を右クリックし、数値保持有り[23]のマークアップアイコンを実行

④ データ転写完了

ICFシステムの把握情報から支援の手がかりを得るための分析手順

強行支援_ICFデータ分析アプリ_ver1.0.xlsm

① アプリとICFデータと同じフォルダに入れておく

② データ分析アプリの起動画面

③ ファイル読み込みウィンドウがポップアップ

④ 分析対象のファイルを選択して「開く」をクリック

セキュリティの警告がでた場合には「コンテンツの有効化」をクリック

「活動と参加」分析結果ファイル (ActRes...)

【強行支援なし(困難なし)】

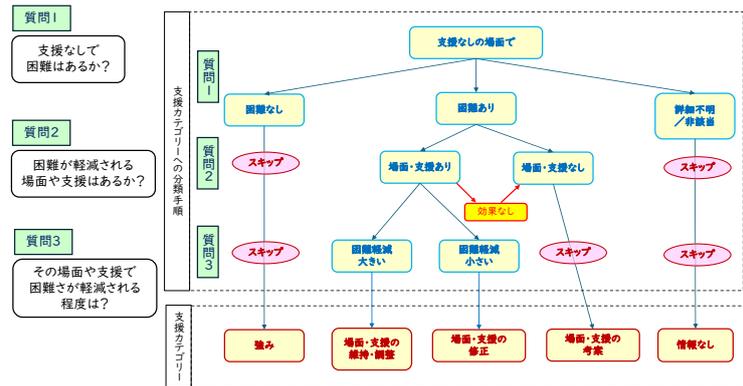
【場面や支援の検討・修正 (困難軽減の程度は小さい)】

【場面や支援の検討・修正 (困難軽減の程度は大きい)】

【情報なし (詳細不明・未読出)】

【場面や支援の考案 (困難軽減につながらず場面や支援なし)】

「活動と参加」支援カテゴリー分類のアルゴリズム



「環境因子」分析結果ファイル (EnvRes...)

環境因子分析結果表:

項目ID	項目名	特徴	影響	備考
e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)	あり	なし	①不快・使いにくい日用品と生活しづらく、筋力が弱いフォークやスプーンは持ちづらくて重たくなってしまうことが多く、その度に食事が中断してしまう。その他、細長いものを扱うのは苦手です。②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ: ③その他: フォークやスプーンは少し柔らかめのプラスチックが付けて弱くなったものを使っている。
e240	光	あり	あり	①不快な光と不快時の状態: 蛍光灯やLEDライトは光量の多少に関わらず行動が落ち着かなくなりやすい。蛍光灯の部屋はできるだけだけけて生活しており、本人が使いやすい。②快適な光と快適時の状態: 自然光や太陽光では本人の様子に特に変わらぬ。照明はできるだけ自然光に頼っている。

ICFシステムで把握した情報を QOL支援に活用する

本講義・演習で使用するワークシート

- なし

研修の流れにおける本講義の位置

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修結果について ②標準的な支援に中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な手順書 ④-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ⑤-3ICFシステムで把握した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④自覚度の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェイズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題となっている行動の観察と記録 ⑧帰属的アセスメント ⑨日常生活場面での記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ASBC記録とストラテジーシート(上段)、スキップシート(プル) FAST
フェイズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかる工夫(編成化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫帰属的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(継続的行動)の検討と実践	2.5h	ハリスク場面の整理、継続的行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活動と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段)
フェイズ3	④支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手帳書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳書(観測分析)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの観測)、チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキップシート(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェイズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補綴		各受療生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー・サブトレーナーに対して) 研修期間中、受療生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- (1) ICFの観点によるQOL支援の4つのポイント
- > ポイント① 活動と参加 強みの活用
 - > ポイント② 活動と参加 支援の維持・調整項目の有効な支援の活用
 - > ポイント③ 環境因子 QOL促進環境の提供
 - > ポイント④ 環境因子 QOL阻害環境の除去
- (2) 支援の成果全体をICFフォームでまとめる

この講義のねらい

- (1) 「活動と参加の評価」で把握された①「本人の強み」と②「本人の潜在力が発揮される有効な支援」を生活で活用していく支援の具体例を知ること。「環境因子の評価」で把握された③「QOLを促進する環境」を増やし、④「QOLを阻害する環境」を少なくしていく支援の具体例を知ること。
- (2) 支援の成果(対象児者のQOLの向上)をICFフォームでまとめて支援前後の変化を確認すること。

(1) ICFの観点によるQOL支援の4つのポイント

#活動と参加

- ① 「強み」の活動を他の生活場面で広く活用
- ② 「維持・調整」の支援を他の生活場面でも活用

#環境因子

- ③ 促進環境の提供 …… 快適な環境の提供
- ④ 阻害環境の除去 …… 不快な環境の除去

目指すのは「ご本人の困難さ(生活上のしんどさ)の軽減」

ポイント① 活動と参加

強みの活用

- ・ 「強み」の活動(ご本人のできることを)、
- ・ できるだけ多くの生活場面で活用していく工夫

「休憩」に余暇支援をつなぐ

d3551-2	記号やマーク、絵や写真によるメッセージの伝達	困難なし	スキップ	スキップ	強み	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
<p>確認 「絵を描くこと」はご本人がリフレッシュできる活動かも</p>						
e11520	一般的な遊び用の製品と用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり			①不快・使いづらい遊び用品と防げる状態 ②快適・使いやすい遊び用品と保つ状態：24色の色鉛筆、水性ボールペン、スケッチブック、糊、セロハンテープ、 ③その他
<p>応用 「絵を描くこと」はご本人が楽しめる活動と思われる。</p>						
d310a	話し言葉で伝えられたメッセージの理解	困難あり	支援あり	小さい	支援修正	①意思決定に事後的に職員の名前を明確に聞く ②お昼ご飯を食べた後はお仕事お休みですと伝える ③お昼ご飯を食べる事は理解できているが、その後お休みですは理解できない ④4〜5回繰り返すが落ち着かない状態にはならない。
<p>「おやすみ」はそこでの活動が明示されていないので、どうしてよいかわからないが、「お絵かきの時間」とすれば、楽しくてリフレッシュもできそう。</p>						

こだわり対象の除去に強みを使う

d410	指が女手の動き（手や指の巧緻動作）で物を扱うこと	困難なし	スキップ	スキップ	強み	①小さな物をつまんで持つ、引っ張る、ねじるといった動作ができる。 ② ③ ④
<p>着想</p> <p>ご本人は「服のタグをとることに」執着があり、日々支援者が止めている。</p> <p>ご本人の服は支援者がタグをとって渡しているが、他の人の服にも執着。</p> <p>衣類タグが残っていると噛み千切り、飲み込んでしまうことがある。</p> <p>ご本人はd410のスキルでタグとり執着を実行できているので、逆に、ご本人に自分の服のタグを切り取る作業をしてもらうのはどうか？</p>						
<p>活用</p> <p>他の利用者の方の服についてもタグ取りの許可が得られれば、他の人の服のタグ取り作業もご本人にしてもらえばどうか？</p>						
<p>タグとり作業ができて、周囲のタグがなくなり、制止されないでご本人のQOLは上がる。支援者もタグとり作業とご本人のタグとり行為を止める必要がなくなりQOLが上がる。</p>						

有効な支援の例 → これらを広く活用

d110	注冊する、注意して見る、見分ける、見て確認するなど目的をもって見ること	困難あり	支援あり	大きい	支援維持	①自分のものと他の区別を理解することが難しい。 ②パーソナルカラーを赤に統一し、目印にしている。黄緑色所するや場所には赤いテープを貼り、決めている。 ③種類によりパーソナルカラーを理解し、目的のものを使用することができている。 ④好きな感覚・感覚がある。毎日、支援が実施されている。
d177	意思決定すること	困難あり	支援あり	大きい	支援維持	①嫌なものから1つ選択するのは情報量が多く難しく、好きという認識で選ぶというよりは、パターンで選択してしまう。 ②パターンが固定されないよう、意思決定をする際は情報量を制限し、2つものから1つ選択する程度を繰り返している。 ③選択の経験は、他者から聞く意思の選択や、余暇活動時に目的を選択する場面で活用できている。 ④毎日、支援が実施されている。
d177	意思決定すること	困難あり	支援あり	大きい	支援維持	①買うものを決めても気が移り、コロコロと変わる。朝食決定後入店しても食べない ②選択カードを用意し事前に購入する物、食べる物を決め、購入、摂取するまでそのカードを持ってもらう ③気の移り、摂取拒絶がなくなる ④

「支援の維持・調整」の項目の支援を他の生活場面でも活用することがQOLの向上につながります。支援の維持・調整の項目が少ない場合には、学習スタイルの分析から導出された支援方法を「適応が悪くQOLが下がっている生活場面」に応用してみてください。上記の3例は、学習スタイルの視点で生活支援が展開されています。

ポイント② 活動と参加 > 支援の維持・調整 有効な支援の活用

- ① 支援の維持・調整の支援（有効な支援）を、他の場面でも活用できないかを検討し生活全体に広げていく。
- ② ここに分類された支援は、ご本人の学習スタイルに合っていることが多い。学習スタイルから支援を再検討することも有用。

使いやすいもの、楽しみにつながるもの 生活の中で触れる機会を増やす

	悪影響	好影響		
e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり	①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ： ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：毛布（エスケープ用、入眠時に使用） ③その他
e110a	食べ物や飲み物	詳細不明、非該当	あり	①悪影響・生活低下の食品とその状態： ②好影響・生活向上の食品とその状態：新商品（ジュースなど）があると確認している。外出しても、何か変わった商品がないか確認しあると嬉しそうにする。 ③その他
e1250	情報の受信や発信、コミュニケーションのための製品や用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり	①具体的女機嫌と低下の状態： ②具体的女機嫌と向上の状態：興味がある物の情報が入るため、テレビやネットを活用している。情報が手に入ると嬉しそうにし話聞かれる。 ③その他：コロナ禍では毎日の発信者人数を気にして調べていた。人数の変動で本人の調子が変わることはなかった。
e11521	遊びやすさを支援するために工夫・改造された製品と用具	なし	あり	①不快・使いづらい遊び支援用品と役立つなまき： ②快適・使いやすい遊び支援用品と役立つなまき：企業ロゴ・チャシ・広告、破損対策でラミネイト加工されたもの。 ③その他

ポイント③ 環境因子 QOL促進環境の提供

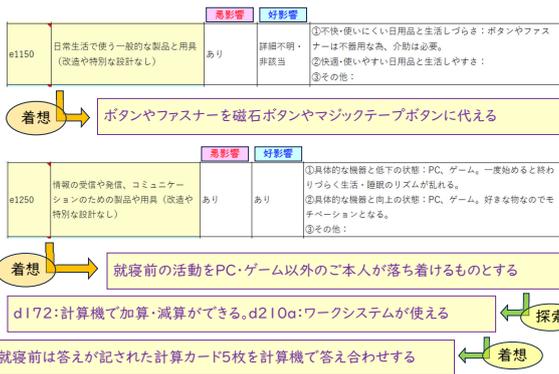
快適な感覚刺激の提供機会を増す

		高影響	好影響	
e250	音	あり	あり	①不快な音と不快時の状況：喧騒が苦手とする際には除くことがある。 ②快適な音と快適時の状況：静かな場所では穏やかな表情で体を横に揺らすなどリラックスした様子も見られる。 ③その他：
e240	光	詳細不明・非該当	あり	①不快な光と不快時の状況： ②快適な光と快適時の状況：日常のよい部屋を好んで過ごしている。 ③その他：
e240	光	なし	あり	①不快な光と不快時の状況： ②快適な光と快適時の状況：カーテンで日光をある程度遮断した薄暗い状況でリラックスして過ごしていることがある。 ③その他：
e2250	気温	あり	あり	①不快な気温と不快時の状況：酷暑(高熱)、寒寒(寒しそうな様子) ②快適な気温と快適時の状況：20~25度ほど ③その他：
e225	振動	なし	あり	①不快な振動と不快時の状況： ②快適な振動と快適時の状況：現時点では自宅の車と事業所の送迎車に限られるが、体を揺らし笑っていることも多く乗るのは好きであるように感じられる。 ③その他：

ポイント④ 環境因子

QOL阻害環境の除去

阻害的環境因子の除去を検討



(2) 支援の成果全体を ICFフォームでまとめる

対象者の概要 (例) pre (支援前)

健康状態	活動・参加 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を特定	個人因子
重度知的障害、ASD、てんかん、便秘傾向、朝起きられない	<ul style="list-style-type: none"> ・ (強み) 記号やシンボル、絵や写真の理解【d3151-2】 (絵や写真は理解できる) ・ (強み) まねをして学ぶこと【d130】 (見て学ぶことができる) ・ (支援修正) 一つの作業や活動を一人ですること【d210a】、問題を解決すること【d175】 困難あり：何をしようかわからない、作業に取り組みることができない 支援あり：プレハブでワークシステムを用いてバズル→赤線 (漫画) のスケジュール実施 効果小：活動に取り組むことができるが、24時間365日マンツーマン対応で持続困難 ・ (支援修正) 場面に応じた行動のコントロール【d250】 困難あり：他の利用者との置き方が気になり、他者への暴力行為あり 支援あり：24時間365日マンツーマンによる見守り支援 効果小：支援員の制止で暴力行為に至らないが、ご本人のQOLは上がらず、24時間365日マンツーマン対応で持続困難 ・ (支援修正) 基本的な対人関係【d710】、非公式の対人関係【d750】 困難あり：GHの共有スペースで他の利用者との関係が、加えて、他利用者への暴力行為が抑制される。 支援なし：支援員の関わりは暴力の抑制のみにとどまっている。(ご本人のQOLは上がらず、本2項目には効果なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50代男性 ・ 障害支援区分6 ・ 行動関連項目12点 ・ 発達年齢4歳3か月 ・ グループホーム (5人暮らし) ・ 生活介護事業所に通所
心身機能・構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業に取り組めない (実行機能の問題) ・ 物の位置が気になる (ルール学習の強さ) ・ 生活関連刺激の苦手さ (感覚特性、独特な注意) ・ 対人刺激の苦手さ (社会的認知、感覚特性?) ・ 見て学習することが得意 (暗黙的学習の難しさ) 	
環境因子 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を特定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阻害環境：共有スペースでの生活 (【e240, 250, 260等】生活関連刺激や対人刺激【d710, 750】への苦手さ?) ・ 睡眠薬【e110b】 ・ 促進環境：ワークシステム (【e135】仕事のしやすさを支援する製品と用具) ・ 生活介護事業所でのプレハブ設置 (生活関連刺激や対人刺激の除去) ・ 職員3名で交代しながらの個別対応 (【e340, 440】) 	

対象者の概要 (例) post (支援後)

健康状態	活動・参加 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を特定	個人因子
重度知的障害、ASD、てんかん、便秘傾向、朝起きられない	<ul style="list-style-type: none"> ・ (強み) 記号やシンボル、絵や写真の理解【d3151-2】 (絵や写真は理解できる) ・ (強み) まねをして学ぶこと【d130】 (見て学ぶことができる) ・ (維持調整→支援修正) 一つの作業や活動を一人ですること【d210a】、問題を解決すること【d175】 困難あり：何をしようかわからない、作業に取り組みることができない 支援あり：パーテーションで空間を仕切った共有スペースで、スケジュール・ワークシステム・手帳書を用いて支援 効果大：共有スペースで他の利用者との関係が、加えて、活動に取り組むことができた。ご本人のQOLも向上。 ・ (維持調整→支援修正) 場面に応じた行動のコントロール【d250】 困難あり：物の置き方が気になり、他者への暴力行為あり 支援あり：物の位置を写真で提示 効果大：物の置き場が気にならなくなった。支援員が常につかずとも暴力行為がなくなった。ご本人のQOLも向上。 ・ (維持調整→支援修正) 基本的な対人関係【d710】、非公式の対人関係【d750】 困難あり：GHの共有スペースで他の利用者との関係が、加えて、他利用者への暴力行為が抑制される。 支援あり：共有スペース空間をパーテーションで仕切った。(生活関連刺激や対人刺激の低減) 効果大：他の利用者との関係が、加えて、暴力行為はなくなった。ご本人のQOLも向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50代男性 ・ 障害支援区分6 ・ 行動関連項目11点 ・ 発達年齢4歳3か月 ・ グループホーム (5人暮らし) ・ 生活介護事業所に通所
心身機能・構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業に取り組めない (実行機能の問題) ・ 物の位置が気になる (ルール学習の強さ) ・ 生活関連刺激の苦手さ (感覚特性、独特な注意) ・ 対人刺激の苦手さ (社会的認知、感覚特性?) ・ 見て学習することが得意 (暗黙的学習の難しさ) 	
環境因子 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を特定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阻害環境：共有スペースでの生活 (【e240, 250, 260等】生活関連刺激や対人刺激【d710, 750】への苦手さ?) ・ 睡眠薬【e110b】 (全体支援で行動が落ち着いたが眠気が取れない) → 減薬で眠気消失 ・ 促進環境：ワークシステム、スケジュール、手帳書、パーテーション、置き場の整理 (物の位置を決めて写真で提示) (【e135】仕事のしやすさを支援) ・ 生活介護事業所でのプレハブ設置 (生活関連刺激や対人刺激の除去) ・ 職員3名で交代しながらの個別対応 (【e340, 440】) ・ 共有スペース空間を (パーテーションで) 仕切って生活 (【e115】日常生活での使いやすさを支援) 	

ICFフォームにまとめる際の留意点(1)

- 「健康状態」
 - 診断名やその他の医療情報を記載。
 - postでは支援によって消失した症状を見え消しなどで明示。
- 「心身機能・構造」
 - 学習スタイルや評価尺度の結果を記載。評価尺度は医療とのつながりに有用。
 - pre-postの間に把握された情報があれば付記しておく。
- 「活動と参加」
 - ①強みや維持調整など支援に活用できる項目と②修正や考案などQOLが低下している項目を記載。
 - ②について、pre(支援前)ではQOL低下の状況を記載し、post(支援後)では支援の変更内容と効果の変化、そして支援カテゴリーの変化を記載する。
 - postに記載する支援は、学習スタイルに基づくもの、機能分析で実施したもの、ICFデータを活用したものなどを含む。QOL向上に有効だった支援を特に記載。

ICFフォームにまとめる際の留意点(2)

- 「環境因子」
 - QOLの①阻害因子と②促進因子を記載。
 - ①のpreでは阻害項目とその状況を記載、postでは当該の阻害因子の除去とその結果について記載。
 - ②のpreでは促進項目とその状況を記載、postでは当該の促進因子の生活場面での幅広い活用の工夫とその効果を記載。
 - 阻害環境の除去と促進環境の充実については、学習スタイルの把握や機能分析の実施そしてICFデータによるものを含む。
 - 内容に応じて「活動と参加項目」を参照する記載を入れておくことご本人の状況の理解を助ける。
- 「個人因子」
 - 一般的にフェイスシートに記載されるような内容を記載する。

自閉症の特性と学習スタイルのアセスメント

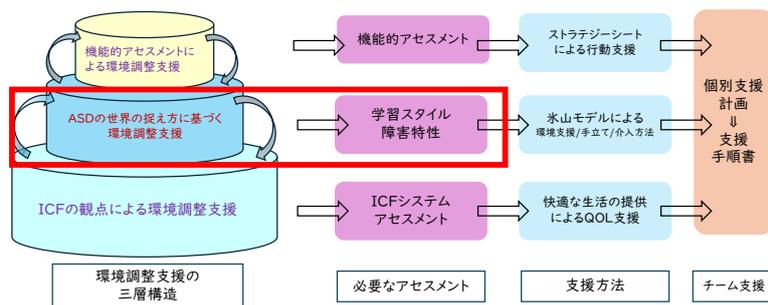
本講義・演習で使用するワークシート

- 特性&学習スタイルワークシート

研修の流れにおける本講義の位置

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ対話(オンライン/集合研修)	時間	グループ対話後の現場の実践(約1ヶ月)主な使用シート欄
	事前課題	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本理念 ③ICFシートについて	-		モデル情報・事業所情報の整理 モデル情報シート、事業所情報シート(ハイスク場面)、BPI-S ICFシートの環境因子
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	⑤自閉症の特性と学習スタイル ⑥氷山モデル ⑦チーム支援	[8/26 WEB] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先課題の確認	2.5h	支援現場・モデルの様子動画撮影 特性&学習スタイルWS、氷山モデルWS アセスメントパッケージ(+ICFシートの活動参加)
フェイス1	(2)特性理解とアセスメント-集合研修	⑧課題となる行動の観察と記録 ⑨機能的アセスメント ⑩日常生活場面での直接観察	[9/27、10/1 集合] モデルの紹介と質疑(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの評価場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーS(上)、スキッチャープロット(プレ) FAST
フェイス2	(3)課題行動に対する支援の検討(行動の分析)	⑪見てわかる工夫(構造化) ⑫コミュニケーションプログラム ⑬機能的アセスメントに基づく支援	[10/29 WEB] 優先課題(標的行動)の検討と仮説立て	2.5h	ハイスク場面の整理、標的行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルWS、構造化WS、Co指導計画書、ストラテジーS(下) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイス3	(4)支援プランの立案と実施	⑭支援プランの立案 ⑮支援手順書の作成と実際の対応	[11/26 WEB] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(課題分析)の作成と実施 支援場面の動画撮影①、実践報告書家の作成(ICFシートの経過)、チーム支援実行状況チェックシート②
フェイス4	(5)支援プランの見直し(PDCAサイクル)	⑯実施後の評価と改善	[12/24 WEB] 現場実践の途中経過報告(仮説・検証)	2.5h	支援場面の動画撮影②、実践報告書の作成 スキッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
	(6)実践報告会		[2/10 WEB] 現場支援の実践報告	3h	
フェイス5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの案内		
	補講		各受講生の事業所に訪問する、オンラインで聞き取り(トレーナー・サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- 自閉症の特性と学習スタイル
- 自閉症の学習スタイルアセスメント(行動観察)

この講義のねらい

- ねらい1(知識)：自閉症の特性と学習スタイルを学んでいきます
- ねらい2(技術)：自閉症の学習スタイルをアセスメント(行動観察)によって把握する技術の獲得を目指します

自閉症の特性と学習スタイル



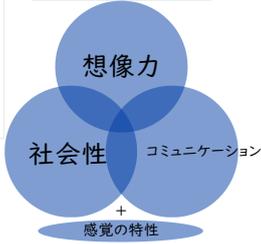
特性理解から
学習スタイルへ

(復習) 障害特性

強度行動障害支援者養成研修テキストより

自閉症とは、
①社会性の特性
②コミュニケーションの特性
③想像力の特性
④感覚の特性
を持つ発達障害である。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、成人期に症状が顕在化することもある。
中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

自閉症の特性



情報処理の仕方が異なる
(学習スタイルの違い)

●見えすぎてしまう脳

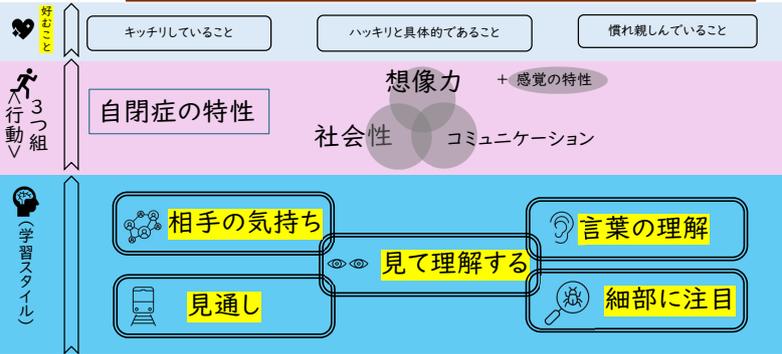
左:定型発達の脳(バランス型)
見た物の判別、見えない概念の想像、言葉による共有、記憶の引き出し、考えること全体のバランスが優先される

右:自閉症の脳(視覚処理に特化)
見える物に焦点が強く当たり、具体的に視覚的に考える。見えないもの(言葉・概念・意味)の理解は弱い

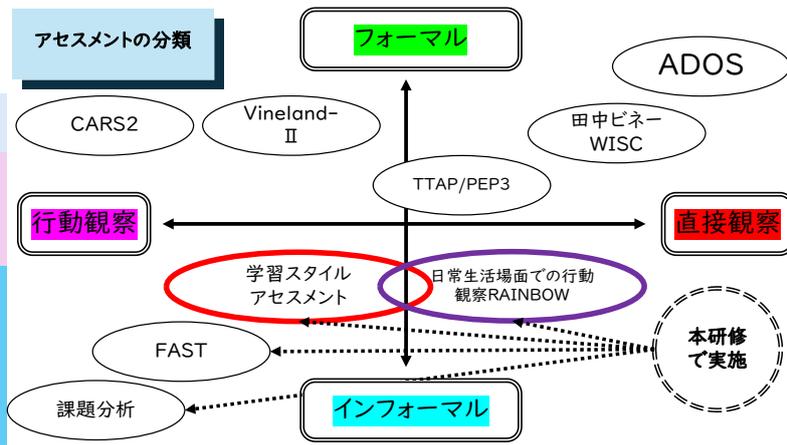
Temple Grandin (2010) TED The world needs all kinds of minds



特性と学習スタイルの関係



アセスメントの分類



行動上の特性から 学習スタイルへ

自閉症の特性&学習スタイルワークシート

利用者名: _____ 全体的な使い方

チェックした日時 (A): _____

行動上の特性 (三つ組)

- 社会性の特性 人や集団との間わりに難しさがある 状況の理解が難しい
- コミュニケーションの特性 理解が難しい 発音が難しい やりとりが難しい
- 想像力の特性 自分で予定を立てることが難しい 変化への対応が難しい 物の一部に対する強い興味

行動上の特性をチェックしてから



- 学習スタイル(世界の捉え方・感じ方)のアセスメントすることで
- 自閉症の行動の理由を仮説立てる
- 自閉症の目線で世界を捉え直してみる

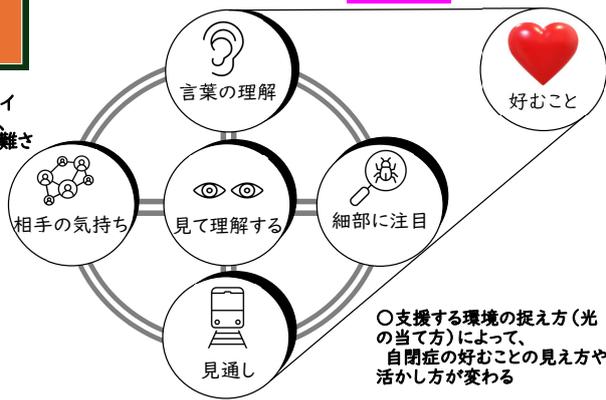


自閉症の学習スタイル

●自閉症の学習スタイルから好むことへ

○自閉症の学習スタイルは光と影のように、「強みの側面」と「困難な側面」がある

○それぞれの学習スタイルは相互に関係あっている



○支援する環境の捉え方(光の当て方)によって、自閉症の好むことの見え方や活かし方が変わる

「見て理解する」



目に見えないものは分かりにくい(言葉、時間、暗黙のルール、文脈など)
「見て理解する」学習スタイルは、具体的に視覚的に理解すること



●見えれば分かる

見て理解する(困難さの側面)	解説	二つの大きさ	見て理解する(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 見えない言葉や時間などの理解の困難さ 			<ul style="list-style-type: none"> 具体的な指示を理解する強さ 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 一般化の困難(人や場所の応用が難しい) 			<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとの記憶の強さ、同じ場面で同じ行動をとる 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「細部に注目」



「細部に注目」する学習スタイルは、強く深いフォーカス(焦点)に代表されます。
復習:「筒メガネ体験」



●情報整理で高い集中

細部に注目(困難さの側面)	解説	二つの大きさ	細部に注目(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 注目の狭さ(全体が見えない) 			<ul style="list-style-type: none"> 興味関心のあるものに強く焦点があたる 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 気が散りやすい 			<ul style="list-style-type: none"> 整理された環境で優れた力を発揮する 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 注意の切り替えが難しい 			<ul style="list-style-type: none"> 好きなことによく取り組む 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「見通し」



「見通し」とは、予測を立てること・段取りを考えて行動すること・行動を開始して継続すること

●繰り返しが得意



見通し(困難さの側面)	解説	二つの大きさ	見通し(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 見通しが持てないと不安・混乱が強くなる 			<ul style="list-style-type: none"> 同じ状況で繰り返すこと(ルーティン)が得意 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理し順序だてることや変更に応じることが難しい 			<ul style="list-style-type: none"> パターン的に取り組むことに慣れる 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて終わることは難しい 			<ul style="list-style-type: none"> 無くなったら終わりの理解 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 自発的に次にやるべき活動に移ることに難しさ 			<ul style="list-style-type: none"> 見て次の活動を理解する 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 時間の管理が難しい 			<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの決め事に律儀である 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「言葉の理解」



そもそも言葉の理解が難しい。言葉を聞くと、記憶や映像が浮かぶ人も。
言葉のニュアンスなどの曖昧な概念の理解に難しさ。



●見えれば分かる/伝わる

言葉の理解(困難さの側面)	解説	二つの大きさ	言葉の理解(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉の理解の困難 			<ul style="list-style-type: none"> 見て理解する 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 表現コミュニケーションの難しさ 			<ul style="list-style-type: none"> 伝えようとする気持ちがある/行動で示す 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 意味/抽象的な意味理解の困難、字義通りの解釈 			<ul style="list-style-type: none"> 具体的な指示・具体物の理解 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「相手の気持ち」



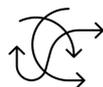
他者の視点に立って物事を考えることが難しい(人と集団との関わりに難しさ)



●ルールや気持ちが見えれば分かる

相手の気持ち(困難さの側面)	解説	二つの大きさ	相手の気持ち(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 相手とのやりとりの開始/維持の難しさ 			<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする場面では人に意識を向けやすい 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 他者の視点を取ることの困難 			<ul style="list-style-type: none"> 我が道をいく姿勢や行動 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 暗黙のルールの理解の難しさ 			<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に理解できるルールを守る 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「感覚の問題」



感覚処理のプロセスに問題を抱えている。復習:「感覚の体験」



●過敏さは配慮・鈍感さは好む刺激の入力へ

感覚の問題	解説	二つの大きさ	感覚の問題(強みの側面)	手立ての可能性
<ul style="list-style-type: none"> 感覚刺激の過敏さ、または鈍感さ 			<ul style="list-style-type: none"> 苦手な感覚刺激/好む感覚刺激が分かる 	
(場面/行動):			(場面/行動):	
<ul style="list-style-type: none"> 見えてしまう環境への対処の困難 			<ul style="list-style-type: none"> 見える力の強さ、聞こえる力の強さ 	
(場面/行動):			(場面/行動):	

「好むこと」

- キッチリしていること
 - ・いつも同じ場所にそろっていること
- ハッキリしていること
 - ・曖昧さがなく、明解なこと
- 慣れ親しんでいること
 - ・いつも同じことで安心が得られる

好むこと/支援のアイデア 解説

□ キッチリ/ハッキリ/慣れ親しんでいることについて支援に活用できるアイデアを箇条書きしてください

自閉症の学習スタイルアセスメント (行動観察)

演習

行動から学習スタイルの把握へ



特性&学習スタイルチェックシート
動画学習

①【困難さの側面】当てはまる項目にチェックを入れ、行動を記述しましょう
②【強みの側面】当てはまる項目にチェックを入れ、行動を記述しましょう
③【好むこと/支援のアイデア】を記述しましょう

「見て理解する」

見て理解する (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
 - ①②③ 生活全般/見えない情報 (言葉・周囲の状況) 理解が難しい
- 一般的な困難 (人や場所の応用が難しい)
 - ④ 帰宅前/同じ場面ごとで決まった行動

見て理解する (強みの側面)

- 具体的な指示を理解する強さ
 - ①③④ 移動・食事・中りピンガ/信号やカレンダー、スイッチを理解
- 場面ごとの記憶の強さ、同じ場面でも同じ行動をとる
 - ①③④ カレンダー確認/数字やカレンダーの理解

「細部に注目」

細部に注目 (困難さの側面)

- 注目の狭さ (全体が見れない)
 - ① 歩行中② 信号/周辺全体を見渡せない
- 気が散りやすい
 - ③ 食事中/カレンダー (規則性) に反応してしまう
- 注意の切り替えが難しい
 - ④ 食事中/カレンダー (規則性) にフォーカスが長く強く

細部に注目 (強みの側面)

- 興味関心のあるものに強く焦点があたる
 - ③ 食事中/カレンダーを理解
- 整理された環境で優れた力を発揮する
 - 不明: 継続して情報を集める (例: 作業場面など)
- 好きなことによく取り組む
 - 不明: 継続して情報を集める (例: 余暇: 趣味など)

「見通し」

見通し (困難さの側面)

- 見通しが持てない不安・混乱が強くなる
 - ① カレンダー/問題解決の行動が取れない
- 情報を整理し利用できると必要に応じて活用が難しい
 - ② 休日の余暇/同じ行動してよいから分からない (信号/走り出したら急には止まれない)
- 状況に応じて移行すること体質しい
 - ③ 信号/走り出したら急には止まれない
- 自発的に次にやるべき活動に移ることの難しさ
 - ④ カレンダー/人の介入を持ち続けてしまう
- 時間の管理が難しい
 - ⑤ 信号/急になる予備が弱く黄色は走り出してしま

見通し (強みの側面)

- 同じ状況で繰り返し出すこと (ルーティン) が得意
 - ⑥ 帰宅後⑥ 帰宅前/決まった手続き (消灯・手拭き)
- パターン 前に取り組むことに慣れる
 - ⑦ カレンダー確認/数字やカレンダーの理解
- 無くならなかったら終わりの理解
 - ⑧ カレンダー確認/信号/指号/横断歩道を理解/めくって終わりを理解
- 見て行動する
 - ⑨ カレンダー⑨ 信号/指号/横断歩道を見て行動する
- 自分の決める事に自信がある
 - ⑩ 家を出る時/スイッチをON-OFF

「言葉の理解」



手袋が袋 (をください)



言葉の理解 (困難さの側面)	解説	言葉の理解 (強みの側面)	自立の可能性
<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉の理解の困難 <ul style="list-style-type: none"> ① 食事/カミング/抽象語の理解が難しい言葉の理解 (場面/行動): ① そのものが困難 表現コミュニケーションの難しさ <ul style="list-style-type: none"> ② 自販機/地名など伝えてよいか分からない(ない)という状況説明のみ 意味/抽象的な意味理解の困難、字義通りの解釈 <ul style="list-style-type: none"> ③ 食事/抽象語の理解(美味しい?など)が困難 	<p>④ 自販機/場所とお財布(状況)を見て判断する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見て理解する <ul style="list-style-type: none"> ④ 自販機/場所とお財布(状況)を見て判断する 伝えようとする気持ちがある/行動で示す <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 帰宅前/手袋が袋がないことを伝えようとする(身振りあり) 具体的な指示・具体物の理解 <ul style="list-style-type: none"> ⑥ 自販機/活動の意味理解を経験で学んでいる 	<p>④ 自販機/人への意識がある</p> <p>⑤ 歩行中/周囲の状況に影響を受けない</p> <p>⑥ 信号機/信号の意味理解はある様子</p>

「相手の気持ち」



相手の気持ち (困難さの側面)	解説	相手の気持ち (強みの側面)	自立の可能性
<ul style="list-style-type: none"> 相手とのやりとりの開始/維持の難しさ <ul style="list-style-type: none"> ① 食事/自販機/自分からやり取りを始めるられないまま (場面/行動): ① た応答のみ 他者の視点を取ることの困難 <ul style="list-style-type: none"> ② 歩行中/信号/運転手・ガイドさんの気持ちを推測できない 暗黙のルールの理解の難しさ <ul style="list-style-type: none"> ③ 信号/赤信号に気づけない 	<p>④ 自分が必要とする場面では人に意識を向けやすい</p> <p>⑤ 自分が道をいく姿勢や行動</p> <p>⑥ 信号機/信号の意味理解はある様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする場面では人に意識を向けやすい <ul style="list-style-type: none"> ④ 自分が必要とする場面では人に意識を向けやすい 我が道をいく姿勢や行動 <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 歩行中/周囲の状況に影響を受けない 視覚的に理解できるルールを守る <ul style="list-style-type: none"> ⑥ 信号機/信号の意味理解はある様子 	<p>④ 自分が必要とする場面では人に意識を向けやすい</p> <p>⑤ 歩行中/周囲の状況に影響を受けない</p> <p>⑥ 信号機/信号の意味理解はある様子</p>

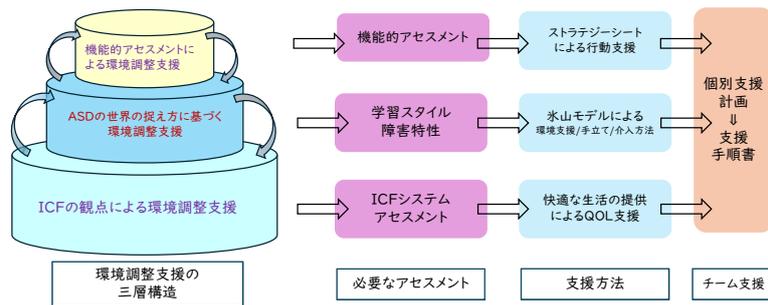
冰山モデル

- 本講義・演習で使用するワークシート
- 冰山モデルワークシート

氷山モデル MX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議 (オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成 研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための 基本的な情報 ④-ZICFシステムのデータ入力と 分析方法 ⑤-ZICFシステムで記録した情報を QOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスと チーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤ 冰山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・ 優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、冰山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ 1	②特性理解とアセ メント:集合研修	⑦課題となる行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面の記録観察	[9/27、10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート(上段)、スキッチャープロット(プル) FAST
フェーズ 2	③支援の検討 (行動の分析)	⑩見てわかる工夫(最適化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先場面(目標行動)の検討と 実践立て	2.5h	ハリスク場面の整理、目標行動の動画撮影(Before/After) 冰山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ 3	④支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(観覧合符)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成(ICFシートの記録)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ 4	⑤支援の見直し (PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実況の途中経過報告 (質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ 5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ 5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受援者の事業所に訪問する。オンラインで取り取り(トレーナー・サブトレーナーで対応) 研修期間中、受援者への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

冰山モデル

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- 冰山モデルに基づいた行動理解
- 現場で取り組む強度行動障害支援の5つのフェーズ(冰山モデルマトリクス)
- 演習
- まとめ

この講義のねらい

- 冰山モデルをベースに、行動障害対応を5つのフェーズに整理し、現場支援の取り組みを明らかにする
- 中核的人材養成研修における「グループ討議」と「現場の実践」の全体像を把握する

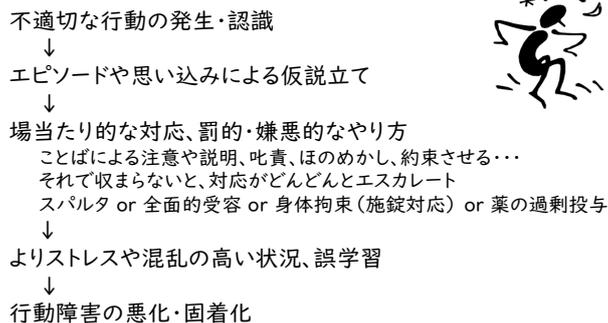
冰山モデル

- 自閉症の人が示す行動を、自閉症の特性・学習スタイルから理解し、有効な支援を提供するための枠組み
- 多くの場合、観察された「不適切な」行動、「課題となる行動」は、自閉症の特性・学習スタイルに配慮されない対応・状況で引き起こされている

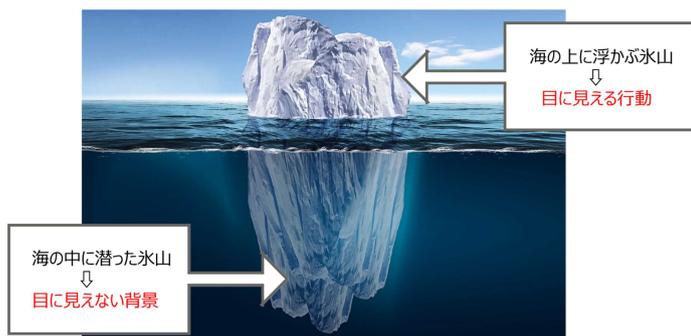
自閉症の人と周囲との相互作用



悪循環の構図



冰山モデル



冰山モデル

<https://teacch.com/wp-content/uploads/sites/553/2022/09/TEACCH-Iceberg-english-2022.7.27.pdf>



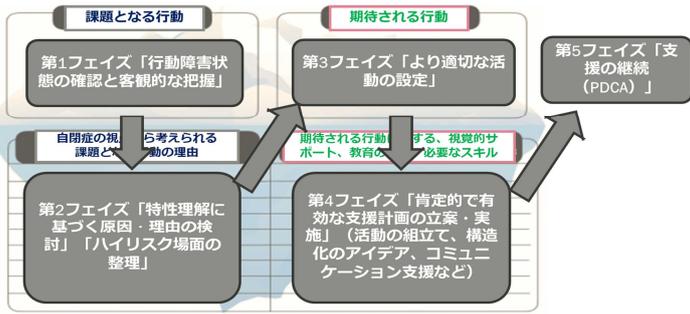
行動を自閉症の特性から理解する

- 「ふざけて、まわりにある物をどんどん投げてしまいます」
 - (仮説) 目の前にある物に衝動的に反応しやすい、視覚的な違和感に耐えられない、どこに片づけていいかわからない
- 「いくら言っても言うことを聞きません」
 - (仮説) 言葉の意味がわからない、何をしてもいいかわかっていない、オウム返しで返事をしよう、「わかりません」と聞けない
- 「女の人に興味があって、髪の毛の匂いを嗅ぎにきます」
 - (仮説) 匂いに敏感、「女性」を意識しているというよりも「髪の毛の匂い」が気になっている可能性、周囲が過反応するとそこに焦点が当たってしまう、ほかにやることがない、社会的な関係を理解することが難しい。

冰山モデル

- 自閉症の人が示す行動を、自閉症の特性・学習スタイルから理解し、有効な支援を提供するための枠組み
- 多くの場合、観察された「不適切な行動」「課題となる行動」は、自閉症の特性・学習スタイルに配慮されない対応・状況で引き起こされている
- 水面下に潜む原因・理由について<仮説-検証>作業を続け、「課題となる行動」を予防・軽減する
- 自閉症の人の特性・学習スタイルと個別のアセスメントに基づいて、より「期待される行動」を具体的に設定する
- 曖昧で漠然とした期待は、むしろ本人の不安・混乱を助長する
- 「期待される行動」を教える(支援する)ための具体的な手立てを計画し、実施する
- 構造化のアイデア、コミュニケーションプログラムなど
- PDCAを続ける

冰山モデルマトリックス



第1フェーズ 「行動障害状態の確認と客観的な把握」



- 優先順位の整理
- それは、組織的に対処すべき「課題となる行動」か？
- 緊急性、自他への影響、学習の可能性、成功の見通し（実際に取り組めるか）など
- 他に取り組むべき課題はないか？
- ターゲットとなる行動を客観的に把握する
 - 経過
 - 行動の頻度、強度、場面、周囲との相互作用
 - Ex) スキャッタープロット、ABC分析、課題分析表

第2フェーズ① 「特性理解に基づく原因・理由の検討」



- その人はどんな人か？
 - 成育歴、家族関係
 - 今の作業場やホームでの暮らしぶり
 - 特に、落ち着いているときは・・・
 - 個別のアセスメント情報（好きなこと・嫌いなこと、できること・難しいこと、得意なこと、苦手なこと）
 - 自閉症の特性、学習スタイル
 - 知的レベル、他の疾患の可能性
- その人のことをよく知る作業を続ける
- その現場はどうなっているか？
 - 物理的な生活環境・作業環境、スタッフ体制、支援の考え方、実際の関わり・・・

第2フェーズ① 「特性理解に基づく原因・理由の検討」



- 行動の原因・理由を自閉症の特性からさぐる
- 客観的なデータに基づいて、問題行動をめぐる周囲・環境との相互作用を明らかにする
 - 悪循環の構図を可視化する
 - しばしば周囲の無理解や無理な要求、場当たりの対応、劣悪な物理的環境によって、問題行動は引き起こされる
- 本人の立場に立って考える
 - 「問題提起行動」である
 - 本人のストレスと、不安・混乱・フラストレーションが潜んでいる可能性

第2フェーズ② 「仮説-検証の作業(1)」



- 場所の問題: 例) 騒がしい、トイレが気になる、広すぎて落ち着かない
- スキルの問題: 例) できないことを要求されている
- 理解の問題: 例) わからない指示、ことばかけ
- 表現の問題: 例) イヤだ、困っている、うまく伝えられない
- やり取りの問題: 本人とスタッフでの言葉でのやり取り(予定の確認、質問、説明など)
- 混乱や不安: 例) 見通しが無い、何をすべきかわからない、やることがない
- 場面や物へのパターンの行動、誤学習
- 興味のない活動、好きな活動が止められない
- 感覚の問題: 例) 不快な刺激、自己刺激行動
- 過去の不快な経験や失敗体験
- 身体症状や精神疾患の可能性 など

「仮説-検証の作業(2)」

- 場所の問題⇒落ち着いて過ごせる場所を用意する
- スキルの問題⇒できることを要求する
- 理解の問題⇒わかるように指示を出す・伝える
- 表現の問題⇒適切な表現の仕方を教える
- 混乱や不安⇒スケジュールを用意する、場所を整理する、今ここで何をすればいいかを明確にする
- こだわり、パターンの行動、誤学習⇒こだわりの対象となるものを物理的に整理する、場面を変えてよりよい行動を教える
- 興味のない活動⇒好きな活動を提供する
- 好きな活動が止められない⇒「終わり」を教える
- 感覚⇒感覚刺激を調整する
- 過去の不快な経験や失敗体験⇒成功体験を増やす
- 身体症状や精神疾患の可能性⇒医療との連携

第2フェイズ③ 「ハイリスク場面の整理」



- 当面の対応として、不適切な行動を予防・軽減する
 - 本人(たち)のストレスを減らす
 - 本人(たち)の不安・混乱・フラストレーションを解消する
 - 本人(たち)が安心・安定して過ごせることに取り組む
 - 特定の引き金を避ける
- 場所、活動、見通し、本人とのやり取りを整理する
 - 過ごしやすい場所
 - 適度な活動、好きな活動
 - 見通しが持っている
 - 本人に合わせたやり取り etc

ハイリスク場面のチェックシート

ハイリスク場面のチェックシート			
対象者:	() ()	場所:	実施日: / / 記録者:
チェック項目	よくある例	現状	当面の予防・改善プラン
①物理的環境	特定の場所に居られない、じっと出来ない		
②感覚刺激	特定の感覚刺激(音、水など)に過反応		
③気になるもの・人	特定のものの他人に過反応にこだわりの行動		
④見通しのなさ	持てない、何度も予定を聞く、次の活動を見逃す		
⑤適度な活動がない	目は動かない行動が出来る、自分でうまく遊べない		
⑥周囲の伝え方、かかわり方	高聲指示で遠慮、かかわるスタッフが複数行動		
⑦本人の表現方法	嫌なときに逃げ、黙って物を取る、かんしゃ表現		
⑧失敗経験(無理な設定)	作業がうまくできず材料を捨てる、機嫌が悪くなる		
⑨その他	好きな活動が止められない、儀式的な行動、行動の停止		

★当面の予防・改善プランを実施するにあたって、追加の検討事項

第3フェイズ 「本人に合った、より適切な活動の設定」

- 適切な活動、期待される行動の設定
 - 特性・学習スタイルを考慮する
 - アセスメントに基づく
 - 肯定的に表現する
 - 「ゴミ箱の空き缶をあさらない」
 - ⇒「空き缶のシールを台紙に貼る」
- その人の意図・目的に合わせて活動を整理する
 - 周囲の人々や状況にも働きかける
 - 行動が起きる前から介入する
 - 長期的・肯定的に支援を続ける(PDCA)



第4フェイズ 「肯定的で有効な支援計画の立案・実施(1)」

- より適切な活動の組立て
- 活動のテーマを具体的に決める
 - 本人、家族の希望
 - 能力的にできそうなこと(個別のアセスメント)
 - 実用性・機能性
 - 成功の可能性、安全、緊急性
- どこでおこなうか、場所を用意する
 - 十分な物理的整理統合をおこなう
 - 最初は、活動と場所を1対1にしておく
 - 関係のない道具や材料は片付けておく
- 盛りだくさんにならないように
 - 正しいやり方を体験できるように
 - 失敗ややり直しにならないように
 - スモールステップで取り組む



第4フェイズ 「肯定的で有効な支援計画の立案・実施(2)」

- 活動の内容を明確にする
 - <始まり>と<終わり><流れ・手順>
 - 事前に、支援者のほうで実際にやってみる
 - 課題分析表の作成
- 構造化とコミュニケーション支援
 - ルーティン、ワークシステムとマテリアルストラクチャーの組み合わせ、道具の工夫、補助具の用意
 - スケジュールで「いつ(どこで)するか」伝える
 - 本人の意思確認、困ったときの手立て
- 本人に実際にやってもらう
- アセスメントは常に必要
- 自立のための教授と再構造化を続ける
- できるようになったら、日常生活の中に組み込んでいく



第5フェイズ 「支援の継続(PDCA)」

- 行動の定義、経過・傾向の把握、周囲との相互作用、個別の評価
 - 氷山モデルによる仮説立て
 - 介入計画 PLAN
 - プログラムの実施 DO
 - 実施後の評価・検証 CHECK
 - ACTION
- 自閉症を理解し、適切な行動に焦点を当て、PDCAを繰り返す
 • プログラムは個別化され、本人/周囲(環境・関係者)の双方に働きかける
 • 目標は、「生活の質の向上」「自立と社会参加」「ノーマライゼーションの実現」



演習

第2フェイズ② 「仮説-検証の作業(1)」



- ・場所の問題:例)騒がしい、トイレが気になる、広すぎて落ち着かない
- ・スキルの問題:例)できないことを要求されている
- ・理解の問題:例)わからない指示、ことばかけ
- ・表現の問題:例)イヤだ、困っている、うまく伝えられない
- ・やり取りの問題:本人とスタッフでの言葉でのやり取り(予定の確認、質問、説明など)
- ・混乱や不安:例)見通しが無い、何をすべきかわからない、やることがない
- ・場面や物へのパター的な行動、誤学習
- ・興味のない活動、好きな活動が止められない
- ・感覚の問題:例)不快な刺激、自己刺激行動
- ・過去の不快な経験や失敗体験
- ・身体症状や精神疾患の可能性 など

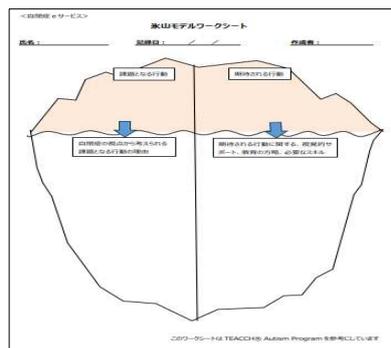
さんの行動について(1)

1. 「課題となる行動」は、いつから始まりましたか? 何かきっかけはありましたか?
2. その行動は、どういう場面・どういときによく起こりますか?
3. その行動に対するこれまでの対応は効果がありましたか?
4. その行動の理由・原因を、自閉症の特性から検討しなさい
5. ふだんから、不快な刺激にさらされていませんか。「課題となる行動」が起きやすいハイリスク場面をすぐに整理しなさい。
6. ふだんから、本人は見通しのある過ごし方ができていますか。
7. スケジュールやワークシステム、視覚的な手がかりは、その人に適切に個別化されていますか。
8. 本人は、必要なことを他の人に伝える適切な方法をもっていますか。

モデルのシナリオ (※モデルは架空の人物です)

- ・キミコさんは30代、地域生活が難しくなり入所施設に移り、数年がたっています。重度の知的障害があり、自閉症と診断されています。入所施設に入った当初から不安定になることがあり、大きな声をあげたり、力いっぱい壁を叩いたりすることがあります。
- ・落ち着いているときは、スタッフからの声かけに返事をし、日常的な指示にはすくに応じてくれます。簡単な話し言葉があり自分の名前を書いたりできるため、多くのスタッフが「キミコさんはことばがわかっている、日常会話ができる」と捉えています。
- ・平日の日は施設内の作業場で、簡単な内職作業をしています。メンバーのみんなと一緒に作業をしていますが、他のメンバーとの交流はほとんどありません。自分がおこなっている部品を取られたり作業の邪魔をされたりして大声をあげることがあるので、そのときはスタッフが気づいて相手とのかわりを調整しているとのことですが、キミコさんが他のメンバーが使っている道具や材料を黙って持つていくこともあり、それでトラブルになることもあります。
- ・キミコさんが不調になりやすいのは、作業が終わって居住棟で過ごす夕方の時間帯と休日だとスタッフは言います。居住棟に戻ってすぐに入浴になりますが、そのあと夕食までの時間をうまく過ごせません。何度も食堂に行って夕食の準備の様子を確認しています。しまいに食堂のドアを激しく叩いて入室をアピールすることもあります。
- ・休日も、平日と同じように朝から着替えを済ませ、作業用のカバンを持って出かける用意をしています。スタッフが「今日は作業はお休みですよ」と言われると作業用のカバンを片づけるのですが、今度は何度も玄関に行き、外の駐車場の様子を見ては「お出かけ、お出かけ」と訴えてきます。「今日は10時に出発します」「今日はドライブはありません」などその都度スタッフが伝えるのですが、納得できず、怒って大声をあげるのことでして。
- ・スタッフは、夕方や休日のキミコさんの過ごし方も見直したいと思っています。休日はドライブ以外特に設定された活動がありません。キミコさんが取り組める余暇や家事活動を見つけていきたいとスタッフは考えています。

冰山モデルワークシート



さんの行動について(2)

9. その行動に代わる、「期待される行動」を具体的に設定しなさい。
10. それは個別化されたアセスメントに基づいて、本人が無理なく取り組める内容になっていますか。
11. その行動は、本人の興味や得意なことに基づいて決められていますか。
12. 「期待される行動」が安定した時、より適切な行動を、他の状況へ般化していく計画がありますか。
13. 生活全体として、身体を動かす十分な機会を含め、さまざまな活動が用意されていますか。また、リラックスできる場面がありますか。
14. その行動に対応することで、本人と周囲の生活がどのように改善されますか。目標とすべき生活のイメージは?

まとめ

チーム支援

- 本講義・演習で使用するワークシート
- チーム支援実行状況チェックシート

講義・演習の内容とねらい

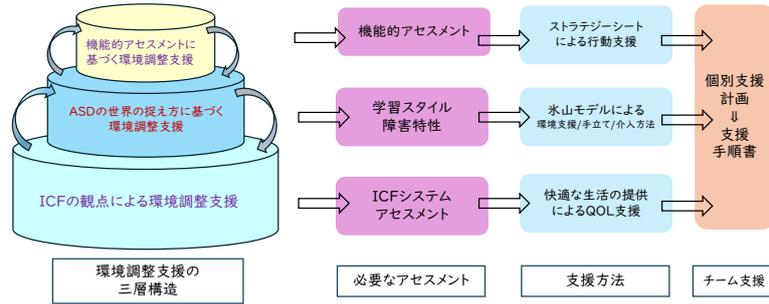
この講義の内容

- ・ チーム支援での難しさとは
- ・ 実行状況チェックシートの概要と説明
- ・ まとめ

この講義のねらい

- ・ チーム支援を活かすポイントについてかんがえる
- ・ チーム支援の実行状況を把握し、取り組む

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



研修の流れにおける本講義の位置

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月)主な使用シート類
	準備編	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本理念 ③一層歩的な支援を実施するための基本的な仕組み ④2-ICFシステムでのデータ入力と分析方法 ⑤3-ICFシステムで把握した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例情報等の整理 モデルの基本情報シート(ハリスク編)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
フェイズ1	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④自覚の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む環境支援の状況・優先順位の整理	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 研修者学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活場面アセスメントシート(1-ICFシートの活用-参加)
フェイズ2	(2)特性理解とアセスメント-集合研修	⑦問題となっている行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面の直接観察	[9/27,10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの研修場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート(上版)、スキッチャーシート(下版) FAST
フェイズ3	(3)支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかる工夫(構造化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先課題(観る行動)の検討と実践	2.5h	ハリスク場面の整理、観る行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、初期と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実践計画書、ストラテジーシート(下版) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイズ4	(4)支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実践計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(課題分析)の作成と実践 支援場面の動画撮影②、実践報告書(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ5	(5)支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実践の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(前期-状態)	2.5h	支援場面の動画撮影③、実践報告書の作成 スキッチャーシート(改訂)、ICFシート(改訂) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ6	(6)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェイズ7	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
総括			各受講生の事業所に訪問する、オンラインで聞き取り(トレーナー-サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

こういうことはありませんか??

- 研修受講者のみに負担。課題・宿題に追われる。。。
- 日中活動スタッフと夜間担当スタッフとで、情報の共有がしにくい
- 話し合いはするものの(プレスト)で終わってスッキリ。でも、自分たちの行動変容には繋がらない。PDCAサイクルがまわらない
- 法人・組織の哲学・理念が共有されていないので、ばらばらな意見になりがち
- 「課題となる行動」ばかりに目がいきすぎてアイデアが出にくい などなど

実行状況チェックシートの目的

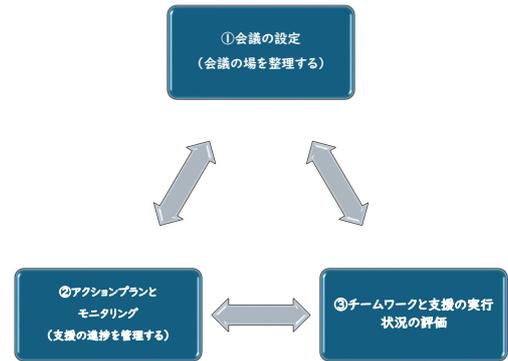
受講者(=中核的人材)がグループ討議の時間でまとめた意見・プランを、**現場に戻ってチームで共有する仕組み**を作る。
(3回目以降から実施する)



チームの意見をすいあげ、
限られた時間の中で合意形成をしたかどうか

実行状況チェックシートについて

実行状況チェックシートの概要 (中核的人材が意識すべき項目)



項目内容について

項目内容① 会議の設定(会議の場を整理する)

1	チームに必要なメンバーの勤務等を調整し、会議を設定したか。	<input type="checkbox"/>
2	会議の参加者がポジティブな討議ができるようなグラドルール(他者が発言中は口を挟まない、否定をしないなど)を明示したか。	<input type="checkbox"/>
3	会議にあたって、会議の目的と終了時間を参加者に伝えているか。	<input type="checkbox"/>
4	参加者全員が会議で発言できるように会議をコントロールしているか。	<input type="checkbox"/>
	・個人ワークの時間を設ける	
	・全体共有の時間を設ける	
5	終了時、会議の参加者の意見を整理しまとめたか。また、会議に参加していないチームメンバーにも情報を共有するようにしているか。	<input type="checkbox"/>

項目内容② アクションプランとモニタリング (支援の進捗を管理する)

6	支援の手立てや記録の方法を決める際は、具体的に、実行可能性や予測される効果などを検討し、参加者で確認したか。	<input type="checkbox"/>
7	支援の手立てを決める際は、『いつ・だれが・何を行うのか』を行動レベルで決め、手順書等の作成につなげたか。	<input type="checkbox"/>
8	実施記録については『いつ・どのような方法で共有するか』を確認したか。	<input type="checkbox"/>
9	支援の進捗管理のために、次回の会議の設定や、必要なタイミングで他のスタッフに確認することなど、適時リマインドをおこなっているか。	<input type="checkbox"/>
10	支援を実行した際、一定の経過を見た後、振り返りの会議を設定しているか。	<input type="checkbox"/>
11	振り返りの会議では記録を確認し、その結果に影響しているポジティブな要因やネガティブな要因、関連する課題などを検討し整理したか。	<input type="checkbox"/>

項目内容③ チームワークと支援の実行状況の評価

12	支援の取り組みを通して、常にチームのメンバーの尽力を褒め、チームでのまとまりを高めているか。	<input type="checkbox"/>
13	支援の実行状況を確認し、次のアクションについてチームとして方向性を共有できているか。	<input type="checkbox"/>

全体の項目 負担量を軽減する目的で、13項目までを上限

1	チームに必要なメンバーの勤務等を調整し、会議を設定したか。	<input type="checkbox"/>
2	会議の参加者がポジティブな議論ができるようなグラウンドルール（他者が発言中は口を挟まない、否定をしないなど）を明示したか。	<input type="checkbox"/>
3	会議にあたって、会議の目的と終了時間を参加者に伝えているか。	<input type="checkbox"/>
4	参加者全員が会議で発言できるように会議をコントロールしているか。	<input type="checkbox"/>
	・個人ワークの時間を設ける	
	・全体共有の時間を設ける	
5	終了時、会議の参加者の意見を整理しまとめたり、また、会議に参加していないチームメンバーにも情報を共有するようにしているか。	<input type="checkbox"/>
6	支援の手立てや記録の方法を決める際は、具体的に、実行可能性や予測される効果などを検討し、参加者で確認したか。	<input type="checkbox"/>
7	支援の手立てを決める際は、『いつ・だれが・何をを行うのか』を行動レベルで決め、手順書等の作成につなげたか。	<input type="checkbox"/>
8	実施記録については『いつ・どのような方法で共有するか』を確認したか。	<input type="checkbox"/>
9	支援の進捗管理のために、次回の会議の設定や、必要なタイミングで他のスタッフに確認することなど、適時リマインドをおこなっているか。	<input type="checkbox"/>
10	支援を実行した際、一定の経過を見た後、振り返りの会議を設定しているか。	<input type="checkbox"/>
11	振り返りの会議では記録を確認し、その結果に影響しているポジティブな要因やネガティブな要因、関連する課題などを検討し整理したか。	<input type="checkbox"/>
12	支援の取り組みを通して、常にチームのメンバーの尽力を褒め、チームでのまとまりを高めているか。	<input type="checkbox"/>
13	支援の実行状況を確認し、次のアクションについてチームとして方向性を共有できているか。	<input type="checkbox"/>

チーム支援の実行状況をチェック

東山モデルMX	科目名	事前学習 (eラーニング)	グループ対話 (オンライン/集合研修)	時間	グループ対話後の現場の実践 (約1ヶ月) 主な使用シート類
	事前課題	①研修概要について ②体系的な支援と中核的人材育成 ③-1標準的な支援を実施するための 基本的な手順 ③-2ICFシステムのデータ入力 と分析方法 ③-3ICFシステムで把握した情報を QOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート（ハイリスク場面）、ICF-S ICFシートの構成因子（できるだけ実施）
	(1)研修ガイダンスと チーム支援	④自閉症の特性と学習スタイル ⑤東山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを念頭に現場支援の状況 優先課題の確認	2.5h	支援現場、モデルの様子動画撮影 特性学習スタイルシート、東山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート（ICFシートの活動・参加）
フェーズ 1	⑦特性理解とアセス メント:集合研修	⑦課題となっている行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面での直接観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と質疑 （動画によるプレゼン）	2.5h	モデルの評価場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート（上段）、スキーマープロット（フル） FAST
フェーズ 2	⑩支援の検討 （行動の分析）	⑩見てわかる工夫（構造化） ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先課題（目標行動）の検討と 仮説立て	2.5h	ハイリスク場面の整理、目標行動の動画撮影（Before/After） 東山モデルワークシート、活動に参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラム、日常生活場面アセスメントシート（下段） チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ 3	(4)支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手順書の作成と実施の対応	[11/26] 実践計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書（課題分析）の作成と実施 チーム支援実行状況チェックシート② チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ 4	(5)支援の見直し （PDCAサイクル）	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告 （仮説・検証）	2.5h	支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成 スキーマープロット（上段）、ICFシート（ポスト） チーム支援実行状況チェックシート④
フェーズ 5	(6)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ 5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	締結		各受講生の事業所に訪問する、オンラインで聞き取り（トレーナー・サブトレーナーで対応） 研修期間中、受講生への個別のフォロー（地域支援をかわして、サブトレーナーが対応）		

チェックシートの共有について

・各討議の時間で内容を確認

・チーム支援を実施する際に、他事業所のうまくいった点・
うまくいかなかった点を確認し共有する。

・討議内で共有された情報を、自分たちの事業所に
持ち帰り実施をおこなう。

チーム支援の再プランニングをおこなう。

チーム支援 | うまくいくためのポイント①

- 目標の明確化
 - ・明確で簡潔な目標を設定 → 具体的な行動指針を提供する
- コミュニケーションのリアリティ
 - ・詳細の伝達方法【いつ、どこで、誰が、何を、どのくらいの期間行うか】
 - ・視覚的に理解しやすいレイアウトと環境設定
- フィードバックと評価
 - ・定期的なフィードバック
 - 【2週間、または最長で1ヶ月ごとに結果を共有など】
 - ・フィードバックの目的
 - 【支援の改善とモチベーションの維持】
- チームでの協議
 - ・意思決定プロセス【方針をチームで検討 フォーマルな会議での決定】

さいごに

チーム支援|うまくいくためのポイント②

● サポートの改善

・課題への対応

【支援や記録がうまくいかない場合、個人の責任にせず対策をチームで検討・成功例を共有し、全員が学べるようにする】

● 継続的な学びと事例検討

・OJTと外部講師の活用

【外部の専門家を招いて事例検討を実施・継続的な学びとモチベーションの向上】

● 職場環境の改善

・コミュニケーションの促進

【日常の雑談や軽い話題でリラックスした職場環境を作る・相談しやすい雰囲気の維持】

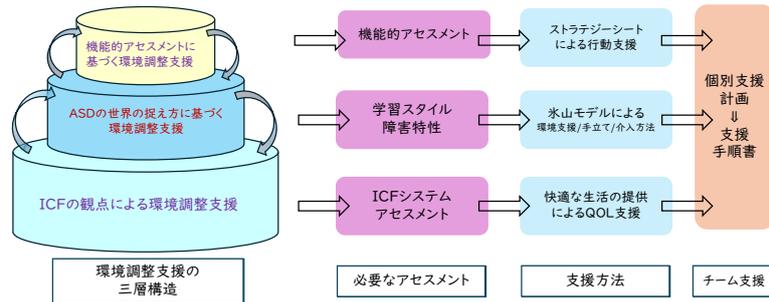
課題となっている行動の観察と記録

- 本講義・演習で使用するワークシート
- ABC記録、スキッタープロット

研修の流れにおける本講義の位置

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視座 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事前学習情報の整理 モデルの基本情報シート、得意所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動増進アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題となっている行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面の正確な観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野鳥場面の動画撮影 ABC記録とストラテジーシート(上段)、スキッタープロット(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかる工夫(編成化) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 実現場(機能的行動)の検討と実践立て	2.5h	ハリスク場面の整理、機能的行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(観測台)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキッタープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受講生の事業所に訪問する。オンラインで取り取り(トレーナー/サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- 課題となっている行動の具体化
- 記録の役割
- 演習(ABC記録とスキッタープロットの取り方の説明)

講義・演習のねらい

- 行動観察を行うために、課題となっている行動を具体的に表現することができる。
- ABC記録とスキッタープロットの2つの記録の取り方を学ぶ。

課題となっている行動の具体化

行動を具体的にとらえるメリット

- 具体的に誰が何に困っているのか明確になる
- 記録をしやすい
 - 増減がわかりやすい
 - 対応の効果が明確になる
- 支援者間での情報共有のズレが少なくなる
 - 一貫した対応がしやすくなる

行動を具体的にとらえる メリット

- 支援者間での情報共有のズレが少なくなる



行動を具体的にとらえる コツ

1. 観察可能な（見える、聞こえる、回数をかぞえたり時間をはかることができる）行動だけを取り扱う
2. 動詞で書く
3. 誰が読んでも同じ行動が思い浮かべられるくらい具体的に書く
4. 「～しない」は「～しないで、～している」と書く

1. 観察可能な行動だけを取り扱う

誤	正
考える 思う イライラする 落ち着かない	叩く 蹴る かみつく 大声で何回も～と言う

2. 動詞で書く
3. 誰が読んでも同じ行動が思い浮かべられるくらい具体的に

誤	正
パニック	大声で叫んだあと、自分のこめかみを両手で叩く
粗暴な行為	作業の材料のプラスチックを手で割って投げる

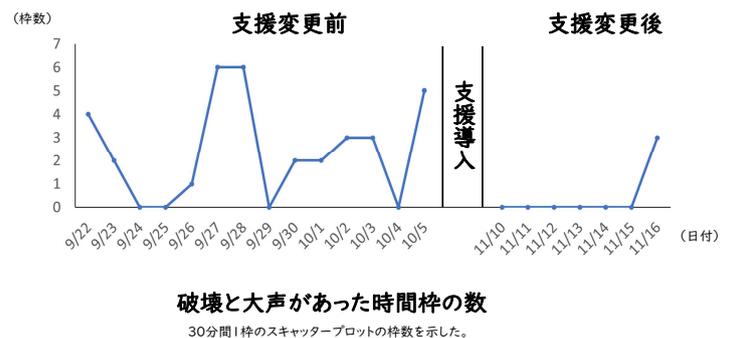
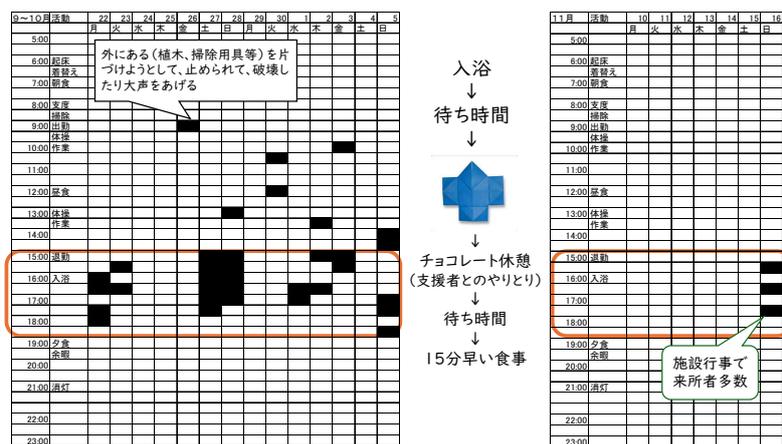
4. 「～しない」は「～しないで、～している」と書く

誤	正
作業をしない	作業をせずに、床に寝そべっている

記録の役割

記録の役割

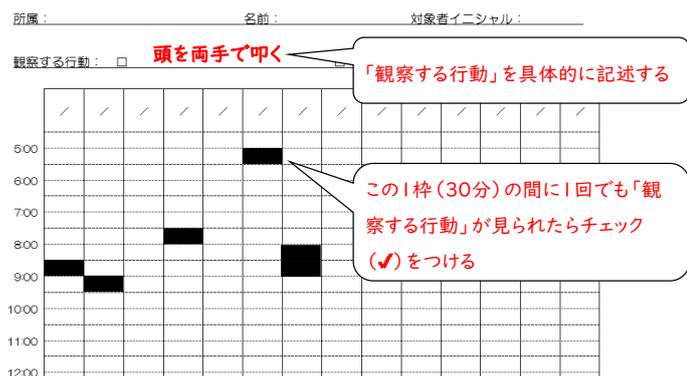
- アセスメントになる
 - 記録はその人の行動が、なぜ起きているか分析をする(機能などの仮説を立てる)ための情報として活用できる
- 支援の効果を検証できる
 - 支援の前と後に記録を取ることで支援が効果的であったかどうか(機能などの仮説が正しかったかどうか)を検証することができる



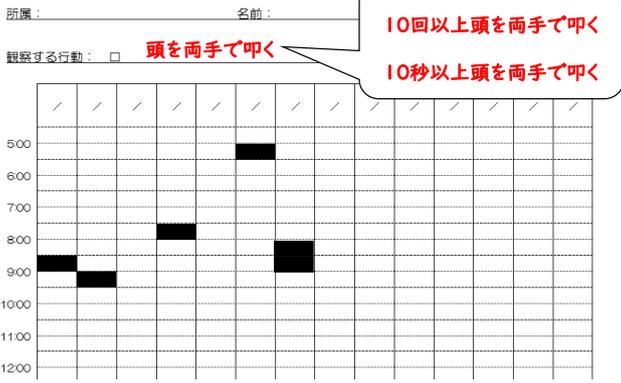
記録

1. エピソード記録(例えば、形式のない日誌)
2. スキャッタープロット
 - 起きやすい場面、起きにくい場面を知る
3. ABC記録
 - 観察したことを「事前の状況—行動—事後の状況」に分けて書く
4. 課題分析にそった記録

2. スキャッタープロット



2. スキャッタープロット



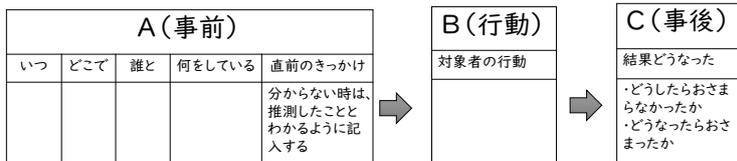
3. ABC記録

所属： _____ 名前： _____ 対象者イニシャル： _____

記録日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日

ヒント	直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「(チェック)」「無し」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか、またその周囲の反応に対して対象者の行動はどうか変化したか。	
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
11	12:10	昼食時に食堂にて、他利用者に声をかけられた時	近くの支援者にかみつく	落ち着かせるために支援者といっしょに食堂をでる。2~3分で落ち着き食堂に戻った。

ABC記録のポイント



その他、事前の状況で関係がありそうなことを、A(事前)に記入してもよい

- ・天候(暑さ、寒さ等)
- ・体調(病気、生理、服薬の影響等)
- ・集団の大きさ 等

2つの記録からわかること

- ・起きやすい場面を予測できる。
- ・起きにくい場面のなかにある環境の条件を見つける。
 - ・いつ起こるか ⇔ いつ起こらないか
 - ・誰と起きるか ⇔ 誰と起こらないか
 - ・どこで起こるか ⇔ どこで起こらないか
 - ・どんな活動だと起こるか ⇔ どんな活動だと起こらないか
 - ・どうしたらおさまらないか ⇔ どうしたらおさまるか
- ・ご本人の視点から、環境との相互作用をとらえる
 - ・支援者の視点「危ないので、急いで手をつかんだ」
 - ・ご本人の視点「急に手をつかまれた」

演習

ペットボトルの分別作業中です。はがしたフィルムとペットボトルをそれぞれの袋に分けて入れます。「ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる」行動についてABC記録(事前の状況→行動→事後の状況に分けて書く)をしてみましょう。

演習課題① ABC記録につけてみましょう

ヒント		直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「ハニック」「揺発」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか、またその周囲の反応に対して対象者の行動はどうか変化したか。
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
			ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 支援者を見る。	

演習課題① ABC記録につけてみましょう

ヒント		直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「ハニック」「揺発」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか、またその周囲の反応に対して対象者の行動はどうか変化したか。
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
		作業中、フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋、隣の人は投げ入れている。支援者は後ろにいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 支援者を見る。	ペットボトルは手元からなくなる(本人にとっては投げ入れられる)。支援者が近づく(本人にとっては近づいてくる)。横につく。次のペットボトルの作業をはじめ。

演習課題② ABC記録につけてみましょう

ヒント		直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「ハニック」「揺発」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか、またその周囲の反応に対して対象者の行動はどうか変化したか。
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
		作業中、フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋、隣の人は投げ入れている。支援者は後ろにいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 支援者を見る。	ペットボトルは手元からなくなる。支援者が近づく。横につく。次のペットボトルの作業をはじめ。
			ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。	
			フィルムとペットボトルをそれぞれの袋に入れる。	

演習課題② ABC記録につけてみましょう

ヒント		直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「ハニック」「揺発」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか、またその周囲の反応に対して対象者の行動はどうか変化したか。
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
		作業中、フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋、隣の人は投げ入れている。支援者は後ろにいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 支援者を見る。	ペットボトルは手元からなくなる。支援者が近づく。横につく。次のペットボトルの作業をはじめ。
		作業中、フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。	支援者が体を止めようとする(本人にとっては、体を寄せてくる)。ペットボトルが手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。
		作業中、フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	フィルムとペットボトルをそれぞれの袋に入れる。	ペットボトルが手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。

記入のポイント

- 観察したありのままを書く。
- Bは対象者の行動のみを書く。気持ちや考えを推測して書かない。
- AとCは支援者の対応や物理的な状況について書く。
- Cには、支援者の対応の後に起きた、対象者の行動の変化を書いても良い。



まとめ

まとめ

- 行動上の課題があるときには、課題となっている行動を具体的に表現して、共有する。
- 具体化した行動について記録をつける。
- スキャッタープロットは、課題となっている行動が起きやすい場面と起きにくい場面の両方の条件を知ることができる。
- ABC記録は、行動の前後の状況の変化を知ること、課題となっている行動が「なぜ、起きているのか」という理由を、ご本人の視点やご本人にとっての意味から推測することができる。

※ABC記録について、鳥取大学の井上先生の研究班で動画を作成されています。
さらに学びたい方は右記QRコードをご参照ください。



謝辞

本eラーニングの作成にあたりご協力いただいた、
本人様・保護者様、
支援事例を提供頂いた、コープデリ生活協同組合連合会様、
社会福祉法人はーとふるの関係者様にお礼申し上げます。

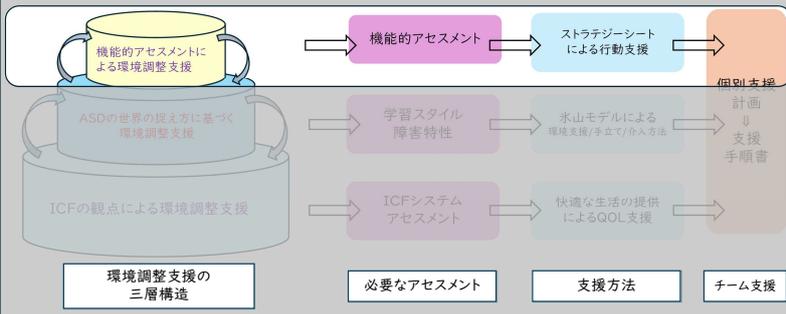
機能的アセスメント

本講義・演習で使用するワークシート
FAST、ストラテジーシート(上段)

研修の流れにおける本講義の位置

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な視点 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事前学習情報の整理 モデルの基本情報シート、学習所情報シート(ハイレベル編)、BPT-S ICFシート(環境因子(できるだけ実施))
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦機能的アセスメント ⑧日常生活場面の直接観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野郎場面の動画撮影 ASD記録とストラテジーシート(上段)、スキッパープロット(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑨見てわかるエピソード(録音化) ⑩コミュニケーションプログラム ⑪機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位(継続的行動)の検討と実践	2.5h	ハイレベル編の整理、継続的行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、参加と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑫支援プランの立案 ⑬支援準備書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援準備書(観測台)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑭実施後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(個別-収録)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキッパープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
継続			各受講生の事業所に訪問する。オンラインで取り取り(トレーナー/サブレナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブレナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

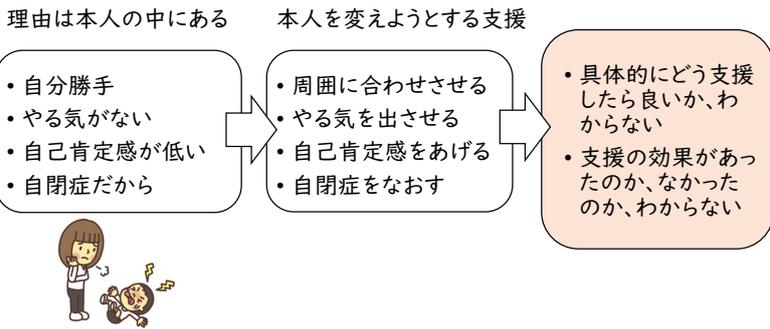
- 機能的アセスメントとは
- 行動の機能の種類
- ストラテジーシート
- 演習
- まとめ

講義・演習のねらい

- 本人の視点から課題となっている行動を理解するための機能的アセスメントを学ぶ
- 行動の機能の種類を知る
- 行動の機能を推測することができる

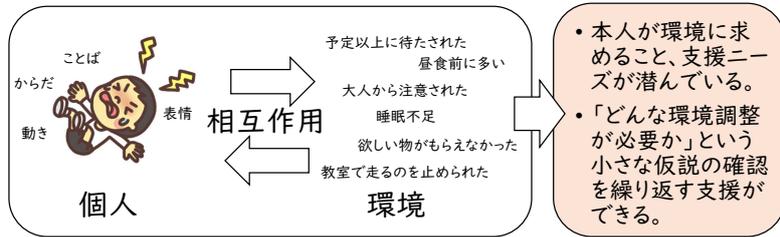
機能的アセスメントとは

なぜ、課題となっている行動が起きているのか



機能的アセスメントとは

課題となっている行動と環境との関係を、本人の視点からとらえること



機能的アセスメントの意義

①課題となっている行動は、その環境でご本人なりに学習した適応の結果である。課題となっている行動によって、周囲に求めることを示している。

ご本人のニーズに基づく支援の実現

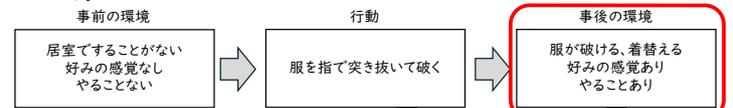
②目に見えることから仮説を立てる。実践することで、仮説を検証できる。

支援の結果を確認できる

問題からニーズへ視点をかえる 事後に注目

・Aさんは服を破いてしまう

- ① 障害レベルで理解する→一人ひとりの学習スタイルにあった生活スタイル
 - ・自閉症だから服を破く。でも、全ての自閉症の人がしているわけではない。
- ② 行動と環境のレベルで理解する→機能的アセスメント
 - ・居室ですることがないときに、服を指で強く押して、突き抜いて破いて時間を過ごしている。



周囲の視点では「Aさんが服を破いてしまった」「これは問題だ」
本人の視点では「関わりたい」「服が勢いよく破けた」「着替えられた」「私が求めていること」

行動の機能

・課題となっている行動と環境との関係から、その行動の機能（本人がその行動をせざるを得ない、本人の視点からの理由）を推測すること。

- ・課題となっている行動の主な機能4つ
 - ・社会的な（人とのやりとりや活動がある）場面
 - ・物や活動、人との関わりや注目の要求機能
 - ・物や活動、人との関わりや注目からの回避・逃避の機能
 - ・自己の感覚
 - ・感覚自体が楽しみで、感覚を得ている
 - ・感覚自体が嫌悪的な状態を回避・逃避している

行動の機能の種類

FAST

(Functional Analysis Screening Tool)

	要求が満たされる獲得型	不快から逃れられる回避・逃避型
社会的	・注目や関わりの要求 ・物の要求 ・活動の要求	・注目や関わりの回避・逃避 ・物の回避・逃避 ・活動の回避・逃避
個人内	・感覚の要求 ・好みの感覚を得る	・痛みの軽減 ・不快な感覚の回避・逃避

BPI-Sで全体像を把握してから、評価したい行動を絞り込みます。インパクトや強度ではなく、頻度（回数）をみます。回数の多い行動を選びます。

つけ方の説明動画のQRコードはこちら
(鳥取大学の井上先生の
研究班において作成)



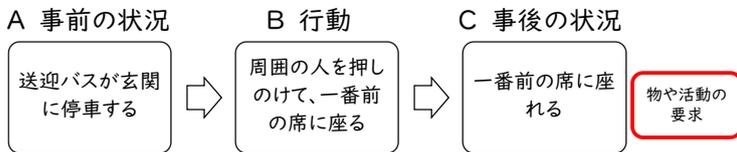
FAST

(Functional Analysis Screening Tool)

	要求が満たされる獲得型	不快から逃れられる回避・逃避型
社会的	・注目や関わりの要求 ・物の要求 ・活動の要求	・注目や関わりの回避・逃避 ・物の回避・逃避 ・活動の回避・逃避
個人内	・感覚の要求 ・好みの感覚を得る	・不快な感覚の回避・逃避 ・痛みの軽減

社会的な場面での要求機能 (物や活動の要求)

太郎さんは生活介護を利用しています。何でも一番にやりたがります。送迎バスは一番前の席に座りたがります。バスが玄関に近づくと、周囲の人を押しのけて走り出し、ドアが開くとすごい勢いで一番前の席に座ります。「人を押しはいけない」と何度も注意していますが、聞き入れません。手を持って止めたりしていますが、体格がよく、力が強いので振り切られてしまいます。高齢の方も多く、危険です。



FAST

(Functional Analysis Screening Tool)

	要求が満たされる獲得型	不快から逃れられる回避・逃避型
社会的	・注目や関わりの要求 ・物の要求 ・活動の要求	・注目や関わりの回避・逃避 ・物の回避・逃避 ・活動の回避・逃避
個人内	・感覚の要求 ・好みの感覚を得る	・不快な感覚の回避・逃避 ・痛みの軽減

個人内の感覚の逃避 (不快な感覚の逃避)

FASTでは「個人内の感覚の逃避・回避」を「痛み」に限定しています。例の場合、騒がしい状況を社会的な場面と考えると、「社会的場面の逃避」と機能を推測してもかまいません。重要なのは、どのような刺激や状況を避けているかを推定することです。

二郎さんは、作業室で作業をしています。作業が終わると、多くの利用者が席を立ち、歩いたり、話をしはじめます。この時間になると二郎さんは、両方の手のひらで大きな音をたてて頭を叩きます。大きな音で頭を叩くので、周囲への影響を考えて、廊下に誘導します。人通りのない廊下にいると、しばらくして頭を叩く自傷はおさまります。



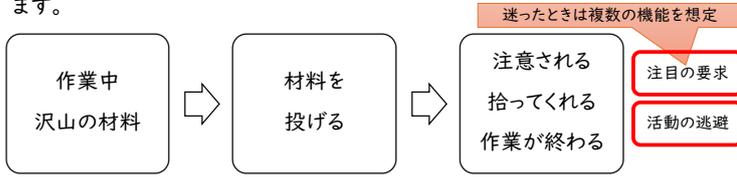
FAST

(Functional Analysis Screening Tool)

	要求が満たされる獲得型	不快から逃れられる回避・逃避型
社会的	・注目や関わりの要求 ・物の要求 ・活動の要求	・注目や関わりの回避・逃避 ・物の回避・逃避 ・活動の回避・逃避
個人内	・感覚の要求 ・好みの感覚を得る	・不快な感覚の回避・逃避 ・痛みの軽減

社会的場面の要求か逃避 (注目の要求か活動の逃避)

花子さんは、美容院のタオルたたみの作業をしています。たたむこと自体は、慣れていて上手です。みんなが座っている机の真ん中に沢山積んであるタオルの山から、自分で取ってたたみます。調子が良い日は50枚たたみます。調子が悪い日は5枚もたたむと、タオルを投げ始めます。投げた時は、支援員が拾って注意をします。それでもやめない時は、投げたタオルは洗い直しになるので、作業をやめて机から離れてもらいます。



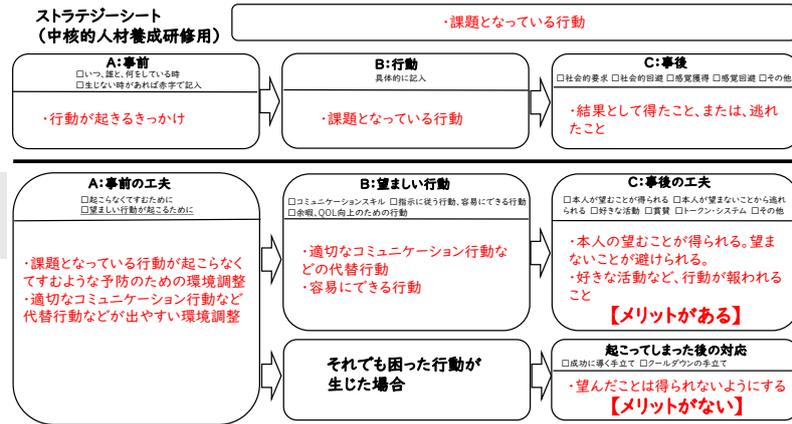
課題となっている行動に隠されたニーズ

コミュニケーションとして機能している

物・活動の要求	注目・関わりの要求	活動の回避・逃避	感覚刺激
A: 物や活動が手に入らない状況で起きる C: 行動することで、支援者から、物、活動が得られる	A: 注目や関わりがない状況で起きる C: 行動することで注目や関わり(そばに来る、声をかける、賞賛、叱責など)が得られる	A: 嫌な状況で起きる C: 行動することで、支援者が対応して、嫌な状況がなくなる	A: 特定の感覚がない状況で起きる C: 行動することで特定の感覚が得られる A: 特定の感覚(特に、痛み)がある状況で起きる C: 行動することで特定の感覚から逃れられたり、軽減したりする

ストラテジーシート

ストラテジーシート
(中核的人材養成研修用)



コミュニケーションの代替行動

同じ機能をもつ適切なコミュニケーションに置き換える



代替行動

望ましい行動で、課題となっている行動と同じ結果になる。
望ましい行動と課題となっている行動は、形は違うが、機能は同じ。



演習

課題③行動の機能を推測してみましょう

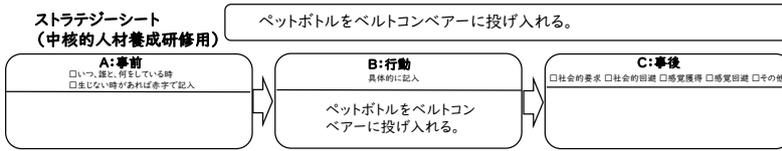
ヒント	直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「バニシング」「飛奔」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか。またその周囲の反応に対して対象者の行動はどう変化したか。	
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。隣の人は投げ入れている。支援者は後ろにいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。支援者を見る。 機能	ペットボトルは手元からなくなる。支援者が近づくと(本人にとっては近づいてくる)。横につく。次のペットボトルの作業をはじめめる。
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 機能	支援者が体を止めようとする(本人にとっては、体を寄せてくる)。ペットボトル手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	フィルムとペットボトルをそれぞれの袋に入れる。	ペットボトル手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。

課題③行動の機能を推測してみましょう

ヒント	直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「バニシング」「飛奔」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか。またその周囲の反応に対して対象者の行動はどう変化したか。	
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。隣の人は投げ入れている。支援者は後ろにいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。支援者を見る。 機能 注目/活動の要求	ペットボトルは手元からなくなる。支援者が近づくと(本人にとっては近づいてくる)。横につく。次のペットボトルの作業をはじめめる。
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。 機能 注目/活動の要求	支援者が体を止めようとする(本人にとっては、体を寄せてくる)。ペットボトル手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。
		作業中。フィルムをはがしたペットボトルを持っている。分別する箱と袋。支援者は横にいる。	フィルムとペットボトルをそれぞれの箱や袋に入れる。	ペットボトル手元からなくなる。次のペットボトルを渡される。

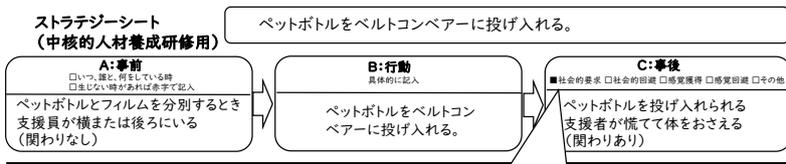
社会的な要求のうち、注目、物、活動は分けて書いた方が良い

ストラテジーシート (中核の人材養成研修用)



課題④ ストラテジーシートの上段を記入してみましょう

ストラテジーシート (中核の人材養成研修用)



課題④ ストラテジーシートを記入してみましょう

社会的な要求のうち、注目、物、活動はメモしておく。この場合は「注目」「活動」をどこかに書いておく。

記入し

まとめ

まとめ

- 機能的アセスメントとは、本人の視点から、課題となっている行動と環境との相互作用をとらえて、その原因や要因を理解し、支援につなげること。
- 課題となっている行動は、本人の要求やニーズを周囲に伝える行動である。
- 行動と環境との関係を見ることで、行動の機能を推測することができる。特に、行動の後に何が起きているのかが手がかりとなる。
- 課題となっている行動の機能は主に4つある。

謝辞

本eラーニングの作成にあたりご協力いただいた、
本人様・保護者様、
支援事例を提供頂いた、コープデリ生活協同組合連合会様、
社会福祉法人はーとふるの関係者様にお礼申し上げます。

日常生活場面での直接観察 評価から支援へ

研修の流れにおける本講義の位置

本講義・演習で使用するワークシート

- 日常生活場面行動アセスメントシート (RAINBOW)

水山モデルMX	科目名	事前学習 (eラーニング)	グループ討議 (オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践 (約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な手順書 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・研修所情報の整理 モデルの基本情報シート、研修所情報シート (ハイレスク場)、BPT-S ICFシートの環境設定 (できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ④水山モデル ④チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート (+ICFシートの活用・参加)
フェイズ1	(2)特性理解とアセスメント: 集合研修	⑤継続して行っている行動の観察と記録 ⑤体系的アセスメント ⑤日常生活場面の直接観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野郎場面の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート (上段)、スキッパープロット (プル) FAST
フェイズ2	(3)支援の検討 (行動の分析)	⑥見てわかる工夫 (最適化) ⑥コミュニケーションプログラム ⑥継続的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先順位 (継続的行動) の検討と支援立て	2.5h	ハイレスク場面の整理、継続的行動の動画撮影 (Before/After) 水山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート (下段)
フェイズ3	(4)支援の立案と実施	⑦支援プランの立案 ⑦支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書 (観覧合符) の作成と実施 支援現場の動画撮影①、支援報告書等の作成 (ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ4	(5)支援の見直し (PDCAサイクル)	⑧実施後の評価と改善	[12/24] 実施期間の途中経過報告 (質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成 スキッパープロット (ポスト)、ICFシート (ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ5	(6)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェイズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補綴		各受講生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り (トレーナー・サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー (地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

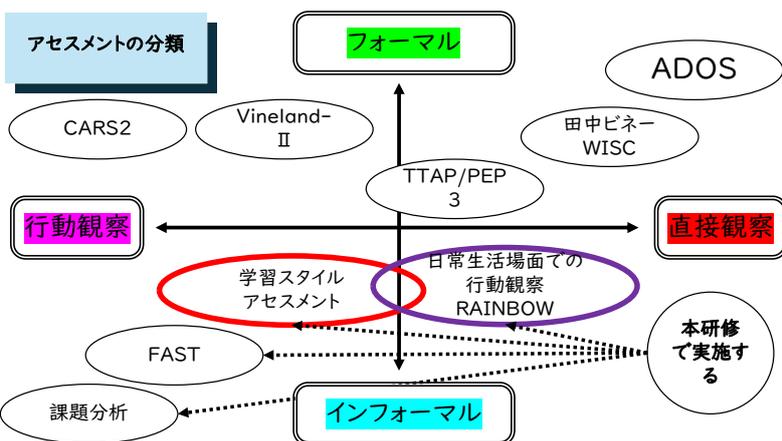
講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- アセスメントの基本的理解
- 日常生活場面での直接行動観察
- 結果から支援計画へ

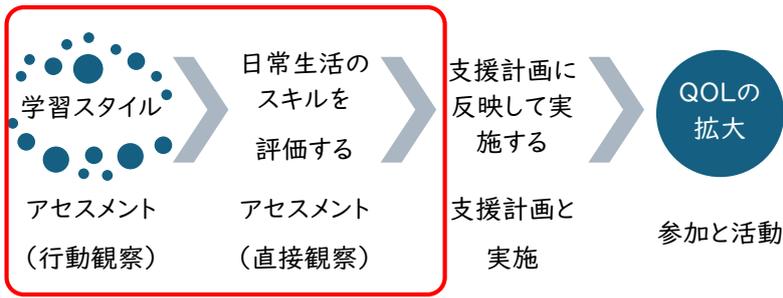
この講義のねらい

- ねらい1 (知識) : 日常生活におけるアセスメント (直接観察) を学びます
- ねらい2 (技術) : スキルのチェックと学習スタイルから見て分かる工夫の根拠を探します



アセスメントの基本的理解

I. アセスメントの目的



II. アセスメントがなぜ大切か？

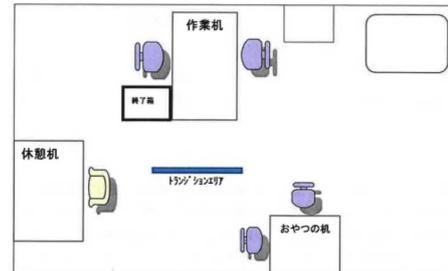
意味	客観的に評価・分析できる(思い込みによる支援を防げる)
	支援の効果を検証できる(やりっぱなしを防げる)
効果	特性とスキルに即した環境調整ができる
	個別化されたオーダーメイドの環境調整ができる
メリット	得られる情報量が多い(短時間で数年分の情報が得られる)
	文脈(ルーティンや記憶)による支配を受けない
	動画などで実際に共有しやすい

III. アセスメント実施上の注意点

1. 場所を変える	アセスメントの場所と、実際の過ごしの場所は分ける 直接評価の場所と休憩の場所は別に設定する
2. 手続き	合格させようとしな(間違っても肯定的な反応をする) 一気に全てこなそうとしな(休憩・おやつ、数日かけてOK)
3. 評価の基準	合格: 支援に活用できる強み めばえ: 目標にする(練習や見てわかる工夫でできるように) 不合格: 手助けする
4. 指示の階層	手添え>モデルを示す>指さし>言葉の指示を意識する 低い介入から高い介入で理解を確かめる
5. 活かし方	アセスメントの結果を支援に活かすための手段を考える 計画の根拠とし、支援の結果から定期的に更新する

1. 場所を変える アセスメントの場所を実際の過ごしの場所は分ける

- ルーティン(決まった流れ)や記憶、状況による支配から切り離された設定をする
- そのことで、モデル利用者の素のままの特性やスキルが観察可能となる



直接評価の場所と休憩の場所は別々に設定する

2. 手続き 合格させようとしな(間違っても肯定的な反応をする)
一気に全てこなそうとしな(休憩・おやつ、数日かけてOK)



IV. 量的評価から質的評価へ | (RAINBOWの右側の欄へ入力)

学習スタイルを確認し更新	見て理解する・細部に注目・見通し・言葉の理解・相手の気持ち・感覚の問題 改めて、学習スタイルの「好むこと」につながるスキルを確認する
学習の態度	指示に従う力(指示しても怒らず応じられるか?) 修正への反応(修正しても怒らないか?) 意味がわからない時の反応(動揺する・分からなくてもやる・拒否する等)
身体の使い方	取り組みの丁寧さ・器用さ・雑さ 利き手が決まっているか・アンバランスさがあるか
集中力・記憶力	注目の仕方・扱える手順の数 余暇などの自由時間の過ごし方
好む物・事 / 苦手な物・事	着目できる好きなものがあるか(6つ以上) 課題となっている行動の引き金となる物・事

日常生活場面での直接行動観察 (RAINBOW)

日常生活場面行動アセスメント RAINBOW

Rating Assessment for Individuals with ASD Behavior of Whole daily lives



みんなが雨上がりの空に美しい虹を見れるように

日常生活場面の行動観察の6つの領域 (全90項目)

認知レベル	職業スキル・職業行動	コミュニケーション	身辺自立・家事活動	興味関心・余暇活動	適応行動
<ul style="list-style-type: none"> ●視覚認知 ●視覚的な情報処理のスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ●職業スキル ●作業や活動に取り組むスキル ●職業行動 ●職場(学習)環境での適切なふるまい 	<ul style="list-style-type: none"> ●表出 ●相手に自分の意思を伝えようとするスキル ●理解 ●相手からの意思の理解度 ●やり取り ●コミュニケーションが何度か往復するか 	<ul style="list-style-type: none"> ●身辺自立 ●日常生活のスキルを評価 ●食事 ●食事場面のスキルを評価 ●掃除・洗濯 ●掃除・洗濯のスキルを評価 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会性 ●遊びを通じた人とのやりとりやルール理解 ●余暇 ●余暇活動のスキル ●地域活動 ●地域における活動スキル 	<ul style="list-style-type: none"> ●適応/不適応 ●人・場に即した年齢相応のふるまい, 対処スキル

(1) 認知レベル

(1)認知レベル (9項目)	評価	使用した用具・状況・確認した学習スタイル
1 形、色の区別ができる	×	
2 絵、写真の区別ができる	●	
3 自分の名前と他人の名前の区別ができる	●	
4 文字、数字の区別ができる	●	
5 1~10の数を数える	○	
6 1ケタの足し算が自立	○	
7 硬貨の区別と金額がわかる	△	
8 時計(アナログ/デジタル)が読める	○	
9 月間/週間カレンダーがわかる	×	



演習 直接観察

<形・色の分類> (視覚認知)
必要な用具:
 ①○△□の方はめパズル(市販の3辺の型ハメパズルでも可)
 ②赤・青・白の3色の色チップ

<評価の基準>
 ●:実演のあるなしにかかわらず, 形と色がどちらも正しく分類できる
 ○:実演のあるなしにかかわらず, 形・色のどちらかが正しい分類できる
 △:実演のあるなしにかかわらず, 形・色チップの間違いが3回以上ある
 ×:全く分類ができない, あるいは, 形パズル・色チップを口に入れるなどかなり不適切な取り扱いをする

学習スタイル (見て理解する)

●目に見えない情報(ことば・暗黙の了解・時間など)に気づけない
 ・経験ある単純レベルの理解

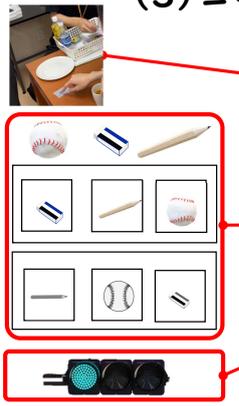
○見える情報から具体的に考える
 ・写真とイラストで理解する

(2) 職業スキル・職業行動



(2)職業スキル・職業行動 (13項目)	評価	使用した用具・状況・確認した学習スタイル
10 イラスト・数字カードの仕分け	○	
11 手動シュレッダーの使用	×	
12 紙を半分に折る	●	
13 ハサミで紙を切る	●	
14 ドライバーの使用	×	
15 空き缶つぶし (足や機械で)	×	
16 パソコン・タブレットでの文字入力	×	
17 監督者の指示に従う	△	
18 日課や予定・変更に従う	△	
19 毎日通所する。遅刻をしない	○	
20 ひとりで自立して移動する(屋内)	×	
21 ひとりで自立して移動する(事業所の周囲)	△	
22 ひとりで交通機関を利用して移動する	△	

(3) コミュニケーション



(3) コミュニケーション (23項目)	評価	使用した用具・状況・確認した学習スタイル
23 自分から手を引く・強る・泣き叫ぶなど	●	
24 話し言葉(単語程度)の発出	○	
25 写真・絵カードでの発出	○	
26 話し言葉(単語程度)	○	
27 話し言葉(二語文以上)	●	
28 自発的に尿意・便意を伝える	●	
29 聞かれたら自分の名前を言うことができる	●	
30 伝言を伝えることができる	△	
31 電話をかけることができる	△	
32 実物を理解する	×	
33 ジェスチャーを理解する	×	
34 写真・絵カード	×	
35 簡単な文字(漢字・ひらがな・カタカナ)	△	
36 話し言葉(単語程度)	○	
37 話し言葉(二語文～三語文程度)	○	
38 裏められたことを理解し前向きに応じる	○	
39 身体への接触に適切に反応をする	○	
40 ジェンゲルの意味・ルールがわかる	△	
41 信号を理解し守る	●	
42 注意書き(文字/絵)を見て、守ることができる	○	
43 身近な物(時計や帽子など) 答えることができる	×	
44 自分から挨拶ができる。聞かれたら自己紹介ができる	△	
45 簡単な日常会話が成立する。(3分以上)	×	

演習
直接観察

<話し言葉(二語文程度)> (コミュニケーション/理解)
必要な用具:
 ①ボール1個
 ②消しゴム1個
 ③鉛筆1本
 ④箱1個

<評価の基準>
 ●: 実演のあるなしに関わらず、全ての話し言葉(二語文程度)での質問に正答する
 ○: 実演のあるなしに関わらず、1~2個は話し言葉(二語文程度)での質問に正答する
 △: 実演があっても、間違いが3回以上ある
 ×: 話し言葉での指示は全て誤答となる。あるいは混乱するか、拒否的である

学習スタイル(言葉の理解)

- 話し言葉・抽象概念の理解の難しさ
- 表現コミュニケーションの難しさ

○単語の名詞(生活経験)を理解

(4) 身辺自立・家事活動



(4) 身辺自立・家事活動 (25項目)	評価	使用した用具・状況・確認した学習スタイル
46 トイレ(小)の自立に一人でできる	○	
47 トイレ(大)の自立(おしり取りができる)	×	
48 生理の手当(女性)・蒸触り(男性)ができる	○	
49 機を洗うことができる	●	
50 歯を洗うことができる	○	
51 入浴・体を洗うことができる	×	
52 散髪に行くことができる	●	
53 着替えができる	△	
54 自分で衣類を選べる	△	
55 身だしなみ・整容ができる	○	
56 簡単な買い物ができる	△	
57 簡単な調理ができる	△	
58 食事が適切である	○	
59 テーブルマナーが適切である	×	
60 下着・靴履ができる	△	
61 食器洗いができる	○	
62 テーブル拭きができる	△	
63 窓拭きができる	○	
64 トイレ掃除・風呂掃除ができる	×	
65 掃除機がけができる	○	
66 コップ洗いができる	○	
67 洗濯機(全自動含む)が使用できる	△	
68 洗濯物干しができる	△	
69 洗濯物畳みができる	○	
70 衣類・タオルの畳む・片付けができる	○	

(5) 興味関心・余暇活動



(5) 興味関心・余暇活動 (15項目)	評価	使用した用具・状況・確認した学習スタイル
71 相手とゲームやルールのある遊びに参加できる	×	
72 友だち・家族と、5分以上適切に遊ぶことができる	○	
73 テレビ・ビデオを観ることができる	△	
74 音楽を聴いて過ごすことができる	●	
75 絵や字を描くことを好む	○	
76 工作や手仕事を好む	○	
77 読書やカタログを読むことを好む	△	
78 テレビゲームやパソコンを好む	△	
79 好きな食べ物、飲み物がある	×	
80 嫌いな食べ物、飲み物がある	×	
81 お金をもらう、お金の意味が分かる	×	
82 買い物やイベントが好き	×	
83 好きな運動、スポーツがある	●	
84 嫌いな運動、スポーツがある	○	
85 外出する活動、習慣がある	×	

(6) 適応行動

(6) 適応行動 (5項目)	評価	観察状況: 確認できた学習スタイル
86 直接観察における行動・態度	△	
87 感覚刺激に対する観察と聞き取り	×	
88 周囲のものへの反応	○	
89 不安・不満や体調不良に関する観察と聞き取り	△	
90 趣味や余暇活動に関する観察と聞き取り	×	

演習
直接観察

<感覚刺激に対する観察と聞き取り> (適応行動)
必要な用具:
 特になし(直接観察の間、感覚刺激に対する過敏さが見られた場合は、以下のリストを参照して記録しましょう。または、関係者から普段の様子を聞き取りしてください。)

◆感覚反応リスト:
 □音 □臭 □肌触り □味 □臭い □その他(先の情報は右側コメント欄へ記入)

<評価基準>
 ●: 直接観察中も日常生活場でも、通常の感覚刺激に対しては適切に反応できる
 ○: セッション中あるいは日常生活場では1日に2回、通常の感覚刺激に対して過剰に反応することがある
 △: セッション中あるいは日常生活場では1日に3回以上、通常の感覚刺激に対して過剰に反応し、セッションあるいは日常生活に支障をきたすことがある。
 ※: 必要に応じてイヤーマフの使用といった配慮が必要

×: 直接評価中も日常生活場でも、頻繁に通常の感覚刺激に対して過剰に反応する。直接評価中、あるいは日常生活にかなりの支障をきたす。常時、イヤーマフの使用といった特別の配慮が必要

学習スタイル(相手の気持ち・感覚の問題)

- 人の気持ちを読み取れない
- 相手の立場に気づくことが困難
- 感情理解の困難さ
- 刺激の取捨選択が困難
- 風車やティッシュなどヒラヒラしたものを好む

○我が儘をいく探究心がある
 ・明確な指示を受け止められる

○心地よい刺激に没頭
 ・好きな歌手のCDがある
 ・オルゴールのCDを好む

VI. RAINBOWのまとめ (質的な情報も記入)

	●システムのまとめ (得意・不得意・学習スタイル)	支援方針/アイデア
視覚認知	①箇条書きにて確認できたスキル (得意/不得意)をまとめる ②確認できた学習スタイルをまとめる	支援方法/アイデアを学習スタイルから記入していく (特に好む事と関連付ける)
聴覚スキル 職業行動		
コミュニケーション		

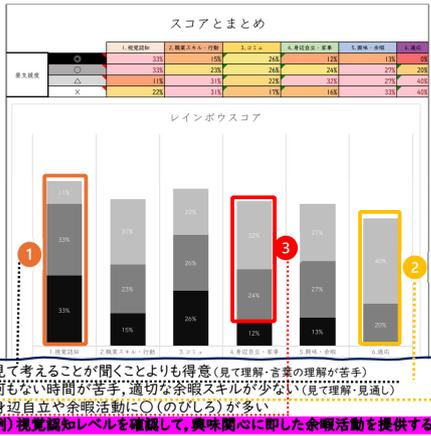
VII. 結果から再度学習スタイルの更新へ

評価	使用した用具・状況	確認した学習スタイル
×		
○		
△		
○		
△		
○		
×		



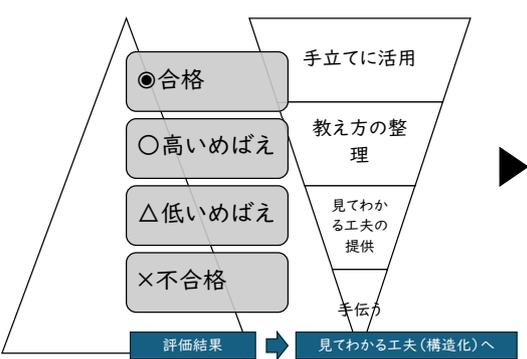
項目	得意	不得意	学習スタイル
1. 視覚認知	○	△	①
2. 聴覚認知	○	△	②
3. 言語理解	○	△	③
4. 社会認知	○	△	④
5. 身体認知	○	△	⑤
6. 生活認知	○	△	⑥
7. 職業認知	○	△	⑦
8. 社会生活認知	○	△	⑧
9. 職業生活認知	○	△	⑨
10. 社会生活認知	○	△	⑩
11. 職業生活認知	○	△	⑪
12. 社会生活認知	○	△	⑫
13. 職業生活認知	○	△	⑬
14. 社会生活認知	○	△	⑭
15. 職業生活認知	○	△	⑮
16. 社会生活認知	○	△	⑯
17. 職業生活認知	○	△	⑰
18. 社会生活認知	○	△	⑱
19. 職業生活認知	○	△	⑲
20. 社会生活認知	○	△	⑳
21. 職業生活認知	○	△	㉑
22. 社会生活認知	○	△	㉒
23. 職業生活認知	○	△	㉓
24. 社会生活認知	○	△	㉔
25. 職業生活認知	○	△	㉕
26. 社会生活認知	○	△	㉖
27. 職業生活認知	○	△	㉗
28. 社会生活認知	○	△	㉘
29. 職業生活認知	○	△	㉙
30. 社会生活認知	○	△	㉚
31. 職業生活認知	○	△	㉛
32. 社会生活認知	○	△	㉜
33. 職業生活認知	○	△	㉝
34. 社会生活認知	○	△	㉞
35. 職業生活認知	○	△	㉟
36. 社会生活認知	○	△	㊱
37. 職業生活認知	○	△	㊲
38. 社会生活認知	○	△	㊳
39. 職業生活認知	○	△	㊴
40. 社会生活認知	○	△	㊵
41. 職業生活認知	○	△	㊶
42. 社会生活認知	○	△	㊷
43. 職業生活認知	○	△	㊸
44. 社会生活認知	○	△	㊹
45. 職業生活認知	○	△	㊺
46. 社会生活認知	○	△	㊻
47. 職業生活認知	○	△	㊼
48. 社会生活認知	○	△	㊽
49. 職業生活認知	○	△	㊾
50. 社会生活認知	○	△	㊿

結果から支援計画へ



- RAINBOWの結果のまとめ**
- RAINBOWのプロフィールスコアから直接観察で確認されたスキルと、日々の評価場面のスキルを確認していく
 - ◎スキルを活用して、○スキルや△スキルに狙いを付ける
 - 各項目について、特徴的な行動や確認された学習スタイルも考慮する
 - 特性&学習スタイルチェックシートも参考にする
 - 未評価の項目を確認していくこと、また評価は日々改訂されていく必要がある

評価結果から見てわかる工夫と教え方の計画 (公正さへ)



大多数との公平さ
自立と参加
生活の質の向上

課題選択における優先性の検討

- 学習の可能性、発達の適切性
 - めばえスキルの重視
 - アセスメントに基づく発達レベルにあっていること
- 生活場面での実用性・機能性
 - 生活のいろいろな場面で使える、暮らしに活かせる
 - 年齢相応、本人や家族の好み
- 自立性・成功の可能性
 - 無理のない課題設定、直接の援助や監視がなくても一人で行える
 - 安全、コストパフォーマンス、緊急性
- 本人・家族の希望
 - 本人の意志を尊重する (本人が納得している、やりたがっている)
 - 家族が支援プログラムに協力してもらえるように

まとめ

日常生活場面での直接観察

- RAINBOWの項目に即して(ICFとも連動)
- 場所を変えて直接観察(文脈から離して、少しずつでOK)
- スキルのチェックは量(数値化)と質(学習スタイルの影響)で行う
- 結果から支援目標(既存の目標とのすり合わせも含む)へ

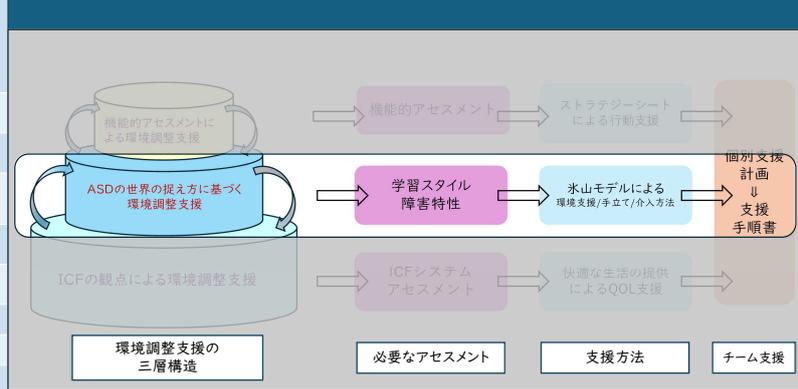
見てわかる工夫(構造化)

- 本講義で使用するワークシート
- 自閉症の特性&学習スタイルワークシート
 - 日常生活場面行動アセスメント

研修の流れにおける本講義の位置

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事業所情報の整理 モデルの基本情報シート、事業所情報シート(ハイルスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④自閉症の特性と学習スタイル ⑤水山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性&学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活場面行動アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦個別のアセスメント ⑧日常生活場面の正確な記録 ⑨機能的アセスメント ⑩機能的アセスメントに基づく支援	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ASD記録とストラテジーシート(上段)、スキキャッチャープロット(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	⑪見てわかる工夫(構造化) ⑫コミュニケーションプログラム ⑬機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 水山現場(個別行動)の検討と実践	2.5h	ハイルスク場面の整理、個別行動の動画撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑭支援プランの立案 ⑮支援手帳等の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳等(観測台)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑯実践の評価と改善	[12/24] 現場実装の途中経過報告(個別・集合)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキキャッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受講生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー-サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義の内容とねらい

この講義の内容

- 見てわかる工夫(構造化)とは
- 見てわかる工夫(構造化)をする時のポイント
- アセスメントに基づく、見てわかる工夫(構造化)事例紹介
- 見てわかる工夫(構造化)の効果と展開
- まとめ

この講義のねらい

- 見てわかる工夫(構造化)のアイデアを理解し、対象者にとって、不明瞭な生活・事業所生活内を明確化する。
- アセスメントに基づく、見てわかる工夫(構造化)設定の流れを理解する。

見てわかる工夫(構造化)とは

本日の講義では、
アセスメントに基づく、見てわかる工夫(構造化)の流れを事例から紹介

<p>Aさん(自閉症・知的障害)30代男性 生活介護事業所での例</p> <p>特性&学習スタイル(困難さの側面)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見えない言葉や時間などの理解の困難さ 注目の散漫 気が散りやすい 注意の切り替えが難しい 困難な状況が行動がとれない 情報を整理し、順序立てることが難しい 終わりの理解が難しい 次の活動に移ることに慣れていない 言語の理解の困難 家庭コミュニケーションの難しさ ルールの理解の難しさ 感覚刺激への過敏さ <p>特性&学習スタイル(強みの側面) 日常生活機能行動アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> パターン的に取り組むことに慣れる 細くかつら終わりの理解 整理された環境で働いた力を発揮する 形、色の区別ができる:△ 手動・ロボットでの操作:◎ ひとりりて自立して移動する(室内):○ 実物を理解する:◎ 好きな食べ物、飲み物がある:◎ 好きな運動、スポーツがある:○ 自分から手を引く強み:○ タブレット・PCでの操作:△ 直接観察における行動・態度:◎ 	<p>Bさん(自閉症・知的障害)20代男性 グループホームでの例</p> <p>特性&学習スタイル(困難さの側面)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見えない言葉や時間などの理解の困難 一般化の困難 注目の散漫(全体が見れない) 気が散りやすい 注意の切り替えが難しい 困難な状況が行動がとれない 情報を整理し、順序立てることが難しい 終わりの理解が難しい 次の活動に移ることに慣れていない 言語の理解の困難 家庭コミュニケーションの難しさ ルールの理解の難しさ 感覚刺激への過敏さ <p>特性&学習スタイル(強みの側面) 日常生活機能行動アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> パターン的に取り組むことに慣れる 細くかつら終わりの理解 整理された環境で働いた力を発揮する 形、色の区別ができる:◎ 絵、写真の区別ができる:◎ 1対1での操作:◎ 自分から手を引く強み:◎ 写真・地図カードでの操作:◎ ひとりりて自立して移動する(室内):◎ 衣服、タオルの整理・片付けができる:○
---	---

アセスメントに基づく、見てわかる工夫(構造化)事例紹介

基礎研修のおさらい

のぞみの園 強度行動障害支援者養成研修(基礎)
プログラム4 講義3「支援のアイデア」より

確実に伝えたい6つの情報
(見える化して伝えたい6つの情報)

- ・ 「いつ」
- ・ 「どこで」
- ・ 「何を」
- ・ 「どのくらい」
- ・ 「どうやって」
- ・ 「次は」

基礎研修のおさらい

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

<旧>	<新>
のぞみの園 強度行動障害支援者養成研修(基礎) プログラム4 講義3「支援のアイデア」より	今回の研修で使用する用語 参考文献a, c, dより紹介
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の工夫(生活の見通し) ・ 方法の工夫(やり方・終わり・次) ・ 場所の工夫(活動との対応・刺激の整理) ・ 見え方の工夫(ヒント・着目) ・ やりとりの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の工夫(スケジュール) ・ 方法の工夫(ワークシステム) ・ 場所の工夫(物理的構造化) ・ 見え方の工夫(マテリアルストラチャー) ・ やりとりの工夫 (第10回コミュニケーションプログラムで説明)

※今回の内容に合わせて、講義3「支援のアイデア」資料の提示順番を変更しています。

6つの情報を確実に伝えるための
5つの工夫

- ・ 時間の工夫(スケジュール)
- ・ 方法の工夫(ワークシステム)
- ・ 場所の工夫(物理的整理統合)
- ・ 見え方の工夫(マテリアルストラチャー)
- ・ やりとりの工夫(第10回コミュニケーションプログラムで説明)

基礎研修の復習と追加情報

時間の工夫(スケジュール)

<旧>	<新>
<p style="text-align: center;">時間の工夫(生活の見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな流れで生活するのかという理解を助ける。 ・ 言われるがまま(または好き放題)ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。 <p style="font-size: small;">のぞみの園 強度行動障害支援者養成研修(基礎) プログラム4 講義3「支援のアイデア」より</p>	<p style="text-align: center;">時間の工夫 (スケジュール)^{a, c, d}</p> <p>1日流れや、活動の順番を対象者にとって理解しやすい、意味のある形に整理し、伝える</p>

Aさん
生活介護事業所

特性 & 学習スタイル(困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 注目の散ら
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 次の活動に移ることの難しさ
- 言語の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- ルールの理解の難しさ
- 感覚刺激への過敏さ

特性 & 学習スタイル(強みの側面)
日常生活機能行動アセスメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなったら終わりの理解
- 整理された環境で働けた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 手動レギュレーターの使用
- ひとりで自立して移動する(屋内):○
- 実物を理解する
- 好きな食べ物、飲み物がある
- 好きな運動、スポーツがある
- 自分から手を引くことができる
- ジェスチャーサインでの表出:△
- 直接観察における行動・態度:◎

スケジュールの例①



Bさん
グループホーム

特性 & 学習スタイル(困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難
- 聴覚の困難
- 注目の散ら(全体が見えない)
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 話し言葉の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- 他者の視点を取ることの困難
- 感覚刺激への過敏さ、または鈍感さ

特性 & 学習スタイル(強みの側面)
日常生活機能行動アセスメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなったら終わりの理解
- 見て次の活動を理解する
- 整理された環境で働けた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 形、色の区別ができる
- 1-10の数を数える
- 自分から手を引く
- 写真・絵カードでの表出
- ひとりで自立して移動する(屋内):○
- 衣類、タオルの整理・片付けができる

スケジュールの例②



6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫 (スケジュール)
- 方法の工夫 (ワークシステム)
- 場所の工夫 (物理的整理統合)
- 見え方の工夫 (マテリアルストラチャー)
- やりとりの工夫 (第10回コミュニケーションプログラムで説明)

基礎研修の復習と追加情報 方法の工夫 (ワークシステム)

<旧> → <新>

方法の工夫 (やり方・終わり・次)

・「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために

一やることの内容や数や順序が違っても進め方は同じというシステムを提示する。

方法の工夫
(ワークシステム)^{a, c, d}

対象者が、複数の活動や課題をやりきるために、以下の4つの情報を視覚的に整理して伝える

①何を、
②どのくらい、
③どうやって(どうなったら終わりか)
④次は

のぞみ園 強度行動障害支援者養成研修(基礎) プログラム4 講義3「支援のアイデア」より

Aさん
生活介護事業所

特性 & 学習スタイル(困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 注目の散ら
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 次の活動に移ることの難しさ
- 言語の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- ルールの理解の難しさ
- 感覚刺激への過敏さ

特性 & 学習スタイル(強みの側面)
日常生活機能行動アセスメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなったら終わりの理解
- 整理された環境で働けた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 手動レギュレーターの使用
- ひとりで自立して移動する(屋内):○
- 実物を理解する
- 好きな食べ物、飲み物がある
- 好きな運動、スポーツがある
- 自分から手を引くことができる
- ジェスチャーサインでの表出:△
- 直接観察における行動・態度:◎

ワークシステムの例①



Bさん
グループホーム

特性 & 学習スタイル(困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難
- 聴覚の困難
- 注目の散ら(全体が見えない)
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 話し言葉の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- 他者の視点を取ることの困難
- 感覚刺激への過敏さ、または鈍感さ

特性 & 学習スタイル(強みの側面)
日常生活機能行動アセスメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなったら終わりの理解
- 見て次の活動を理解する
- 整理された環境で働けた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 形、色の区別ができる
- 1-10の数を数える
- 自分から手を引く
- 写真・絵カードでの表出
- ひとりで自立して移動する(屋内):○
- 衣類、タオルの整理・片付けができる

ワークシステムの例②



ワークシステムの例③



カラオケの活動

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫 (スケジュール)
- 方法の工夫 (ワークシステム)
- 場所の工夫 (物理的整理統合)
- 見え方の工夫 (マテリアルストラチャー)
- やりとりの工夫 (第10回コミュニケーションプログラムで説明)

基礎研修の復習と追加情報

場所の工夫 (物理的整理統合)

<旧>

<新>

場所の工夫
(活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をやるのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア (境界) を明確に
 - 場所と活動が 1対1 対応できれば理想だが...
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

のぞみ園 強度行動障害支援者養成研修 (基礎) プログラム4 講義3「支援のアイデア」より

場所の工夫
(物理的整理統合) a, c, d

- 家具の配置や視覚的な合図などの要素を用いて、対象者が特定の区域 (境界のついたエリア) でどのような活動が行われるかを示す
- 過剰な刺激を受ける環境的要因を減らし、注意が逸れることを最小限にする

物理的整理統合の例①

Aさん
生活介護事業所

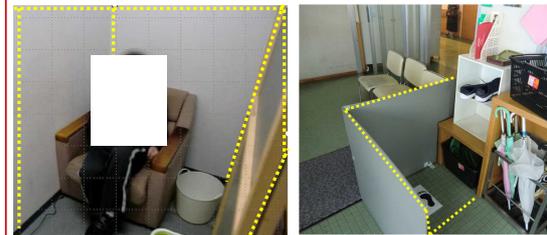
特性 & 学習スタイル (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 注目の狭さ
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 次の活動に移ることに難しさ
- 言葉の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- ルールの理解の難しさ
- 感覚刺激への過敏さ

特性 & 学習スタイル (強みの側面)

日常生活場面行動マネジメント

- パターン的に取り組むことに優れる
- 無くなったら終わりの理解
- 整理された環境で優れた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 手動コレクターの使用
- ひどく自立して移動する (屋内)
- 実物を理解する
- 好きな食べ物、飲み物がある
- 好きな運動、スポーツがある
- 自分から手を引っ張る
- ジェスチャーサインでの教出
- 直接観察における行動・態度



① 休憩エリア

② 通所時に靴を置くか、靴の履き替えエリア

物理的整理統合の例②



① 休憩 (自由) 時の設定

② 自身でエリアの設定

③ 就寝時の設定の設定

休憩と就寝の物理的整理統合

物理的整理統合の例③



Bさん
グループホーム

特性 & 学習スタイル (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難
- 一般化の困難
- 注目の狭さ (全体が見えない)
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序立てることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 話し言葉の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- 他者の視点を取ることに困難
- 感覚刺激への過敏さ、または鈍感さ

特性 & 学習スタイル (強みの側面)

日常生活場面行動マネジメント

- パターン的に取り組むことに優れる
- 無くなったら終わりの理解
- 見て次の活動を理解する
- 整理された環境で優れた力を発揮する
- 形、色の区別ができる
- 絵、写真の区別ができる
- 1~10の数を数える
- 自分から手を引っ張る
- 言葉・絵カードでの表出
- ひどく自立して移動する (屋内)
- 衣服、タオルの整理・片付けができる

6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 時間の工夫 (スケジュール)
- 方法の工夫 (ワークシステム)
- 場所の工夫 (物理的整理統合)
- 見え方の工夫 (マテリアルストラクチャー)
- やりとりの工夫 (第10回コミュニケーションプログラムで説明)

基礎研修の復習と追加情報

見え方の工夫 (マテリアルストラクチャー)

<旧>

<新>

見え方の工夫 (ヒント・着目)

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

のぞみの園 強度行動障害支援者養成研修 (基礎) プログラム4 講義3 「支援のアイデア」より

見え方の工夫

(マテリアルストラクチャー)^{a, c, d}

個々の学習教材や作業課題をやりきるために、何をするのか(課題の概念)、進捗、終わり、次に何をするのか等の情報を視覚的な手段を用いて整理する

Aさん

生活介護事業所

特性 & 学習スタイル (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 注目の狭さ
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序だてることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 次の活動に移ることの難しさ
- 言語の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- ルールの理解の難しさ
- 感覚刺激への過敏さ

特性 & 学習スタイル (強みの側面)

日常生活場面行動マネジメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなった後戻りの理解
- 整理された環境で残った力を発揮する
- 形、色の区別ができる: Δ
- 手動スレゾーラーの使用: ⊙
- ひとりで自立して移動する (屋内): ⊙
- 実物を理解する: ⊙
- 好きな食べ物、飲み物がある: ⊙
- 好きな運動、スポーツがある: ⊙
- 自分から手を引っ張る: ⊙
- ジェスチャー・アイコンでの表出: Δ
- 直接観察における行動・態度: ⊙

マテリアルストラクチャーの例①



① 除草運搬を示す具体物



② 運搬する数の除草を設定



③ 所定の場所まで運び、草を捨てる



④ 設定された草がなくなったら終わり

Aさん

生活介護事業所

特性 & 学習スタイル (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 注目の狭さ
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序だてることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 次の活動に移ることの難しさ
- 言語の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- ルールの理解の難しさ
- 感覚刺激への過敏さ

特性 & 学習スタイル (強みの側面)

日常生活場面行動マネジメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなった後戻りの理解
- 整理された環境で残った力を発揮する
- 形、色の区別ができる: Δ
- 手動スレゾーラーの使用: ⊙
- ひとりで自立して移動する (屋内): ⊙
- 実物を理解する: ⊙
- 好きな食べ物、飲み物がある: ⊙
- 好きな運動、スポーツがある: ⊙
- 自分から手を引っ張る: ⊙
- ジェスチャー・アイコンでの表出: Δ
- 直接観察における行動・態度: ⊙

マテリアルストラクチャーの例②



Bさん

グループホーム

特性 & 学習スタイル (困難さの側面)

- 見えない言葉や時間などの理解の困難さ
- 視覚の困難
- 注目の狭さ (全体が見れない)
- 気が散りやすい
- 注意の切り替えが難しい
- 臨機応変な行動が取れない
- 情報を整理し、順序だてることが難しい
- 終わりの理解が難しい
- 話し言葉の理解の困難
- 表現コミュニケーションの難しさ
- 他者の視点を取ることの困難
- 感覚刺激への過敏さ、または鈍感さ

特性 & 学習スタイル (強みの側面)

日常生活場面行動マネジメント

- パターン的に取り組むことに慣れる
- 無くなった後戻りの理解
- 見て次の活動を理解する
- 整理された環境で残った力を発揮する
- 形、色の区別ができる: ⊙
- 絵、写真の区別ができる: ⊙
- 1→1の数を数える: ⊙
- 自分から手を引っ張る: ⊙
- 写真・絵カードでの表出: ⊙
- ひとりで自立して移動する (屋内): ⊙
- 衣服、タオルの準備・片付けができる: ⊙

マテリアルストラクチャーの例③



② 各運動の終わりを示す構造化

マテリアルストラクチャーの例④



軍手干し



マテリアルストラクチャーの例⑤



感覚の興味を活用した活動



水遊びの活動

見てわかる工夫（構造化）の効果と展開

- 本人にとって、「得られるメリット」的な活動になっているか
eラーニング⑩で解説
- うまく伝わっていないと感じたら、伝え方を見直す（再構造化）
eラーニング⑮で解説

見直しを続けることで、その人にあった設定になる

前



後



まとめ

まとめ

- 時間の工夫（スケジュール）
- 方法の工夫（ワークシステム）
- 場所の工夫（物理的整理統合）
- 見え方の工夫（マテリアルストラクチャー）

ポイント

自閉症の人の視点や物事の理解の仕方（学習スタイル）を私たちが理解し、現在もっているスキルを把握し、活用しながら見てわかる工夫に取り組んでいく

もし、事業所で行動上の問題を示す利用者がいたら、まずは事業所の生活において不明確・曖昧な時間や場面・活動について、見てわかる工夫の検討を

参考文献

- Mesibov, G. B., & Shea, V. (2010) The TEACCH Program in the Era of Evidence-Based Practice. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 40, 570-579.
- Mesibov, G. B., et al. (2005). The TEACCH approach to autism spectrum disorders, Springer Science & Business Media.
- 佐々木正美（2004）自閉症児のための絵で見る構造化：TEACCHビジュアル図鑑。（学研のヒューマンケアブックス）
- Mesibov, G. B., Shopler, E., & Hearshey, K. A. (1994) Structured teaching. In E. Schopler & G. B. Mesibov (Eds.), *Behavioral issues in autism*. Plenum Press. New York, 195-207.

謝辞

本eラーニングの作成にあたりご協力いただいた、本人様・保護者様、支援事例を提供頂いた、社会福祉法人はーとふるの関係者様にお礼申し上げます。

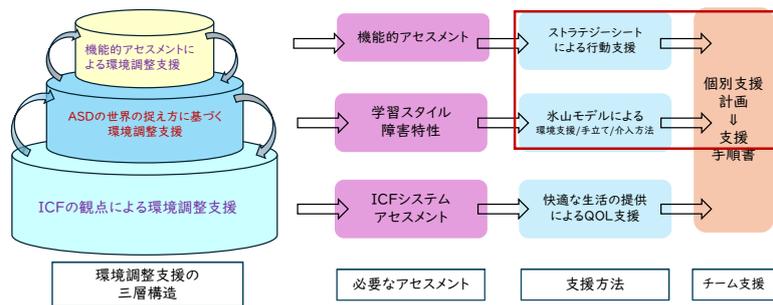
コミュニケーションプログラム

- 本講義・演習で使用するワークシート
- コミュニケーションプログラムの実施計画書

研修の流れにおける本講義の位置

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例所情報の整理 モデルの基本情報シート、事例所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシート(環境因子(できるだけ実施))
フェイズ1	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用(参加))
フェイズ2	(2)特性理解とアセスメント:集合研修	⑦課題となっている行動の観察と記録 ⑧機能的アセスメント ⑨日常生活場面の正確な観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野鳥場面の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート(上段)、スキップアッププロト(プル) FAST
フェイズ3	(3)支援の検討(行動の分析)	⑩見てわかるエピソード(観察力) ⑪コミュニケーションプログラム ⑫機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 実現場(観測行動)の検討と実践	2.5h	ハリスク場面の整理、観測行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェイズ4	(4)支援の立案と実施	⑬支援プランの立案 ⑭支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(観測分析)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェイズ5	(5)支援の見直し(PDCAサイクル)	⑮実施後の評価と改善	[12/24] 現場実況の途中経過報告(質疑-応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキップアッププロト(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェイズ6	(6)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告会	3h	
フェイズ7	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受講生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー-サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義・演習の内容

- ・ 自閉症の人のコミュニケーション
- ・ コミュニケーションの支援
- ・ 演習

この講義・演習のねらい

- ・ 自閉症のコミュニケーションの困難さや理解、表現、やりとりなどの特徴を理解し、コミュニケーションの支援方法について学ぶ

自閉症の人のコミュニケーション

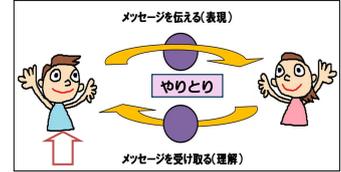
自閉症の人のコミュニケーション

- ことばのない自閉症の人も多い
- ことばを持っていても、その実用的な使用で問題になることがある
- コミュニケーションの質的障害
 - たくさんしゃべれているから問題ない、というわけではない
- コミュニケーションがうまくとれないことは、自閉症の人にとって大きなストレスの原因
- 自閉症の人のコミュニケーションの問題を理解することは、支援をする上でとても重要



コミュニケーションとは

- 他者にメッセージを伝える(表現)
- 他者からのメッセージを受け取る(理解)
- 「伝え合う」という相互作用(やりとり)
 - ことばはコミュニケーションするための1つの手段
 - ことばがたくさんあるからコミュニケーションがうまくいく、とは限らない



(1) 表現の問題

- ことばがない、ことばがあってもコミュニケーションのためにことばをうまく使えない
 - 偏った機能や文脈でのことばの使用・限定
 - 質問癖、強迫的な言動(好きな話題、気になるテーマ)
 - 即時性/遅延性のエコーリア、独り言
 - 正直すぎる表現、仰々すぎる表現、創作言語
 - 一方的に話をする
 - 奇妙な発音やイントネーション、金切り声や大声、小声でぶつぶつ話す
- 非言語性コミュニケーションの問題
 - 表情に現れない/表情から読み取れない
 - 身振り手振りがほとんどない
- 自発的な表現コミュニケーションが少ない・弱い
 - 即時性エコーリアや指示待ちの問題



(2) 理解の問題

- 聴覚情報の処理の困難さ
 - 話しことばに注意を向けることが難しい
 - 耳で聞いたことばの中から意味を抽出することがうまくできない
- ことば/文字(文章)を的確に理解できない
 - 言われていることの意味や含意を理解することが苦手
 - 文字通りの理解、一面的な理解、捉え違い
 - ことばかけを合図として捉えている傾向
- 言語表出と言語理解の不均衡
- 非言語性コミュニケーションの理解も困難
 - 視線、表情、身振り、しぐさなどがうまく読み取れない
- 「見て理解する」「絵で考える」



(3) やりとりの難しさ

- 一方的な会話
 - 話し手/聞き手の交代がうまくできない
 - 話題の維持や切り替えが苦手
 - 質問癖
 - 自分の興味関心のある話題になると、止まらなくなる
- 「心の理論」の問題
 - 相手の話を聞かない
 - 相手の意図や態度・表情に関心がなく、読み取れない
- ちょっとした会話、何気ない挨拶がうまくできない
 - 「今日は暑いですね」→(それで?)

コミュニケーションの支援

まとめ

まとめ

- 自閉症の人にコミュニケーションを教えるのは難しい
 - たくさんしゃべらせればいい、というものではない
 - 伝えることが大事
- コミュニケーションを支援することで、意思の表明と他者への信頼が培われるように
 - 周囲が、無理にことばを引き出そうとしたり、一方的に指示するばかりで(それもわからない言語指示で!)、自閉症の人がコミュニケーションすることが嫌にならないように
 - 自分の気持ちや意図を自発的に表現することは悪いことではない(いいことがたくさんある)、ということを教えたい
 - そのことで、イライラや不適切な行動を予防する
 - 意思決定支援につなげる

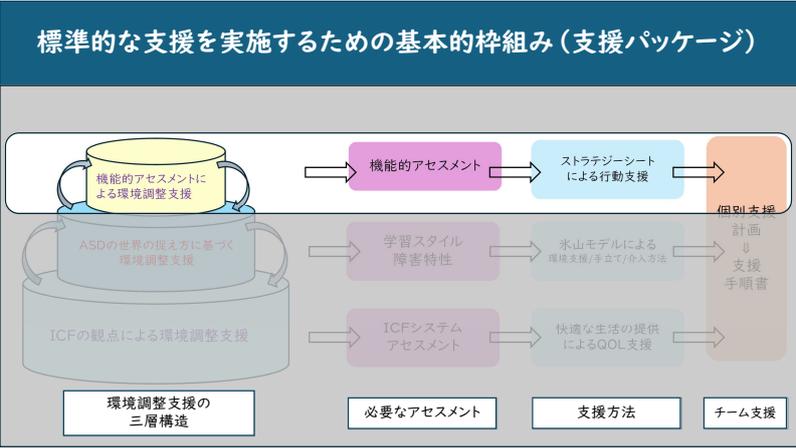


機能的アセスメントに基づく支援

本講義・演習で使用するワークシート
ストラテジーシート(下段)

研修の流れにおける本講義の位置

水山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な視点 ④-ZICFシステムのデータ入力と分析方法 ⑤-ZICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例所情報の整理 モデルの基本情報シート、事例所情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	①学習者の特性と学習スタイル ②水山モデル ③チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、水山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ1	②特性理解とアセスメント:集合研修	①課題の理解とアセスメント ②機能的アセスメント ③日常生活場面での記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ASBC記録とストラテジーシート(上段)、スキキャッチャープロット(プル) FAST
フェーズ2	③支援の検討(行動の分析)	④見てわかるエピソード ⑤コミュニケーションプログラム ⑥機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 水山現場(機能的行動)の検討と実践 実践立て	2.5h	ハリスク場面の整理、機能的行動撮影(Before/After) 水山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ3	④支援の立案と実施	⑦支援プランの立案 ⑧支援手順書の作成と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(観測分析)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、実践報告書等の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑨実践後の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告 (質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキキャッチャープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ5	⑥実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告	3h	
フェーズ5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受療生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー・サブトレーナーで対応) 研修期間中、受療生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

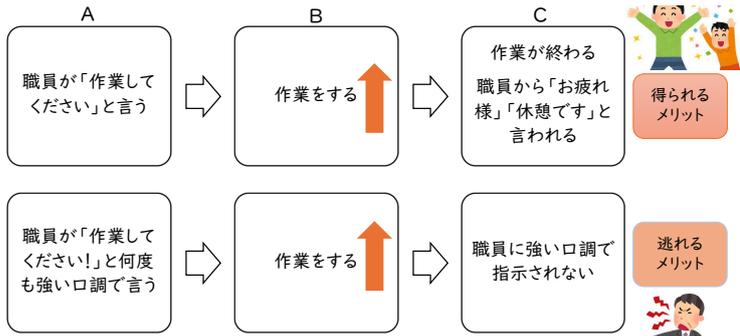
- ABCの枠組み
- 機能に基づく支援計画
- 演習
- まとめ

講義・演習のねらい

- ABCの枠組みで、課題となっている行動が増えたり減ったりするしくみを理解する。
- ストラテジーシートを用いて支援方法を検討できる。

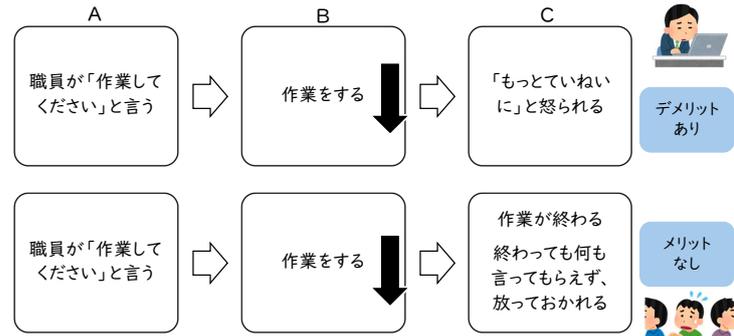
ABCの枠組み

行動の事後の結果 (C) にメリットがあると行動は増える



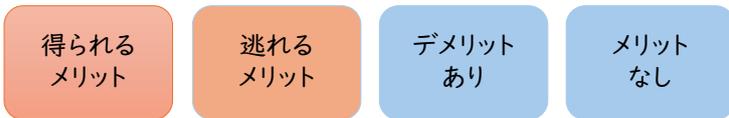
支援者にとって望ましい行動が出るからといって、本人が嫌がる結果を使用する嫌悪的アプローチは禁止

行動の事後の結果 (C) にメリットがないと行動は減る



他害があるから避けられない椅子に座らせる等、行動が減るからといって嫌悪的アプローチの使用は禁止

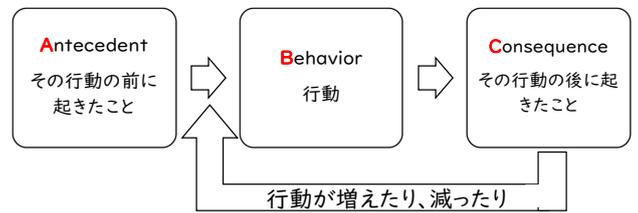
結果 (C) に注目する



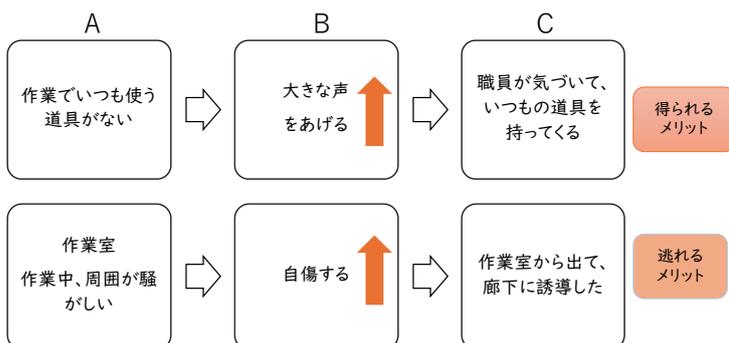
行動の増減は結果 (C) によって左右される

ある【A事前の状況やきっかけ】で
ある【B行動】をして
好ましい【C事後の状況】が得られると
将来、その行動は起きやすくなる

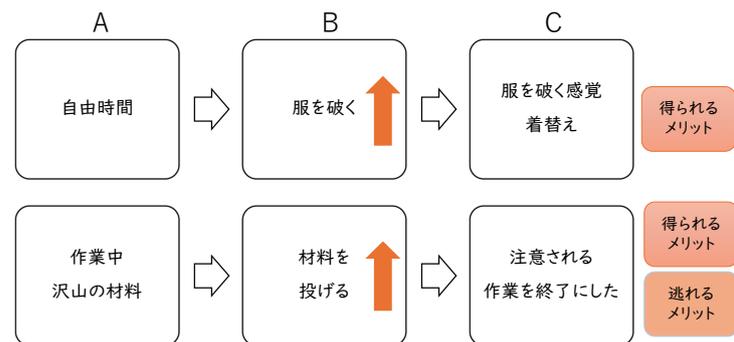
得られる
メリット



望ましい行動も課題となっている行動も事後の結果 (C) によって増える

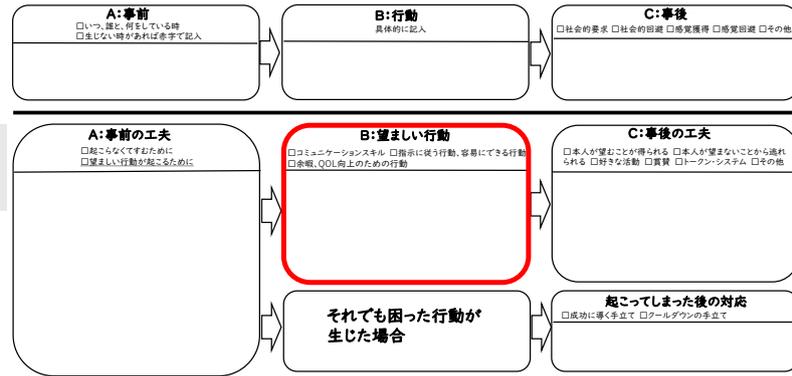


望ましい行動も課題となる行動も事後の結果 (C) によって増える



機能に基づく支援計画

ストラテジーシート (中核的人材養成研修用)



同じ機能の行動(コミュニケーション行動や代替行動)の例

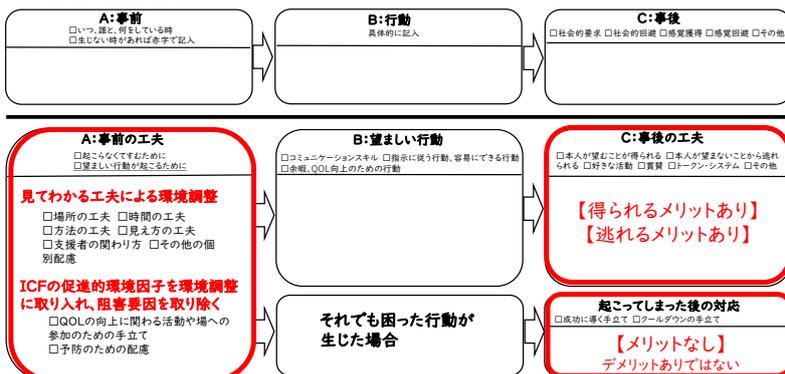
- 物や活動の要求
 - 欲しい物やしたい活動を具体物の選択肢から選択してもらう
 - 欲しい物やしたい活動を示すカードと欲しい物を交換する
- 注目や関わりの要求
 - 活動が終わったら報告をする
 - 活動を一緒に行う
- 社会的な場面での回避や逃避
 - やりたくない時に「終わり」を示すカードを渡す
 - その場を離れたいときに、あらかじめ決めた場所に自発的に移動する
- 感覚
 - 破壊の感覚を求めている方に、リサイクル作業で破壊の感覚を作業内で得られるようにする
 - 人が多く集まる時間はノイズキャンセラーのイヤホンでラジオを聴く

アセスメントに基づく望ましい行動を選ぶポイント

- 同じ機能のコミュニケーション行動
- 容易にできる代替えとなる行動
- 同時にできない行動
- その場に適した望ましい行動
- QOLの向上につながる行動
- 余暇 等々

日常生活場面行動アセスメントシートの活用

ストラテジーシート (中核的人材養成研修用)



演習

・演習課題⑤「ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる」行動への対応について、ストラテジーシートの下段を記入してみましょう。

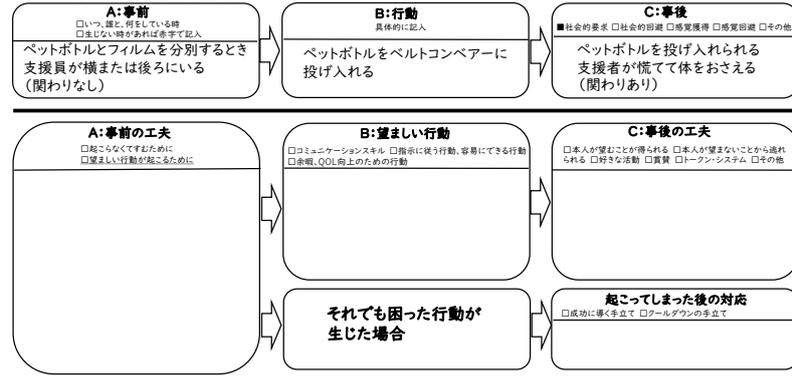
・アイデアを発散する場面です。実行可能性の低いことも出してみましょう。

演習課題⑤

ストラテジーシート

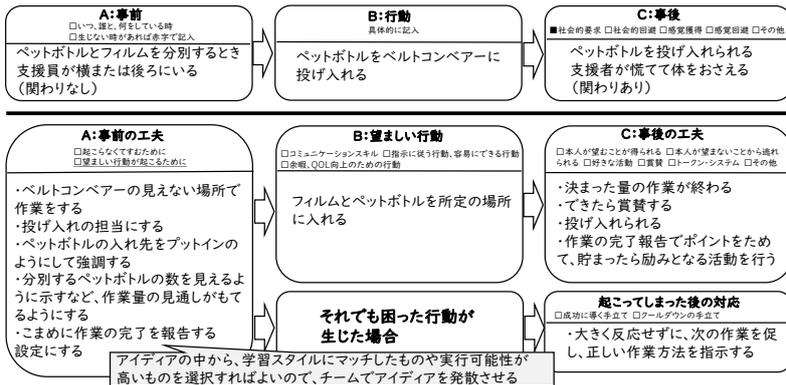
(中核的人材養成研修用)

ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。



ストラテジーシート
(中核人材養成研修用)

ペットボトルをベルトコンベアーに投げ入れる。



まとめ

- 強度行動障害では、どうしても激しい行動の形(自傷か、破壊かなど)に目がいきがちになるが、ABCの枠組みでは、行動の前後の環境側の変化に目を向ける。
- 望ましい行動も課題となっている行動も、行動の事後の結果によって、増えたり、減ったりしている。
- 支援では、望ましい行動やQOLの向上につながる行動を生じやすくするために、AとC、つまり行動の前後の環境を調整していく。

謝辞

本eラーニングの作成にあたりご協力いただいた、本人様・保護者様、支援事例を提供頂いた、コープデリ生活協同組合連合会様、社会福祉法人はーとふるの関係者様にお礼申し上げます。

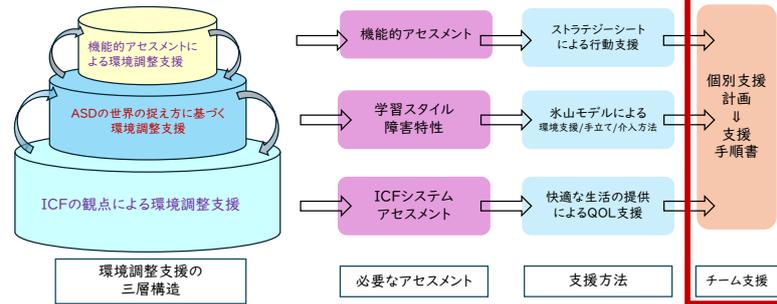
支援プランの立案

本講義・演習で使用するワークシート
● 支援プランの立案ワークシート

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ習得(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ④-ZICFシステムのデータ入力と分析方法 ⑤-ZICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例情報整理 モデルの基本情報シート、事例情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
フェイズ1	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェイズ2	(2)特性理解とアセスメント:集合研修	⑦機能的アセスメント ⑧地域生活場面での記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と実践 (動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの親子の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート(上段)、スキップアプロット(プル) FAST
フェイズ3	(3)支援の検討(行動の分析)	⑨見てわかるエピソード(録音化) ⑩コミュニケーションプログラム ⑪機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先場面(機能的行動)の検討と実践	2.5h	ハリスク場面の整理、機能的行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム実践状況チェックシート①
フェイズ4	(4)支援の立案と実施	⑫支援プランの立案 ⑬支援実施の計画と実践の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援多職種(職能)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、実践報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム実践状況チェックシート②
フェイズ5	(5)実践の見直し(PDCAサイクル)	⑭実践の評価と改善	[12/24] 現場実践の途中経過報告(質疑・応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキップアプロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム実践状況チェックシート③
フェイズ6	(6)実践報告会		[2/10] 現場支援の実践報告会	3h	
フェイズ7	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受療者の事業所に訪問する。オンラインで取り取り(トレーナー/サブトレーナーで対応) 研修期間中、受療者への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

研修の流れにおける本講義の位置

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

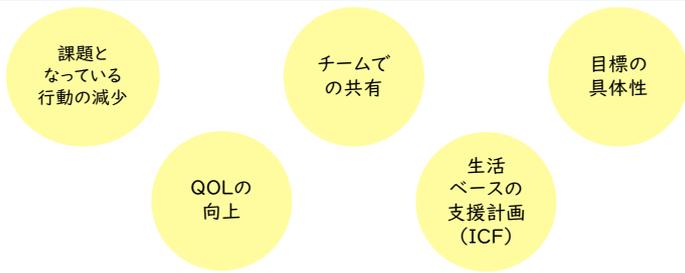
- 支援計画の考え方
- 支援計画作成のポイント
- 演習
- まとめ

この講義のねらい

- ICFを活用したQOLを意識した支援計画の目標設定や手立てについて理解する
- 様々なアセスメントに基づいた支援について理解する

支援計画の考え方

強度行動障害の視点から見た支援計画の課題



支援計画はマネジメントサイクルの要

支援計画作成のポイント

ポイントを確認します

支援計画と
アセスメント
の結びつき

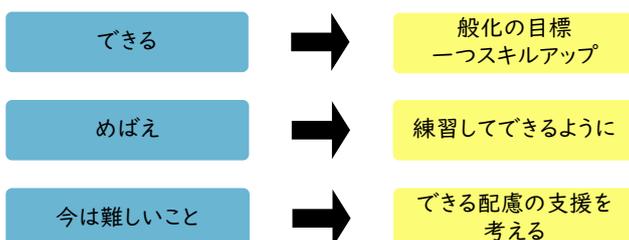
具体的な
目標設定

QOLの視点
を入れる

支援計画とアセスメントの結びつき

- ニーズアセスメント→優先順位
- スキルアセスメント→具体性
- 学習スタイル/特性アセスメント
→支援の手立て

スキルアセスメントの活用



具体的な目標設定

- ゴールの行動をイメージする
- 目標の中に具体性をいれる

ニーズアセスメント(目標を絞り込む)			
保護者の願い		児童の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ●グループワークでの学び ●一人で思いやることができるようにしたい ●絵に表現できるようなりたい ●パソコンや楽器、遊具がなくなってしまう ●楽しさを伝えずに帰ってしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワークに参加を拒否して、自演の場面を演じる ●一人で思いやることができるようにしたい ●絵に表現できるようなりたい ●楽しさを伝えずに帰ってしまう ●楽しさを伝えずに帰ってしまう 		
共通のニーズ			
●伝えたいことをわかってほしい	●いっしょの外出先を楽しみたい	●好きな遊びをしたい	
ニーズの優先順位を絞り込む			
ニーズの優先順位	内容	理由	実施したい
1	コミュニケーション能力の向上	コミュニケーション能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	コミュニケーション能力の向上
2	自己表現能力の向上	自己表現能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	自己表現能力の向上
3	社会生活能力の向上	社会生活能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	社会生活能力の向上
4	生活リズムの安定	生活リズムの安定が、今後の生活に大きく影響する	生活リズムの安定
5	学習意欲の向上	学習意欲の向上が、今後の生活に大きく影響する	学習意欲の向上
6	身体能力の向上	身体能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	身体能力の向上
7	情緒安定の向上	情緒安定の向上が、今後の生活に大きく影響する	情緒安定の向上
8	生活リズムの安定	生活リズムの安定が、今後の生活に大きく影響する	生活リズムの安定
9	学習意欲の向上	学習意欲の向上が、今後の生活に大きく影響する	学習意欲の向上
10	身体能力の向上	身体能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	身体能力の向上
11	情緒安定の向上	情緒安定の向上が、今後の生活に大きく影響する	情緒安定の向上
12	生活リズムの安定	生活リズムの安定が、今後の生活に大きく影響する	生活リズムの安定
13	学習意欲の向上	学習意欲の向上が、今後の生活に大きく影響する	学習意欲の向上
14	身体能力の向上	身体能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	身体能力の向上
15	情緒安定の向上	情緒安定の向上が、今後の生活に大きく影響する	情緒安定の向上
16	生活リズムの安定	生活リズムの安定が、今後の生活に大きく影響する	生活リズムの安定
17	学習意欲の向上	学習意欲の向上が、今後の生活に大きく影響する	学習意欲の向上
18	身体能力の向上	身体能力の向上が、今後の生活に大きく影響する	身体能力の向上
19	情緒安定の向上	情緒安定の向上が、今後の生活に大きく影響する	情緒安定の向上
20	生活リズムの安定	生活リズムの安定が、今後の生活に大きく影響する	生活リズムの安定
具体的な行動目標→			

演習

演習: アセスメントから目標を一つたててみる

- ワークシート内のアセスメント欄を確認して目標を一つたててみてください
- 作成した後に3つのチェックポイントを確認してください

チェックポイント

支援計画とアセスメントの結びつき

具体的な目標設定

QOLの視点を入れる

領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方
職場スキル/職務行動	30分以内の事業所の仕事に取り組む(新しい仕事2種類)	・2種類の新しい仕事 ・30分程度持続して仕事をする	・作業量を目で見てわかるように設定留守 ・壁側の端(決まった場所)で他利用者と距離を取る ・報告確認後はすぐにトークンを選ぶ
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす(新しい余暇グッズ5種類)	・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす	・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバッティングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する
職場スキル/職務行動	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	・トークンとご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める	・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う
コミュニケーション	離れたスタッフに要求や困ったことを伝える(3種類で15種類のコミュニケーション)	・3つの場面でコミュニケーションカードを使う ・新しい15種類のコミュニケーションカードを使う	・要求できる余暇グッズの写真カードを用意する ・写真カードは本人がイメージできるものを用意する ・2 or 3つの活動を選択ボードで選択

まとめ

支援計画のまとめ

- チェックポイントの整理
- 学びやすい環境設定
- 教える視点を入れることも大切

支援手順書の作成と実際の対応

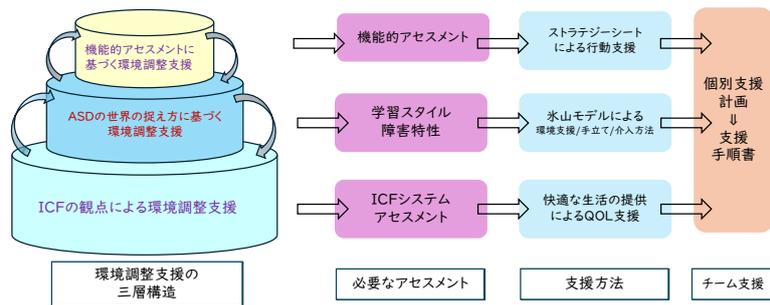
本講義・演習で使用するワークシート

- 課題分析シート
- 支援手順書

研修の流れにおける本講義の位置

氷山モデルMX	科目名	事前学習(eラーニング)	グループ討議(オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践(約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な枠組み ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例情報整理 モデルの基本情報シート、事例情報シート(ハイルスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	フェーズ1	①研修ガイダンスとチーム支援 ②氷山モデル ③チーム支援	【8/26】 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用-参加)
	フェーズ2	①特性理解とアセスメント:集合研修 ②行動の検討(行動の分析)	【9/27, 10/1】 モデルの紹介と実践(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの野郎場面の動画撮影 ASDC記録とストラテジーシート(上段)、スキッパープロット(プル) FAST
	フェーズ3	③見えてわかるエッセ(編纂化) ④コミュニケーションプログラム ⑤機能アセスメントに基づく支援	【10/29】 優先場面(継続行動)の検討と実践 実践によるプレゼン	2.5h	ハイルスク場面の整理、継続行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、 コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実践状況チェックシート①
	フェーズ4	⑥支援の立案と実施 ⑦支援手順書の作成と実践の対応	【11/26】 実践計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手順書(個別合符)の作成と実践 支援現場の動画撮影②、実践報告書等の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実践状況チェックシート②
	フェーズ5	⑧実践の見直し(PDCAサイクル) ⑨実践報告書	【12/24】 実践期間の途中経過報告(個別-合符)	2.5h	支援現場の動画撮影③、実践報告書の作成 スキッパープロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実践状況チェックシート③
	フェーズ6	⑩実践報告書	【2/10】 現場支援の実践報告	3h	
	フェーズ7	フォローアップ	トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
	補綴		各受講生の事業所に訪問する、オンラインで取り取り(トレーナー/サブレナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブレナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



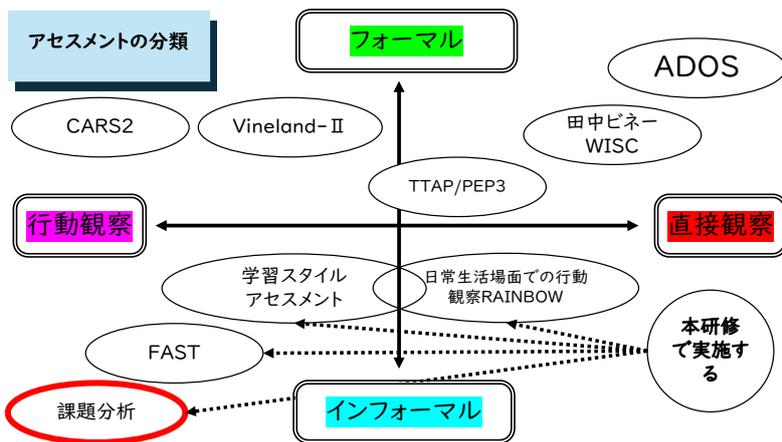
講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

- 課題分析
- 教え方(指示の階層)
- 教え方の実践
- 支援手順書

この講義のねらい

ねらい1(知識): 自閉症の学習スタイルと理解スキルに応じた課題分析を理解する
ねらい2(技術): 課題分析に沿った教え方と改善の指標をチームで理解し実施する



課題分析

●課題分析とは

- ・インフォーマルな行動観察によるアセスメント
- ・活動の手順を、小さな行動単位に分けて、時系列に並べて記述したもの（プログラム学習）
- ・自立の度合いを評価でき、いつも同じ手順と関わり、そして最小限の指示で活動を自立に導くもの

【課題分析の意味】

①支援の目的を確認する(RAINBOWを参照に)

- ・身辺自立: 食事の仕方、着替え、歯磨き、入浴、トイレ、身だしなみなど
- ・家事: 掃除、洗濯、洗濯干し・たたみ、片付け、買い物など
- ・その他: 散歩、運動、地域の公共施設・交通機関の利用など

②支援の組み立て方(状況設定・期間)を作る

- ・「いつ、どこで、何を、どのくらい、どのように、誰と」

③教え方の段取り(手続き)を整理する

- ・どの教え方が一番有効か? 手添え>モデル>指さし>言葉

④支援の効果をモニタリング

- ・支援の改善につなげる(教え方・環境調整の改善)

【課題分析の作り方】

- ・熟知している人のやり方を観察する
- ・熟知している人からコツややり方、工夫を聞き取る
- ・支援者が実際にやってみる
- ・最も利用者に適したやり方や行程を決める
- ・手順を細かな行動単位に分けて書き出す
- ・はじめから細かく分析しない(うまくいかない場合に細かく)
- ・物や活動に名前をつける(活動名は大切)
- ・具体的で簡潔な言葉で記載する(左手で封筒の両側を押さえて、右手で封筒の口を開き、チラシを入れる・・・)

【②支援の組み立て方(状況設定)を作る】

例) 食器洗い

課題	食器洗いが一人でできるようになる
理由	・食器洗いのスキルがある・水が好き・家族の希望・GHでの生活を 目指して・今後、調理や買い物につなげたい
場面設定	いつ=毎夕食の後 誰が=お母さんが教える どこで=台所の流し 何が=はじめは自分の食器だけ
方法	食器洗いの場면을構造化する 「課題分析(後で説明)」を行い、直接援助のポイント絞る 教え方(モデリング)と声かけて回数教える
評価期間	6月から7月 毎夕食後、記録する 習熟と自立の度合いを確認する(達成度評価)

【課題分析の活動例】

例) 食事場面

食堂で食事を食べる

- ①自分の席に座る
- ②自分の分を座って食べる
- ③嫌いなものは適切に残す
- ④欲しい時にはおかわりを求める
- ⑤食事が終わるまで待つ
- ⑥片付ける
- ⑦次の行動に移る

例) 移動場面(地域活動)

路線バスに乗る

- ①バス停で待つ
- ②適切なバスに乗る
- ③空いている席に座る
- ④席が空いていない時は、立つ
- ⑤落ち着いて乗っている
- ⑥予定された場所で、降りる準備をする
- ⑦PASMOをリーダーにかざす
- ⑧バスから降りる

教え方(指示の階層)

【指示の4階層(教え方)】

●上手な活動の教え方

- ・支援者が手順を習熟している・いつも同じ手順で教える
- ・指示や手がかりの出し方(タイミングも)が最小限で的確
- ・正しくできたら誉める(その人に伝わる方法で)



【課題分析の記録をつけよう】

路線バスに乗る	
①バス停で待つ	V
②適切なバスに乗る	V
③空いている席に座る	G
④席が空いていない時は、立つ	+
⑤落ち着いて乗っている	M
⑥予定された場所で降りる準備をする	G
⑦PASMOをリーダーにかざす	+
⑧バスから降りる	+

+=自立 V=言葉 G=ジェスチャー M=モデル P=手添え

【課題分析を利用して教える】

行動の単位	1回	2回	3回
①食器を流しに持って行く	G△	V△	V△
②スポンジに洗剤をつける	P△	G△	G△
③食器をスポンジで洗う	M△	V△	V△
④スポンジをゆすいで片付ける	G△	V△	+
⑤食器を水洗いしてカゴに入れる	G△	G△	V△
⑥食器を布巾でふく	G△	V△	V△
⑦食器を食器棚に片付ける	G△	V△	+

+=自立 V=言葉 G=ジェスチャー M=モデル P=手添え

【課題分析を利用して教える】

「見て分かる工夫のアイデア」

行動の単位	見て分かる工夫(構造化)のアイデア
①食器を流しに持って行く	スケジュールで提示
②スポンジに洗剤をつける	洗剤の量はキャップ1杯
③食器をスポンジで洗う	ルーチン(内側5回→外5回)
④スポンジをゆすいで片付ける	スポンジおきを設置
⑤食器を水洗いしてカゴに入れる	全部水桶に入れてから、1ずつ水洗いする
⑥食器を布巾でふく	ルーチン(内側5回→外5回)
⑦食器を食器棚に片付ける	食器おきを設置

【課題分析の修正や応用】

●本人に適したやり方を決める

- ・ステップの項目を見直す(細かくor粗く)
- ・つまづきの理由を推測し補い方を検討(スキルなのか、注目なのか、環境なのか、感覚の問題?)

●視覚的な手がかりの工夫

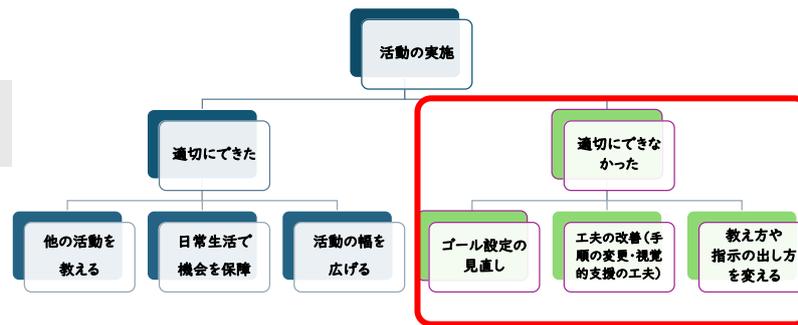
- ・開始や終わり方の手がかり、手順や進め方、場所や範囲の提示、ポイントの強調など

●その他

- ・ルーティンの活用や本人の慣れ親しんだ方法など

【支援の方向性を検討する】

教え方の実践



アセスメントから見て分かる工夫(構造化)の改善

ステップ	初回	2回	3回
1 自立課題に取り組む	P△		
2 無くなったらおしまい	P△		
3 終了箱に入れる	P△		

評価

学習スタイル



- ①見て理解>言葉の理解が困難
- ②注目が狭くて強い(注目すべき情報に注目できない)
- ③活動や時間の「はじまり」と「終わり」見通せない

再評価と見て分かる工夫(構造化)の改善

ステップ	初回	2回	3回
1 自立課題に取り組む	P△	○	○
2 無くなったらおしまい	P△	○	○
3 終了箱に入れる	P△	M△	○

学習スタイル

改善内容



アセスメントから見て分かる工夫(構造化:時間の工夫)

ステップ	初回	2回	3回
1 勉強カードを受け取る	○		
2 勉強カードをポケットに入れる	P&G△		
3 着席して勉強に取り組む	○		

再評価

学習スタイル



- ①見て理解する
- ②注目が狭く強い(注目すべき情報に注目できない)
- ③活動や時間の「はじまり」と「終わり」が見通せない

再評価と見て分かる工夫(構造化:時間の工夫)の改善

ステップ	初回	2回	3回
1 勉強カードを受け取る	○	P△	○
2 勉強カードをポケットに入れる	P&G△	M△	○
3 着席して勉強に取り組む	○	○	○

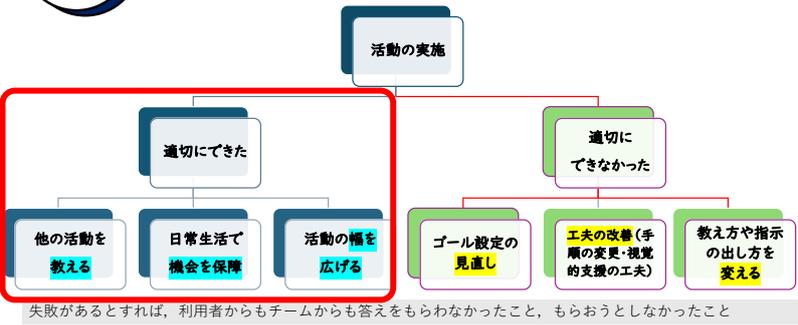
学習スタイル

改善内容





【支援の方向性を検討する】 事例利用者からもらった答えを確認する



失敗があるとなれば、利用者からもチームからも答えをもらわなかったこと、もらおうとしなかったこと



色分けのスキルと見て分かる工夫(構造化)



支援手順書

支援手順書の目的

- チームで行うためのもの
- 統一した対応を目指す
- 支援の記録(効果検証)
- 支援の改善の手がかりを得る

チームで行うためのもの

統一した対応を目指す

●「いつ、どこで、誰が、何を、どのようにするか」の設定が「課題分析に沿って」明記されている

●【本人の動き(役割)】と【職員の動き(役割)】が明記されている

▶本人役、支援者役でリハーサルすることも忘れずに



支援手順書

利用者名	性別	サービス提供日	令和3年5月	作成者	
事業所名	サービス名	生活介護	時間	10:00-16:00	
※評価基準	●=自立(指示なし) ×=できなかった ○=もう少しでできる △=指示がないと難しい	※Tカードトランジションカード			
目安となる時間帯	活動名/エリア	活動エリアにおける本人・職員の役割(課題分析)		評価	
※所時(10:00)	※所/玄関	【本人の役割】 ①靴を履き替える。②タイマーを止める。③看板(Tカード)を取る。 【職員の役割】 ・内服を用意。外服を片付け、靴のカゴを用意する。 ・下駄箱選びをしないように、隣で見守る。 ・タイマーが止まっても2分間は手出しせず、見守る。	① △ ② ○ ③ ○		
※随時	※スケジュール/玄関付近	【本人の役割】 ①Tカード(看板)を置く。②上から順番にカードを取る。③本人の行動に合わせてスケジュールを調整する。 【職員の役割】 ・看板が完成したら、ご褒美カードを差し替える。	① △ ② ○ ③ ●		
※活動終了時 11:40時 14:40時	※みじたく(着衣)/冷凍庫裏	【本人の役割】 ①みじたくカードを入れる。②マスクをつける。③ヘアネットをつける。④自炊を履く。⑤手洗いカードをとる。⑥手洗いエリアに行く。 【職員の役割】 ・自炊のジッパーを上げる。 ・必要に応じて手洗いを促す。	① ○ ② △ ③ △ ④ △ ⑤ ● ⑥ ●		

支援の記録(効果検証)

時間	活動名/エリア	本人の役割	職員/支援者の役割	評価
10:00-11:45 13:15-15:00	自立訓練/ロッカー室	①作業カードを置く。②作業を取る。③看板を取る。④スケジュールを確認する。 【職員の役割】 ・作業の準備(分岐、セットなど)をしておく。 ・③、④ができるように見守る。	① ● ② ● ③ ● ④ ●	
10:00-11:45 13:15-15:00	休憩/ロッカー室	①休憩カードを置く。②休憩する。③タイマーを止める。④スケジュールを確認する。 【職員の役割】 ・扉の動きをつけておく。 ・③、④ができるように見守る。	① ○ ② ● ③ ● ④ ●	
11:30-13:15	洗濯/洗濯機	【本人の役割】 ①お風呂カードを入れる。②お風呂を止める。③Tカードを取る。 【職員の役割】 ②で止まったら本人の後ろに立つ。	① ● ② ● ③ ○	
11:30-13:15	昼食/作業エリア	【本人の役割】 ①お風呂カードを入れる。②お風呂を止める。③お風呂を止めた後下駄箱に入る。④Tカードを取る。 【職員の役割】 下駄箱所に履き直しカードを準備しておく。	① ● ② ● ③ ● ④ ●	
14:50	おやつ/作業エリア	【本人の役割】 ①おやつカードを入れる。②おやつを食べる。③Tカードを受け取る。 【職員の役割】 トイレ/洗面台からTカードを手渡す。	① ● ② ● ③ ●	
※帰宅時 15:30-15:55	かばん/引き出し	【本人の役割】 ①かばんカードを入れる。②カゴから靴をとる。③呼び声まで待機し、帰宅する。 【職員の役割】 靴をなし。	① ● ② ● ③ ●	

支援の改善の手がかりを得る

評価	コメント
① ● ② ● ③ ● ④ ●	<p>⑤タイムテーブル 情報量が多いため、3つ先までのスケジュールとなっています。スケジュールの調整は職員が行います。</p> <p>【留意事項】 ・個別への移動の準備として、必ずスケジュールを確認します。 ・トランジションカード(Tカード)は「スケジュールに合ったカード」の役割です。主な場所の「おむつ」の次には、トランジションカードがあるように設定しています。配っていない場合は配ってください。</p> <p>★作業範囲について 「カードと同じ頻度」(スケジュールに合ったカード)をもっていきます。 ・作業範囲は、その日の課題が中心となります。高機能については、機材に決められておらず、機材のある場所は「おむつ」「手洗い」「休憩」「作業(片付け/自立課題)」の4ヶ所です。 【留意】 ・時間制限(タイマー)があります。残り時間から職員がカードに差し替えてください。 (機材なくても行動を促すことなしに促すこともあります。機材で差し替えておきます。)</p> <p>★スケジュール前の行動停止について 高機能/高機能者への対応が異なります。生活の質を高く保てるため、(一日中自衛する)ことがあります。</p>

- 支援の結果が客観的な指標に則って記録されている(量的な記録)ことがポイント
- 量的な記録と、質的(印象・意見など)記録から支援の改善の手がかりを得る

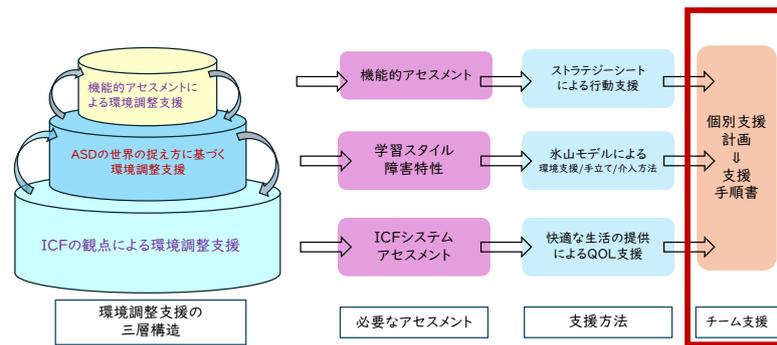
実施後の評価と改善

研修の流れにおける本講義の位置

本講義・演習で使用するワークシート
 ● 実施後の評価と改善ワークシート

氷山モデルMX	科目名	事前学習 (eラーニング)	グループ習得 (オンライン/集合研修)	時間	グループ討議後の現場の実践 (約1ヶ月) 主な使用シート類
	準備期間	①研修概要について ②標準的な支援と中核的人材養成研修の基本視点 ③-1標準的な支援を実施するための基本的な情報 ③-2ICFシステムのデータ入力と分析方法 ③-3ICFシステムで記録した情報をQOL支援に活用する	-	1.5h	モデル情報・事例情報整理 モデルの基本情報シート、事例情報シート(ハリスク場面)、BPT-S ICFシートの環境因子(できるだけ実施)
	(1)研修ガイダンスとチーム支援	④学習者の特性と学習スタイル ⑤氷山モデル ⑥チーム支援	[8/26] 研修ガイダンス モデルを含む現場支援の状況・優先順位の確認	2.5h	支援現場-モデルの親子の動画撮影 特性と学習スタイルワークシート、氷山モデルワークシート 日常生活行動場面アセスメントシート(+ICFシートの活用・参加)
フェーズ 1	②特性理解とアセスメント:集合研修	⑦機能的アセスメント ⑧日常生活場面での記録観察	[9/27, 10/1] モデルの紹介と変更(動画によるプレゼン)	2.5h	モデルの詳細場面の動画撮影 ASD記録とストラテジーシート(上段)、スキキャプアプロット(プル) FAST
フェーズ 2	③支援の検討(行動の分析)	⑨見てわかるエス(動画化) ⑩コミュニケーションプログラム ⑪機能的アセスメントに基づく支援	[10/29] 優先場面(機能的行動)の検討と支援立て	2.5h	ハリスク場面の整理、機能的行動の動画撮影(Before/After) 氷山モデルワークシート、活用と参加の支援計画書、コミュニケーションプログラムの実施計画書、ストラテジーシート(下段) チーム支援実行状況チェックシート①
フェーズ 3	④支援の立案と実施	⑫支援プランの立案 ⑬支援手帳書の作成と実施の対応	[11/26] 実施計画の作成/修正	2.5h	支援計画シート、支援手帳書(観覧用)の作成と実施 支援現場の動画撮影②、支援報告書の作成(ICFシートの活用)、 チーム支援実行状況チェックシート②
フェーズ 4	⑤支援の見直し(PDCAサイクル)	⑭実施後の評価と改善	[12/24] 現場実装の途中経過報告(質疑-応答)	2.5h	支援現場の動画撮影③、支援報告書の作成 スキキャプアプロット(ポスト)、ICFシート(ポスト) チーム支援実行状況チェックシート③
フェーズ 5	⑥実施報告会		[2/10] 現場支援の実践報告会	3h	
フェーズ 5	フォローアップ		トレーナーによる訪問/オンラインコンサルテーションと実践ワークショップの開催		
補綴			各受講生の事業所に訪問する、オンラインで聞き取り(トレーナー/サブトレーナーで対応) 研修期間中、受講生への個別のフォロー(地域支援をかねて、サブトレーナーが対応)		

標準的な支援を実施するための基本的枠組み(支援パッケージ)



講義・演習の内容とねらい

この講義の内容

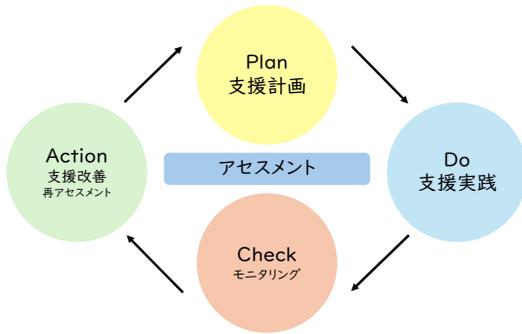
- PDCAサイクルの考え方
- 評価と改善のポイント
- 演習
- まとめ

この講義のねらい

- 評価と改善のポイントについて理解する
- 再アセスメントと支援の継続の必要性を理解する

PDCAサイクルの考え方

強度行動障害支援からみたPDCAサイクル



評価と改善のポイント

ポイントを確認します

チームで評価

チームで評価

再アセスメント

支援の継続

- 具体的な評価基準を作る
- 記録の活用

再アセスメント

支援の継続

- アセスメントは定期的に更新
- 必要なアセスメントの実施

- PDCAの流れを回していく
- コンサルテーションの活用
- 大きいチーム(関連機関)との連携

支援計画シートの書式から確認してみましょう

支援計画シート
期間：20××年4月1日 - 20××年9月30日

種別	実施内容	実施の目的	実施の手段	実施の時期	実施の場所	実施の担当者	実施の回数	実施の回数	実施の回数	実施の回数
20××年4月	20××年4月1日									

※実施内容、実施の目的、実施の手段、実施の時期、実施の場所、実施の担当者、実施の回数、実施の回数、実施の回数、実施の回数

支援計画シートの書式から確認してみましょう

支援計画シート
期間：20××年4月1日 - 20××年9月30日

種別	実施内容	実施の目的	実施の手段	実施の時期	実施の場所	実施の担当者	実施の回数	実施の回数	実施の回数	実施の回数
20××年4月	20××年4月1日									

※実施内容、実施の目的、実施の手段、実施の時期、実施の場所、実施の担当者、実施の回数、実施の回数、実施の回数、実施の回数

評価の結果からQOLを意識した計画を考えましょう。また、再アセスメントが必要になる項目や追加のアセスメントが必要になる場合があります。

目標が具体的だとチームで評価しやすくなります。また、日々の記録も重要になります。
※必要に応じてコンサルテーションなどの資源も有効活用しましょう。

演習

15：実施後の評価と改善（ワークシート）

種別	実施内容	実施の目的	実施の手段	実施の時期	実施の場所	実施の担当者	実施の回数	実施の回数	実施の回数	実施の回数
20××年4月	20××年4月1日									

再アセスメント（または追加のアセスメント）が必要と思われる項目はアセスメント裏面で行いましょう

演習：再アセスメントの項目を検討する

- 実施後の評価から目標作成に必要な再アセスメントを考えてみましょう

チェックポイント

チームで評価

再アセスメント

支援の継続

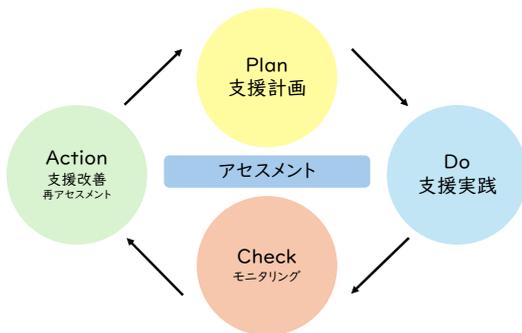


再アセスメント（または追加のアセスメント）が必要良いと思われるアセスメント書いてみましょう

- ・自由時間で使えそうな余暇アセスメント
- ・スキルの再アセスメント
- ・2週間程度で交換できる欲しいもののリストの再アセスメント

まとめ

強度行動障害支援からみたPDCAサイクル



PDCAサイクルのまとめ

- ・ チェックポイントの整理
- ・ コンサルテーションの活用
- ・ 再アセスメントから支援の継続

第1回研修プログラム(西日本ブロック)

■科目名：チーム支援とガイダンス

時間	プログラム	講師	使用する資料等
9:15~	受講者入室		
9:30 (10分)	開会挨拶 行政挨拶	田中 正博(設立のぞみの園) 山根 和史 氏 (厚生労働省)	
9:40 (10分)	研修ガイダンス	研修ディレクター 中山 清司 氏 (高槻広域サービス企画ネット)	
9:50 (30分)	【講義】強度行動障害支援における組織的サポートと人材育成の必要性	中野 伊知郎 氏 (倶愛会)	研修第1回配布資料
10:20 (90分)	【グループ討議】※ブレイクアウトルーム 自己紹介 各現場の実情と当面の課題 今回の研修に期待すること 研修に関する質問・要望 等	各グループトレーナー	【事前課題】 ・モデル利用者基本情報シート ・事業所情報シート ・ICシート(環境因子) ・BPI-S
11:50 (10分)	まとめ 事務連絡	研修ディレクター 中山 清司 氏	研修第1回配布資料
12:00	閉会		

令和6年度中核的人材養成研修

第1回資料

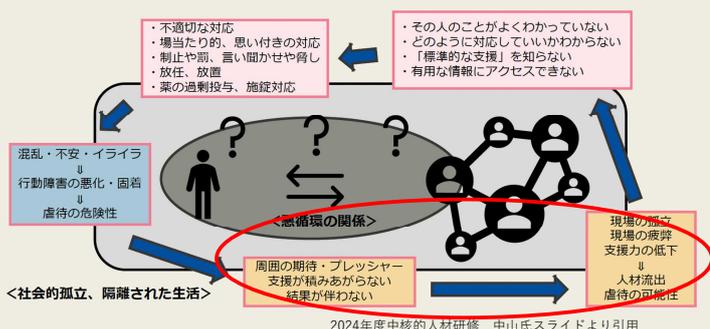
第1回研修のねらい

- 研修の意図や構成について理解を深め、今後の研修内の実践に向けた体制整備を進められるようにする
- 各受講者が取り上げるモデル利用者や事業所における支援の現状と課題について、グループ内で共有する

強度行動障害支援における組織的サポートと人材育成の必要性

社会福祉法人 倶愛会
総合施設長 中野伊知郎

行動障害と支援現場における悪循環の構図



組織的サポートとして何が必要なのか

➤現場を孤立させない(組織的に関わっていきながら良い支援を行う)

- ① 専門性を担保するための人材育成の仕組みを構築
- ② 現場での実践を基本としたスーパービジョンを受けられる仕組みの構築
- ③ チームで取り組むことを意識できるようにマネジメントする
- ④ メンタルサポートの仕組みの構築
- ⑤ 組織的承認
- ⑥ 地域資源の活用や相談支援事業所等を軸とした連携

その人らしい生活スタイルに合わせて、豊かな暮らしを営むことに
仕事の価値を見出すこと

専門性を担保するための 人材育成の仕組みを構築

組織的に取り組むために必要なこと

理念・ミッション・ビジョン

- 理念・ミッション・ビジョンが組織内に浸透して、仕事の価値を共有している
- 理念・ミッション・ビジョン・中・長期計画に基づいた人材確保と育成、定着に向けた方針が共有されている

管理者としての姿勢

- 自閉症、行動障害、人権擁護等、組織のトップも含めた管理者が中心となって課題解決にあっている姿勢
- 有用な情報にアクセスできる

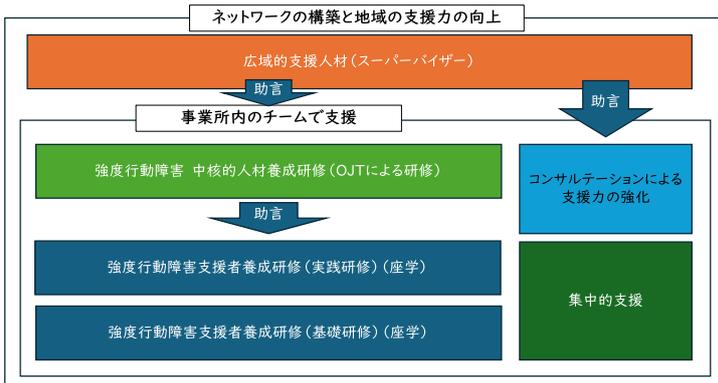
組織としてのあり方

- 強度行動障害支援者養成研修を受けて共通言語を学ぶことと合わせて、現場での実践で学ぶ機会を提供
- 組織全体で根拠のある支援を共有している（標準的な支援）
- 必要な人的配置と外部の専門家との連携が行われている
- 必要な環境整備を積極的に行っている

組織としての変化

- 社会の変化、制度の変化、ニーズの変化に組織として対応できる

組織的な人材育成



スーパービジョンを受けられる 仕組みの構築

専門家がチームに関わることに対する効果

障害特性の理解、アセスメント方法を実践から学ぶ事ができる

- 事例を通してその人の特性の理解とアセスメントの視点を学ぶことによって支援根拠のある支援ができる

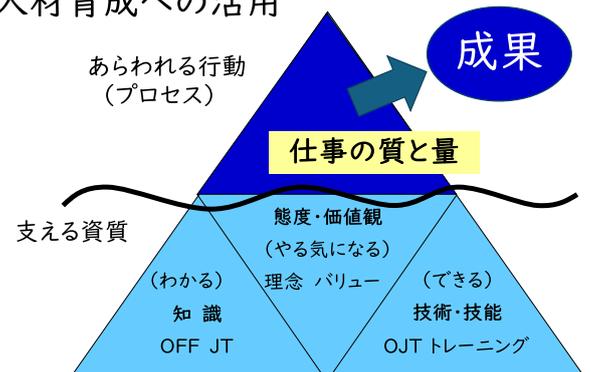
支援者が長期的見通しの中で支援を考えることができるようになる

- スモールステップを積み上げ、成功体験を繰り返すことで支援者の自信と達成感を得る事ができる
- 実践を外部発信し評価を得ることで支援者の成長につながり、結果として組織が成長する
- 行動改善の先に具体的な暮らしのイメージを持つことができる

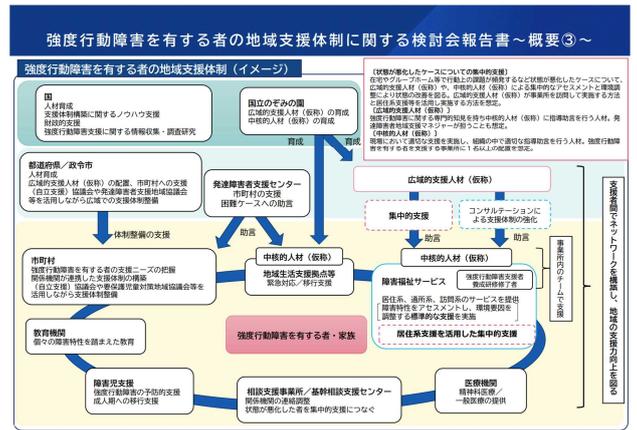
中核的人材の育成につながる

- 実践の場で中核的人材の育成が行われ、リーダーとしての人材が育っていく

人材育成への活用



チームで取り組むことを意識できるようにマネジメント

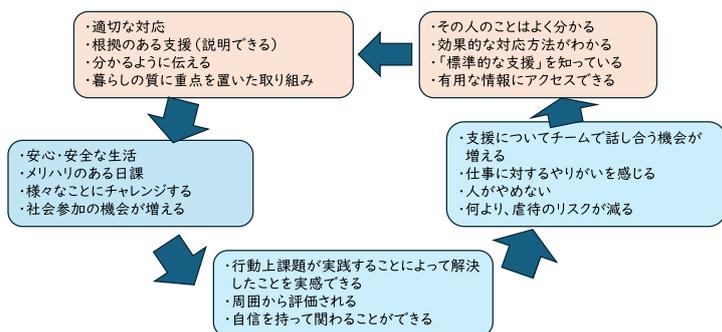


強度行動障害支援における職員の負担

- 心理的負担
- 身体的負担
- 業務量の増加
- 技術的負担

メンタルサポートの仕組みの構築

支援現場における好循環の構図



現場を孤立させないのための対策

- 働きやすい職場環境
- 支援体制の強化のための方策
- 研修と教育の充実
- ストレスとカウンセリング
- 適切な評価とインセンティブ
- ICTの活用

グループ討議

グループ討議の内容

■時間：11:50まで

■内容：①自己紹介
②各現場の実情と当面の課題
③今回の研修に期待すること
④研修に関する質問・要望等

事前課題提出資料を使用しながら説明
・モデルの基本情報シート
・事業所情報シート
・ICFシート（環境因子）
・BPI-S

■その他：司会進行 = トレーナー

記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

*サブ・トレーナーがまとめた記録は、Teamsの各受講者フォルダに【実践報告フォーマット】というファイル名で保存します。

第1回研修の記録とまとめ(受講者用メモ)

事務連絡

第2回研修までに取り組むこと

第2回研修・Teamsについて

	内容等	提出メ切・提出方法
第1回研修アンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修に関する意見等のアンケート ■ 下記URLまたは右記QRコードよりアクセスしてご回答ください。 	メ切:9月20日 方法:アンケートフォームへの回答
eラーニングの視聴 (視聴後のアンケートへの回答を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ⑦課題となっている行動の観察と記録 ■ ⑧機能的アセスメント ■ ⑨日常生活場面での直接観察 	メ切:9月20日
ワークシートの記入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自閉症の特性&学習スタイルチェックシート ■ 氷山モデルワークシート(左側のみ) ■ 日常生活行動場面アセスメント ■ ICFシート(活動と参加)日常生活場面行動アセスメント連動Ver. 	メ切:9月20日 方法:Teamsの各受講者フォルダへのアップロード
動画の撮影	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル利用者の様子(課題となっている行動を中心に) ■ 事業所環境 	メ切および提出方法は、Teamsにて後日ご案内いたします ※動画はTeamsにはアップロードしないでください

【第2回研修について】

■日時：10月1日(火)14:00~16:30 (開場 13:30~)

■場所：TKP岡山会議室 ホール2A (岡山県岡山市北区磨屋町1-6 岡山磨屋町ビル2階)

■当日の持ち物：第1~2回研修の間に組み込んだワークシート(8部印刷してお持ちください)

【Teamsの取り扱いについて】

- ・ Teams閲覧範囲は、ディレクター、トレーナーSV、トレーナー、サブ・トレーナー、受講者、事務局です。該当者以外の閲覧は禁止いたします。
- ・ 研修に関するやりとり(支援の相談、フォローアップ日程調整等)は必ずTeamsを使用してください。
- ・ 支援の相談等は受講者同士の助言も可能です。情報交換の場として、ご活用ください。
- ・ 本研修に関すること以外の私的なやりとりや研修依頼、コンサルテーションの契約等の営業とみなされる行為はご遠慮ください。
- ・ モデル利用者が特定される情報(氏名、年齢、顔写真・動画など)のTeamsへのアップロードは禁止いたします。
- ・ ディレクター、トレーナーSV、トレーナー、サブ・トレーナー、受講者等本研修関係者の個人情報(電話番号やメールアドレス等の連絡先)もTeamsでの記載は禁止いたします。
- ・ Teams上に記載された情報の第三者への共有や無断転用を禁止いたします。

令和6年度中核的人材養成研修 第2回(集合研修)資料

【日時】 10月1日(火) 14:00 ~ 16:30 ※受講者開場・受付 13:30
【会場】 TKP岡山会議室 ホール2A
(岡山県岡山市北区磨屋町1-6 岡山磨屋町ビル2階)

第2回研修プログラム(西日本ブロック)

■科目名： 特性理解とアセスメント

時間	プログラム	講師	使用する資料等
13:30	受講者開場・受付		
13:55	事務連絡	事務局	
14:00 (10分)	開会 本日のねらい・流れの確認	ディレクター (国立のぞみの館)氏	
14:10 (130分)	【グループ討議】 □モデルの紹介と討議<100分> >25分×受講者4名 >モデル紹介動画を活用したプレゼンテーション □休憩<10分> □トレーナーコメント/グループ共有<20分> >情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する	各グループトレーナー	■ 自閉症の特性&学習スタイルチェックシート ■ 水山モデルワークシート(左側のみ) ■ 日常生活行動場面アセスメント ■ ICFシート(活動と参加)日常生活場面行動アセスメント運動Ver. ■ モデル利用者の動画 等
16:20 (10分)	まとめ 事務連絡	ディレクター 事務局	氏
16:30	閉会 ※閉会後、17:00まで情報交換・交流の時間 (随時、解散可)		

第2回研修のねらい

- モデル利用者の行動観察から自閉症の特性や学習スタイル、スキル等のアセスメントについて理解を深める
- モデル利用者の課題となっている行動の現状や生活環境・状況をグループで共有し、優先課題(標的行動)を選定する

グループ討議の内容

- 時間： 16:20まで
- 内容：
 - モデルの紹介と討議<100分>
 - >25分×受講者4名
 - >モデル紹介動画を活用したプレゼンテーション
 - 休憩<10分>
 - トレーナーコメント/グループ共有<20分>
 - >情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する
- その他： 司会進行 = トレーナー
記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

第2回研修の記録とまとめ(受講者用メモ)

事務連絡

第3回研修までに取り組むこと

	内容等	提出メ切・提出方法
第2回研修アンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー および 受講者 ■ 研修に関する意見等のアンケート ■ 下記URLまたは右記QRコードよりアクセスしてご回答ください。 	メ切:10月22日 方法:アンケートフォームへの回答
eラーニングの視聴 (視聴後のアンケートへの回答を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ⑩見てわかる工夫(構造化) ■ ⑪コミュニケーションプログラム ■ ⑫機能的アセスメントに基づく支援 	メ切:10月28日
ワークシートの記入	<ul style="list-style-type: none"> ■ ABC記録 ■ スキャッタープロット ■ FAST ■ ストラテジーシート(上段) 	メ切:10月22日 方法:Teamsの各受講者フォルダ(3,研修第3回)へアップロード
動画の撮影	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル利用者の評価場面の様子 	第3回研修当日に受講者がZoomの画面共有機能を用いて共有

令和6年度中核的人材養成研修 第3回資料

【日時】10月29日(火)9:30 ~ 12:00 ※受講者入室 9:15
【会場】Zoomによるオンライン
※サブ・トレーナー、受講者用 会場入室URL

第3回研修プログラム(西日本ブロック)

■科目名：支援の検討(行動の分析)

時間	プログラム	講師	使用する資料等
9:15	受講者入室		
9:30 (10分)	開会 本日のねらい	ディレクター 氏	
9:40 (130分)	【グループ討議】 テーマ:優先課題(標的行動)の分析と仮説立て □特性理解に基づく原因・支援の検討<100分> ➢25分×受講者4名 □休憩<10分> □トレーナーコメント/グループ共有<20分> ➢情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する	各グループトレーナー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ABC記録 ■ スキャットプロット ■ FAST ■ ストラテジーシート(上段) ■ 強行支援_【ID】活動と参加) 6-16y_情報入力シート ver.2.22 ■ モデル利用者の動画 等
11:50 (10分)	まとめ 事務連絡	ディレクター 氏 事務局	
12:00	閉会		

第3回研修のねらい

- 客観的なデータに基づいてモデル利用者の優先課題(標的行動)の状況を整理し、行動の原因・理由の分析、仮説立ての視点を深める

グループ討議の内容

- テーマ: 優先課題(標的行動)の分析と仮説立て
- 時間: 11:50まで
- 内容:
 - 特性理解に基づく原因・支援の検討<100分>
➢ 25分×受講者4名
 - 休憩<10分> ※各グループ随時
 - トレーナーコメント/グループ共有<20分>
➢ 情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する
- その他: 司会進行 = トレーナー
記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

(参考) Zoomでの動画共有方法



第3回研修の記録とまとめ(受講者用メモ)

第4回研修プログラム(西日本ブロック)

令和6年度中核的人材養成研修 第4回資料

【日時】11月26日(火)9:30 ~ 12:00 ※受講者入室 9:15
【会場】Zoomによるオンライン
※サブ・トレーナー、受講者用 会場入室URL

■科目名：支援の立案と実施

時間	プログラム	講師	使用する資料等
9:15	受講者入室		
9:30 (10分)	開会 本日のねらい	ディレクター 氏	
9:40 (130分)	【グループ討議】 テーマ:実施計画(支援手順書)の作成/修正 □より適切な活動の設定とそのための手立て<<100分>> ➢25分×受講者4名 □休憩<<10分>> □トレーナーコメント/グループ共有<<20分>> ➢情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を 確認する	各グループトレーナー	■ 氷山モデルシート ■ ストラテジーシート ■ モデル利用者の動画 等
11:50 (10分)	まとめ 事務連絡	ディレクター 氏 事務局	
12:00	閉会		

第4回研修のねらい

- 自閉症の特性・学習スタイル、個別のアセスメントに基づいて、目的に合わせて活動を整理し、より適切な活動、期待される行動を具体的に設定する視点を深める
- 設定した活動や期待される行動を教える(支援する)ための肯定的で有効な具体的手立てを計画する視点を深める

グループ討議の内容

- テーマ: 支援の立案と実施
- 時間: 11:50まで
- 内容:
 - より適切な活動の設定とそのための手立て<<100分>>
➢25分×受講者4名
 - 休憩<<10分>> ※各グループ随時
 - トレーナーコメント/グループ共有<<20分>>
➢情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する
➢チーム支援実行状況チェックシートの共有
(チーム支援を実施する際の、うまくいった点・うまくいかなかった点等)
- その他: 司会進行 = トレーナー
記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

(参考) Zoomでの動画共有方法



第4回研修の記録とまとめ(受講者用メモ)

事務連絡

第5回研修までに取り組むこと

	内容等	提出/提出方法
第4回研修アンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象: サブ・トレーナー および 受講者 ■ 研修に関する意見等のアンケート ■ 下記URLまたは右記QRコードよりアクセスしてご回答ください 	メ切: 12月20日 方法: アンケートフォームへの回答
支援計画シート・支援手順書の作成と支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各受講者の事業所で使用している支援計画シート・支援手順書の様式を、eラーニング③「支援プランの立案」④「支援手順書の作成と支援の実施」で説明されているポイントから見直しつつ、今回の研修で検討している内容に沿って作成 	メ切: 12月17日 方法: Teamsの各受講者フォルダ(5.研修第5回)へアップロード
実践報告書案の作成(ICFシートの経過)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践報告書の事業所概要・利用者概要部分について、作成を進めてください 	※提出不要
チーム支援実行状況チェック	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象: サブ・トレーナー および 受講者 ■ eラーニング⑥で説明のあった「チーム支援実行状況チェックシート」について、下記URLまたは右記QRコードよりアクセスしてご回答ください 	メ切: 12月20日 方法: アンケートフォームへの回答
動画の撮影	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援場面の動画撮影 	第5回研修当日に受講者がZoomの画面共有機能を用いて共有
eラーニングの視聴 (視聴後のアンケートへの回答を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ⑤実施後の評価と改善 	メ切: 12月23日

(参考) 第5回研修までに取り組むこと 支援計画シート・支援手順書

- 支援計画シート、支援手順書は、eラーニングでは参考様式としてお示ししています。
- 各事業所で使用している様式をご提出ください。

支援計画シート

期間: 20××年4月1日 - 20××年9月30日

支援計画シート(参考様式)

支援手順書

支援手順書(参考様式)

(参考) 第5回研修までに取り組むこと 実践報告書案の作成(ICFシートの見直し)

- 各受講者のTeamsフォルダに「実践報告フォーマット」があります。できるところから記入をお願いします。
- フォーマットをダウンロードし、作成をおすすめします。

利用情報

※作成にあたって、eラーニング③-③「ICFシステムで提供した情報もQOL支援に活用する」をご確認ください

モデル利用者の概要(プレ)

※記載例

(参考) eラーニングの視聴方法

- 7/19配布資料「中核的人材養成研修実施概要について」P3の視聴URL取得フォームにアクセスし、ご視聴ください

中核的人材養成研修実施概要について

※資料をご確認の上、事前研修の所要・実施、eラーニングの視聴等をお願いします。

区分	ページ
1. 研修に係る事業概要(研修スケジュール等)	1
2. eラーニングについて	3
3. 研修プログラムの各研修について	5
4. 研修で取得するスキルについて	9
5. 研修スケジュールについて	9
6. 研修について	9

研修項目	研修時間	研修内容	視聴URL
① 研修の導入	19分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
② 研修の導入	21分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
③ 研修の導入	24分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
④ 研修の導入	28分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
⑤ 研修の導入	21分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
⑥ 研修の導入	19分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
⑦ 研修の導入	16分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
⑧ 研修の導入	23分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL
⑨ 研修の導入	16分	研修の意義、目的、研修の進め方	視聴URL

令和6年度中核的人材養成研修 第5回資料

【日時】12月24日(火)9:30 ~ 12:00 ※受講者入室 9:15
【会場】Zoomによるオンライン
※サブ・トレーナー、受講者用 会場入室URL

第5回研修プログラム(西日本ブロック)

■科目名：支援の見直し(PDCAサイクル)

時間	プログラム	講師	使用する資料等
9:15	受講者入室		
9:30 (10分)	開会 本日のねらい	ディレクター 氏	
9:40 (130分)	【グループ討議】 テーマ:現場実践の途中経過報告(仮説-検証) □モデル利用者への支援の実施と見直しの検討<<100分>> ➢25分×受講者4名 □休憩<<10分>> □トレーナーコメント/グループ共有<<20分>> ➢情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認 ➢チーム支援実行状況チェックシートの共有 ➢第6回研修(実践報告会)当日の報告者の決定(各グループ1名) ※トレーナーが事務局に報告	各グループトレーナー	■ 支援計画シート ■ 支援手順書 ■ モデル利用者の動画 等
11:50 (10分)	まとめ 事務連絡	ディレクター 氏 事務局	
12:00	閉会		

第5回研修のねらい

- 支援計画シート、支援手順書等に沿った支援経過を共有し、支援効果、改善の手立てを検討する。

グループ討議の内容

- テーマ：支援の見直し(PDCAサイクル)
- 時間：11:50まで
- 内容：
 - 現場実践の途中経過報告(仮説-検証)<<100分>>
➢25分×受講者4名
 - 休憩<<10分>> ※各グループ随時
 - トレーナーコメント/グループ共有<<20分>>
➢情報、支援アイデアを共有、次回までの現場実践を確認する
➢チーム支援実行状況チェックシートの共有(チーム支援を実施する際の、うまくいった点・うまくいかなかった点等)
➢第6回研修(実践報告会)当日の報告者の決定(各グループ1名) ※トレーナーが事務局へ報告
- その他： 司会進行 = トレーナー
記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

(参考) Zoomでの動画共有方法



第5回研修の記録とまとめ(受講者用メモ)

事務連絡

第6回研修までに取り組むこと

	内容等	提出メソッド・提出方法
中核的人材養成研修評価シートへの回答 (終了判断、フォローアップ用)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象: 受講者 ※回答用評価シートについて研修当日に配布します ■ 現時点までの本研修における自己評価をお願いします(終了判断、今後のフォローアップに活用) ■ 提出用のURLは、Teamsの個人チャットで事務局からお伝えします 	メソッド:1月10日 方法:提出用の専用URLへアップロード
ICFシートの見直し ※第1,2回研修課題としてTeamsにアップロードしたICFシート	<ul style="list-style-type: none"> ■ (1)「③-1 強行支援_[ID]環境因子」6-16y_情報入力シート」の把握情報と補足情報の加筆修正 ■ (2)「③-2/④日常生活行動場面アセスメント-ICFシート(活動と参加)連動Ver.」の「A&P_1章」~「A&P_6-9章」の把握情報(評価)と支援状況まとめの加筆修正 ■ (3)②のシートを「強行支援_[ID]活動と参加」6-16y_情報入力シートへ転記 ※(1-2)のシートを「強行支援_[ICFデータ分析アプリ]」で整理 ※(1-2)のシートで加筆修正した箇所は赤字で表記をお願いします 	メソッド:2月4日 方法:Teamsの各受講者フォルダ(6.研修第6回)へアップロード
実践報告資料の作成・録画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中核的人材養成研修で取り組んできたことについて、ワークシートや動画等を用いて、報告時間15分で作成をお願いします ■ 録画にあたっては、別紙マニュアルをご参照ください 	メソッド:2月4日 方法:Teamsの各グループの実践報告フォルダへアップロード
第5回研修アンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー および 受講者 ■ 研修に関する意見等のアンケート ■ 下記QRコードまたは右記URLよりアクセスしてご回答ください 	メソッド:2月6日 方法:アンケートフォームへの回答
チーム支援実行状況チェックへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー および 受講者 ■ 第5回研修から第6回研修までの実行状況について、前回同様下記URLまたは右記QRコードよりアクセスしてご回答ください 	メソッド:2月6日 方法:アンケートフォームへの回答

参考:第6回研修(実践報告会)について

- 日時:2月10日(月)14:00~17:00 **受講者の管理者も参加(サブ・トレーナーの管理者の参加は不要)**
- 内容:[10分]今日のねらい等
[80分]実践報告会(1会場4グループ/各グループ1名発表)
※1名あたり発表時間20分=受講者報告(15分)+管理者コメント(2分)+トレーナーコメント(2分)+準備(1分)
[60分]グループ討議(研修の振り返り等)
[20分]まとめ、質疑応答、事務連絡

□ 実践報告動画に関するスケジュール

日時	内容・留意事項
1月22日(水)	実践報告で使用するモデル利用者の動画の編集、事務局への提出メソッド ※実践報告動画は、WEB上で公開するため、モデル利用者の顔、氏名は見えないようにしてください。 ※モデル利用者の動画は受講者が編集を基本としますが、編集ができない場合は事務局へ対応します。 ※使用するモデル利用者の動画決まり次第、お早めにご相談ください。メソッドを過ぎた場合は対応できません。
2月4日(水)	実践報告動画の提出(形式:PowerPoint) ※実践報告資料作成にあたっては、サブ・トレーナー、トレーナーに見てもらいながら作成してください。 ※トレーナーの確認が済んだら、PowerPointの機能を活用し、録画してください。 ※PowerPointから動画への変換は事務局へ対応します
3月~	実践報告動画の公開(対象:中核的人材養成研修関係者・参加者のみ)

令和6年度中核的人材養成研修

(参考)中核的人材養成研修 評価シートへの回答

- 終了判断、今後のフォローアップに使用するため、第5回研修終了時点で全体の全体を通した自己評価について評価シート(Excel)への回答をお願いします
- 回答後は、提出用の専用URLにアップロードをお願いします(Teamsの個人チャットでお伝えします)

コメント	評価項目	自己評価	トレーナー評価
「評価1」の項目について、課題となる行動も本人視点から見て、具体的な改善策を講じているか			
「評価2」の項目について、課題となる行動について具体的な観点から把握されているか			
「評価3」の項目について、研修で使用するアセスメントを基に、重要事項の理解、把握ができていないか			
「評価4」の項目について、アセスメントを基に、本人のQOL向上に寄与すると思われる行動の把握ができていないか			
「評価5」の項目について、アセスメントを基に、支援の提供ができていないか			
「評価6」の項目について、研修の振り返りや気づきについて共有ができていないか			
「評価7」の項目について、必要に応じて、支援の提供を適切に改善を実施しているか			

表1 アセスメントに基づいた支援の実施に関する評価

コメント	評価項目	自己評価
1 チームの必要メンバー候補者を選定し、自発的に参加しているか		
2 活動の準備ができていない項目が確認できたら、その項目について、準備ができていない項目を確認し、準備が完了するまで待つことができるか		
3 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
4 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
5 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
6 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
7 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
8 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
9 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
10 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
11 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
12 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
13 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
14 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		
15 活動の進行状況を確認し、必要に応じて、調整が可能な項目を確認しているか		

表2 チーム支援に関する評価

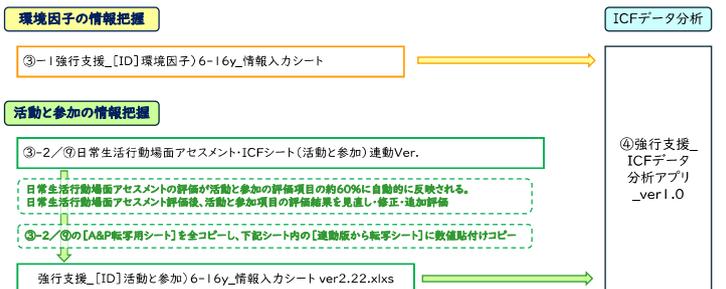
(参考)第6回研修までに取り組むこと ICFシートの見直し

- 第1回、第2回研修の課題としてTeamsにアップロードしたICFシートを見直し、変更点があれば加筆修正をお願いします。修正箇所は赤字にしてください。

ICFコアセット	環境因子	強行支援	(6-16y版)情報シート	第3章、第5章
③-1 強行支援_[ID]環境因子	6-16y_情報入力シート			
③-2/④日常生活行動場面アセスメント-ICFシート(活動と参加)連動Ver.				

(参考)ICF情報把握とデータ分析の手順

これらの手順を1回、ポストで1回の2回実施し、支援前後の変化を確認します



参照:eラーニング③-2「ICFシステムのデータ入力と分析方法」講義資料

(参考)③-2/⑨のシートから強行支援_[ID]活動と参加)6-16y_情報入カシートへの転写方法

① ③-2/⑨日常生活行動場面アセスメント(ICFシート(活動と参加)運動Ver.xlsxの[A&Pシート]に転写用)シートの左上角を右クリックし、シート全体をコピー

② シート全体が薄灰色と緑点線で見えてコピー状態となる

③ 強行支援_[ID]活動と参加)6-16y_情報入カシートの左上角を右クリックし、数値転写(123のマークアイコン)を実行

④ データ転写完了

参照:eラーニング③-2「ICFシステムのデータ入力と分析方法」講義資料

(参考)強行支援_ICFデータ分析アプリでの分析方法

① アプリとICFデータを同じフォルダに入れておく

② データ分析アプリの起動画面

③ ファイル読み込みウィンドウがポップアップ

④ 分析対象のファイルを選択して「開くをクリック

※セキュリティの警告がでた場合には「コンテンツの有効化」をクリック

参照:eラーニング③-2「ICFシステムのデータ入力と分析方法」講義資料

(参考)第6回研修までに取り組むこと
実践報告資料の作成

- 実践報告フォーマットの各スライド左上に項目、各スライド内に報告で使用するワークシート例や作成の視点を記載しています。
※フェイス1〜5は、eラーニング⑤「氷山モデル」で紹介している支援プロセスです。
- 各スライドの作成の視点に沿って、研修で取り組んだことをまとめてください。報告時、ワークシートは全て使用しなくても構いません。また、スライドに記載しているワークシート以外にも使用して構いません。
- 「研修を通じた変化」のスライド内にある【支援チーム・管理者から見た変化・感想】は、支援チームの方、管理者が記載、もしくは受講者が聞き取りをして記載してください。

研修を通じた変化

【支援チームから見た変化】
● 受講者自覚の変化
● 支援チームの変化
● 事業所の変化

【支援チーム・管理者から見た変化・感想】
● 受講者自覚の変化
● 支援チームの変化
● 事業所の変化

※支援チームの方、管理者が記載、もしくは受講者が聞き取りをして記載

※支援チームの方、管理者が記載、もしくは受講者が聞き取りをして記載

実践報告フォーマットより抜粋

(参考)実践報告資料

モデル利用者の概要(ICFフォーム)のまとめ方

モデル利用者の概要(プレ) ※記載例

(プレ)は、研修開始時に記入したICFシートや研修での支援をする前の内容を記載

(ポスト)は、研修を通して行った支援内容や支援効果、モデル利用者の変化点等についてを記載

※記載例

(参考)ICFフォームにまとめる際の留意点(1)

- 「健康状態」
➢ 診断名やその他の医療情報を記載。
➢ postでは支援によって消失した症状を見え消しなどで明示。
- 「心身機能・構造」
➢ 学習スタイルや評価尺度の結果を記載。評価尺度は医療とのつながりに有用。
➢ pre-postの間に把握された情報があれば付記しておく。
- 「活動と参加」
➢ ①強みや維持調整など支援に活用できる項目と②修正や考案などQOLが低下している項目を記載。
➢ ②について、pre(支援前)ではQOL低下の状況を記載し、post(支援後)では支援の変更内容と効果の変化、そして支援カテゴリーの変化を記載する。
➢ postに記載する支援は、学習スタイルに基づくもの、機能分析で実施したもの、ICFデータを活用したものを含む、QOL向上に有効だった支援を特に記載。

参照:eラーニング③-3「ICFシステムで把握した情報をQOL支援に活用する」講義資料

(参考)ICFフォームにまとめる際の留意点(2)

- 「環境因子」
➢ QOLの①阻害因子と②促進因子を記載。
➢ ①のpreでは阻害項目とその状況を記載、postでは当該の阻害因子の除去とその結果について記載。
➢ ②のpreでは促進項目とその状況を記載、postでは当該の促進因子の生活場面の幅広い活用の工夫とその効果を記載。
➢ 阻害環境の除去と促進環境の充実については、学習スタイルの把握や機能分析の実施そしてICFデータによるものを含む。
➢ 内容に応じて「活動と参加項目」を参照する記載を入れておくことご本人の状況の理解を助ける。
- 「個人因子」
➢ 一般的にフェイスシートに記載されるような内容を記載する。

参照:eラーニング③-3「ICFシステムで把握した情報をQOL支援に活用する」講義資料

令和6年度中核的人材養成研修 第6回資料

【日時】2月10日(月)14:00～17:00 ※受講者入室13:30
【会場】Zoomによるオンライン
※サブ・トレーナー、受講者用 会場入室URL

第6回研修プログラム

■科目名：実践報告会

時間	プログラム	講師	使用する資料等
13:30	受講者入室		
14:00 (10分)	開会 本日のねらい	事務局 ディレクター 氏	
14:10 (90分)	【実践報告会】 □各グループで1つのブレイクアウト □各グループ1名発表 (1名あたり発表時間15分・コメント等5分=計20分)	各トレーナーSV	
15:40 (10分)	休憩		
15:50 (45分)	【グループ討議】 テーマ:研修の振り返り	各グループトレーナー	
16:35 (25分)	まとめ	ディレクター 厚生労働省 氏	
	事務連絡	事務局	
17:00	閉会		

第6回研修のねらい

- 実践を振り返り、研修効果や課題等について、トレーナー、他受講者等と共有し、今後の取り組みの糧とする。

実践報告会の進め方

- 進行・タイムキープ：トレーナーSV / 記録:事務局

- 時間：発表者① 14:10～14:30
発表者② 14:30～14:50
発表者③ 14:50～15:10
発表者④ 15:10～15:30
総 評 15:30～15:40
(トレーナーSVより)

※発表の流れ
発表者報告(15分)⇒管理者コメント(2分)⇒
担当トレーナーコメント(2分)⇒次の発表者準備(1分)

■備考

- 発表者が画面共有して、報告していただきます。報告終了後、画面共有を切ってから管理者等のコメントをお願いします。
- 発表開始から15分経過時に事務局よりお知らせをします。
- 発表者以外の方は、カメラON、マイクはミュートをお願いします(事務局が出欠確認をします)。
- トイレ等でやむを得ず離席する場合には、Zoomのチャットにて事務局宛にご連絡をお願いします。
- 全予定終了後、ブレイクアウトから退出せず各会場で休憩してください。ただし、15:50からグループ討議までに必ずお戻りください。

実践報告会 グループ割り・発表順

A～Dグループ (トレーナーSV: 氏)		E～Hグループ (トレーナーSV: 氏)		I～Lグループ (トレーナーSV: 氏)	
報告者	担当トレーナー	報告者	担当トレーナー	報告者	担当トレーナー
①A:		①E:		①I:	
②B:		②F:		②J:	
③C:		③G:		③K:	
④D:		④H:		④L:	

M～Pグループ (トレーナーSV: 氏)		Q～Tグループ (トレーナーSV: 氏)		U～Xグループ (トレーナーSV: 氏)	
報告者	担当トレーナー	報告者	担当トレーナー	報告者	担当トレーナー
①M:		①Q:		①U:	
②N:		②R:		②V:	
③O:		③S:		③W:	
④P:		④T:		④X:	

※各会場発表順：①→②→③→④

グループ討議の内容

- テーマ：研修の振り返り
- 時間：15:50～16:35まで(45分)

■内容：

- 前回からの現場実践の経過報告
- サブ・トレーナー／受講者から一言
⇒研修全体を振り返っての気づき、研修に対する感想・意見、今後の抱負など
- 管理者から一言
⇒受講者やチーム、事業所の変化、研修に対する感想・意見など
- オブザーバー参加者から一言
⇒研修に対する感想・意見など

- その他：司会進行 = トレーナー
記録・タイムキープ = サブ・トレーナー

第6回研修の記録とまとめ (受講者用メモ)

まとめ

発達障害者支援法

(基本理念)

第二条の二

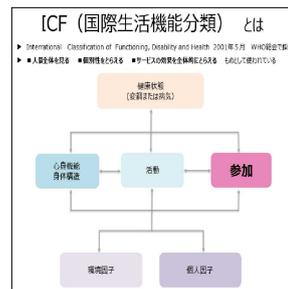
2 発達障害者の支援は、社会的障壁の除去に資することを旨として、行われなければならない。

(国民の責務)

第四条

国民は、個々の発達障害の特性その他発達障害に関する理解を深めるとともに、基本理念の通り、発達障害者の自立及び社会参加に協力するように努めなければならない。

強度行動障害を有する者への支援の考え方



- WHOによって採択されたICF (国際機能分類) では、「障害」を健康状態（診断）に加え、生活機能（心身機能身体構造、活動、参加）と背景因子（環境因子、個人因子）の観点で説明。
- 強度行動障害を有する者への支援にあっても知的障害や自閉症といった診断名だけでなく、その障害特性の現れである「活動と参加」そして強度行動障害の発生に影響している「環境因子」を含めた観点を合わせて分析していく。
- 「活動と参加」の困難性が発生する生活場面（環境）から、個々の障害特性の「アセスメント」を実施し、強度行動障害の発生に影響している「環境因子」を把握・調整していくことで、QOLを高める支援を実践していく

中核的人材養成研修資料より

(参考) 強度行動障害を有する者への標準的な支援

（強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より）
 ○（中略）強度行動障害を有する者への支援にあっても、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など個人因子と、どのような環境のもとで強度行動障害が引き起こされているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

氷山モデル
 見えてくる部分だけに着目せず行動の背景を考慮することが重要
 ＊強度行動障害支援者養成研修より

標準的な支援
 障害特性を踏まえた＊機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する
 ＊機能的アセスメント
 ＊課題となっている行動がどのような意味（価値）をもっているか調べる

機能的アセスメント
 アセスメントに基づく支援計画を立て、実施し、実施内容を評価して次の段階につなげる

標準となつていない行動の例
 ・先の記述が持つ予断も予定も考慮しない
 ・社会環境で騒がしき環境に入れない
 ・「自害」が伝えられず脅威を助けてしまう など

本人の特性
 自閉スペクトラム症や知的障害など本人の障害特性

環境・状況
 困り感やストレスの原因となっている環境や状況

予防的支援の重要性（強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より）
 ○**予防的観点を**込めて標準的な支援を行うことが必要
 ○強度行動障害を引き起こさなくても**良い支援を日常的におこなうことが重要**
 ○支援者、家族、教育等の関係者が、標準的な支援の**知識を共有し、地域の中に拡げていくことが重要**

標準的な支援のポイント① (一般支援者用)

参考

標準的な支援
 障害特性を踏まえた機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する
標準的な支援は画一的な支援ではなく、一人ひとりに合わせた支援の展開を、標準にしていることを考えます。
 このために大事にしたいポイントは以下の7つになります。

【強度行動障害支援者養成研修】	【中核的人材養成研修】	【広域的支援人材養成研修（仮称）】
基礎研修修了者 支援計画シート等の実践	実践研修修了者 支援計画シート等の作成	広域的支援人材 専門的知識を補って事業所等に派遣活動を実施し、地域における強度行動障害を有する児童の支援体制強化を行う
(1) 一人ひとりの自閉スペクトラム症等の特性と本人の行動について理解と尊重をする ○強度行動障害の理解	(1) 機能的アセスメント	個人による支援者養成研修修了者（研修）における強度行動障害支援の実際的・実践的・具体的な事例やアセスメントの事例や強度行動障害の地域や領域の在り方についての検討
(2) 信頼関係を構築し、本人らしい自立的な生活を目指す ○支援を継続させるための基本	(2) 個別支援計画の作成	中核的人材養成研修の協力
(3) 本人に合わせた環境調整をすることで課題となる行動を予防する（予防的支援） ○支援のアイデア	(3) 生活の質の向上	標準的な支援を障害福祉サービス等の事業所等と共同におこない、当該児童の状況の軽減を図る集中的支援の実施
(4) どんな状態でも本人らしい生活の質の向上を目指す ○支援を組み立てるための基本	(4) 生活の質の向上	
(5) コミュニケーション（発音や選択）と、本人らしい余暇活動を支援する（予防的支援） ○研修の意義	(5) 生活の質の向上	
(6) 家族や支援チームと協働する ○研修の意義	(6) チーム支援	
(7) 地域の社会資源の活用や外部専門家と連携する ○研修機関との連携	(7) 地域の社会資源の活用や外部専門家と連携する	

＊トレーニングの助言を活用した実践

研修後をお願いしたいこと①

	内容等	提出メチ・提出方法
修了書発送にかかる宛先登録	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:ディレクター、トレーナーSV、トレーナー、サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:修了書の発送先等 ■ 下記URLまたは右記QRコードよりアクセスして、ご回答ください ※回答URL: 	メチ:2月14日 方法:アンケートフォームへの回答 ※発送準備のため、早めの回答にご協力をお願いします
実践報告動画の確認	<ul style="list-style-type: none"> ■ 対象:受講者 ■ 内容:事務局が個人情報等確認し、動画にした実践報告の確認 【流れ】 □Teamsにて事務局より受講者へ、動画の修正または確認依頼 ↓ □受講者が、修正対応、動画の音飛び等の確認 確認し公開OKの場合、受講者が事務局へTeamsで連絡 	期間:研修終了後～2月中旬 方法:動画の共有、連絡はTeamsで行います
第6回研修および研修全体に関するアンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:研修に関する意見等のアンケート ■ 下記URLよりアクセスしてご回答ください(受講者とサブ・トレーナー用で内容が異なりますので、該当のURLよりアクセスをお願いします) ※受講者用回答URL: ※サブ・トレーナー用回答URL: 	メチ:3月7日 方法:アンケートフォームへの回答

研修後をお願いしたいこと②

	内容等	提出メチ・提出方法
研修の効果に関するアンケート (実施者:のぞみの園)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:下記6つの尺度について、研修終了後現在の状況をご回答ください ① 健康なリーダーシップ尺度 ※回答URL: ② 心理的安全性尺度 ※回答URL: ③ 知識共有尺度 ※回答URL: ④ 行動障害の支援尺度 ※回答URL: ⑤ 支援の環境調整実施尺度 ※回答URL: (全日本自閉症支援者協会版EPS) ⑥ BPI-S ※ワークシート「①～③、BPI-S 問題行動評価尺度種別記入フォーム」に現在のモデル利用者の状況についてご記入ください 	メチ:3月7日 方法:①～⑤はアンケートフォームへの回答 ⑥はExcelに記入し、Teamsの各受講者フォルダ(6、研修第6回)へアップロード
ICFに関するアンケート (実施者:安達園先生)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:ICFの使用に関するアンケート ■ 右記URLにアクセスして、ご回答ください ※回答URL: 	メチ:3月7日 方法:アンケートフォームへの回答
機能的アセスメントに関するアンケート (実施者:井上雅彦先生)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:機能的アセスメントの理解、実施状況等に関するアンケート ■ 右記URLにアクセスして、ご回答ください ※回答URL: 	メチ:3月7日 方法:アンケートフォームへの回答
支援状況に関するアンケート (実施者:井上雅彦先生)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回答対象:サブ・トレーナー、受講者 ■ 内容:研修における課題となる行動への支援状況に関するアンケート ■ 右記URLにアクセスして、ご回答ください ※回答URL: 	メチ:3月7日 方法:アンケートフォームへの回答

修了書について

【受講者】

- 研修課題を全て提出している方を対象に、トレーナー等の評価を基に、基準に則り事務局が修了判断します。修了可となった方について、修了書および評価書を令和7年2月末に発送予定です。
- 修了基準に満たなかった方については、令和7年2月17日までに事務局より個別に連絡をします。事務局からの連絡を受けた受講者は、基準に満たなかった点を中心に実践を継続していただきます。事務局によるフォローアップを継続し、令和7年3月末に再度修了判断を事務局が行います。
- なお、修了可否および評価書について、都道府県担当者にも送付します。

【サブ・トレーナー】

- 研修課題を全て提出している方を対象に、修了書を発行します(令和7年2月末発送予定)。
- 未提出課題がある方には、事務局より個別に連絡します。

【トレーナー、トレーナーSV、ディレクター】

- 修了書は、令和7年2月末に発送予定です。

実践報告動画の公開について

- 期間: 令和7年3月上旬～3月31日(予定)
- 方法: 専用HPより視聴(要パスワード)
※視聴方法・パスワード等の案内文書を修了書と一緒に発送します。
- 対象: 受講者、サブ・トレーナー、トレーナー、トレーナーSV、ディレクター、受講者、オブザーバー
- 備考: □実践報告資料の配布はしません。
□実践報告動画の録画・録音、上記対象者以外への共有、実践報告動画から知り得た情報をSNS等で公開することは禁止とします。
□本研修で使用した実践報告やモデル利用者の動画等、本研修以外に使用される場合には、各受講者がモデル利用者、家族に改めて同意をお取りください。
□実践報告動画について、ご不明な点がありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

eラーニング・ワークシートの取り扱いについて

【eラーニングの公開】

- 公開期間: 令和7年3月31日までとします。
- 受講者が所属している事業所内チームも視聴可能ですが、中核的人材養成研修に関係ない者への共有は禁止とします。

【ワークシート・eラーニング資料の利活用】

- 利活用にあたっては、下記目的のもと中核的人材養成研修修了者の関与していることが必須です。
 - ・利用者支援(中核的人材養成研修で取り上げたモデル利用者以外への活用可)
 - ・事業所支援(中核的人材養成研修修了者が実施)
 - ・所属事業所や法人内研修において、チームの支援力向上に必要な知識の向上を図ること
- 留意点は下記のとおりです。
 - ・著作権は作成者にあり、管理は国立のぞみの園が行います。
 - ・修了者は不特定多数にデータを共有しないよう管理の徹底をお願いします。
 - ・ワークシート、eラーニング資料の加工、複製、第三者への配布、営利目的の研修での使用は禁止とします。
 - ・上記以外の用途で利活用を行う場合には、事務局までご相談をお願いします。

研修後の問い合わせ先

(独) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

令和 6 年度中核的人材養成研修 ワークシート一覧表

シート番号	シート名	対応するeラーニング講義	シート様式	使用する研修回
①-1	モデル基本情報シート	①研修概要について	Word Excel	第1回 ※提出期限 8/9
①-2	事業所情報シート		Word Excel	
①-3	BPI-S		Excel のみ	
③-1	ICF シート(環境因子)	③-2ICF システムのデータ入力と分析方法	Excel のみ	第3回
③-2	ICF シート(活動と参加) 日常生活場面行動アセスメント連動 Ver.	③-3ICFシステムで把握した情報をQOL支援に活用する		
④	自閉症の特性&学習スタイルチェックシート	④自閉症の特性と学習スタイル	Excel のみ	第2回
⑤-1	冰山モデルワークシート	⑤冰山モデル	Word Excel	
⑤-2	ハイリスク場面のチェックシート		Word Excel	
⑥	チーム支援実行状況チェックシート	⑥チーム支援	Microsoft Forms	第3~6回
⑦-1	ABC 記録	⑦課題となっている行動の 観察・記録	Word Excel	第3回
⑦-2	スキャッタープロット		Word Excel	
⑧-1	FAST	⑧機能的アセスメント	Excel のみ	
⑧-2 / ⑫	ストラテジーシート	⑧機能的アセスメント ⑫機能的アセスメントに基づく支援	Word Excel	
⑨	日常生活場面行動アセスメント	⑨日常生活場面での直接観察	Excel のみ	第2~3回
⑩	活動参加の支援計画書	対応なし	Word Excel	第4回
⑪	コミュニケーションプログラムの 実施計画書	⑪コミュニケーションプログラム	Word Excel	
⑬-1	支援プランの立案ワークシート	⑬支援プランの立案	Word のみ	提出なし
⑬-2	支援計画シート(参考様式) ※各受講者の様式を使用		—	
⑭-1	課題分析シート	⑭支援手順書の作成と実際の 対応	Word Excel	第5回
⑭-2	支援手順書 ※各受講者の様式を使用		—	
⑮	実施後の評価と改善ワークシート		Word のみ	提出なし

※シート番号に色のついているワークシートは、研修内で必ず取り組むシートです。色のついていないシートは、各受講者のモデル利用者への支援状況によって使用の有無が変わります(トレーナー指示あり)。

※モデル利用者以外への支援でもご使用ください。ただし、研修に関係ない方・事業所へのデータの共有はご遠慮ください。

※一部のワークシートは、自閉症 e サービスより提供を受けています。ワークシートの活用に関してご不明な点は、事務局(国立のぞみの園)までお問合せください。

モデル基本情報シート

【注意】このシートは、中核的人材養成研修に参加する受講生の事業所情報を整理するものです。事務局・トレーナー及び受講生は、本人・家族のプライバシーに配慮し、情報シートを目的外で使用しないこと

受講番号 記入日 年 月 日

性別				年代			
診断名				その他疾患			
手帳の等級	療育手帳		精神保健福祉手帳		身体障害者手帳		
	有無	等級	有無	等級	有無	等級	
障害支援区分	知能指数 (IQ)		行動関連項目点数				
これまでの生活状況の経過・変化				現在の生活状況(暮らし、学習・作業、地域・余暇活動)			
課題となっている行動について、できるだけ具体的に書きください(頻度・強度など)							
その行動はいつから始まりましたか?				その行動はどのような場面・どういときによく起こりますか?			
その行動に対するこれまでの対応は効果がありましたか?				現在、考えられる介入プランはどのようなものですか?			

事業所情報シート

【注意】このシートは、中核的人材養成研修に参加する受講生の事業所情報を整理するものです。事務局・トレーナー及び受講生は、本人・家族のプライバシーに配慮し、情報シートを目的外で使用しないこと

受講番号 記入日 年 月 日

事業所の概況			
所在地(都道府県・市町)			
運営法人			
事業所名			
事業所の主たる事業種類(生活介護など)			
事業所の契約利用者人数	男性	人	女性
平均支援区分			
事業所の現場支援スタッフ数	常勤	人	非常勤
事業所の運営理念			
事業所の特徴			
モデル利用者に 対応している支援チーム	事業所所長(管理者)名		現場チーム リーダー名
	現場スタッフ数(常勤)		現場スタッフ数(非常勤)
	その他関係者		
モデル利用者 をとりまく支援リスト	事業所名	サービス種別	
	日中活動の場		
	生活の場		
	医療関係		
相談機関			

モデル利用者が過ごしている 事業所内現場の様子 (図示又は写真可)	
事業所に関する追加情報	

BPI-S
問題行動評価尺度短縮版

対象者: _____ **回答者:** _____

ID: _____ 対象者との関係: _____

年齢: _____歳 _____月 _____日 一日に対象者と接する平均的な時間: _____

対象者と接してきた期間: _____

知的障害: 知的障害なし 不明
 軽度(IQ=56-70) 中度(IQ=41-55) 重度(IQ=26-40) 最重度(IQ<26)

教示

以下に、3種類の問題行動を特定するための包括的な定義がありますので、それらに目を通してください: 自傷行動(項目 1-8)、常同行動(項目 9-18)、攻撃的/破壊的行動(項目 19-30)。各項目に関する対象者の行動が、過去2ヵ月間に、(1)通常どれくらい頻繁にみられるか(頻度)、および(2)どの程度問題となっているか(重症度)、について、最もあてはまるものに○をつけてください。

もしその行動が過去2ヵ月間に一度も見られなかった場合は、「一度もなかった/問題ない」(“0”)に○をつけてください。

もし、3種類の行動がみられる場合は、その頻度とその重症度を適切に評価してください(以下の定義を使用してください)。【注:常同行動下位尺度には重症度評定欄はありません】。

	軽度の問題	中度の問題	重度の問題
自傷行動	行動はみられるが、対象に重大な損傷を与えるものではない(例:一時的に皮膚が赤くなる、とても軽いあざ)。	行動は対象に中度の損傷を与える場合がある(例:中程度のあざ、皮膚のひっかき傷、繰り返しかさぶたをはがす)。	行動は対象に中度から重度の損傷を与え、何らかの医療的対応が必要になる場合がある(例:皮膚を噛みちぎる、指で目をつく、骨折する)。
攻撃的/破壊的行動	行動はみられるが、他の人に重大な損傷を与えるものではない(例:一時的に皮膚が赤くなる、とても軽いあざ);あるいは、器物を壊すが、修理や交換は必要としない(例:ものを投げつける、家具を傾ける、ドアを激しく閉める、食べ物や台無しにする、塗装に傷をつける)。	行動は他の人に中度の損傷を与える場合がある(例:中度のあざ、皮膚のひっかき傷);あるいは、器物を壊すが、修理すれば使用することができる。(例:カーテンや家具を部分的に壊す)。	行動は他の人に中度から重度の損傷を与え、何らかの医療的対応が必要になる場合がある(例:皮膚を噛みちぎる、指で目をつく、骨折する);あるいは、交換が必要なほど、器物を壊す。

1.6. 文字の種類、記号やシンボルの種類、絵や写真の種類

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d325 and d331-2.

2.1. 話し言葉の質、書体やフォントによるメッセージの伝達

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d330 and d330-2.

2.3. 文字、記号やシンボル、絵や写真によるメッセージの伝達

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d345 and d335-2.

2.5. 会話やディスカッション

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d350 and d355.

2.6. 電話やFAX、電子メールによるコミュニケーション

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d360.

3.5. 衣服と履き物の種類、状況に応じた選択

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d340 and d340-2.

3.6. 食べることと飲むこと

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d350 and d350-2.

3.7. 健康の維持、危険の回避

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d370 and d371.

第6章 家庭生活

4.0. 家事をすること

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d630 and d640.

ICFコアセット 活動と参加 強行支援 (6歳-16歳版採用) 情報把握シート 第1章

Table with 2 main sections: 1. 3つの関心に関する評価の観点, 2. 機能情報に記入する内容の解説. Includes detailed text for each section.

第4章 運動・移動

2.8. 姿勢を変える、同じ姿勢を保つ、姿勢を変えたり移動する

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d415.

3.0. 手や腕、手や腕を使って物を操作すること

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d440 and d445.

3.2. 歩行やその他の方法で移動すること

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d455.

3.3. 交通機関や交通手段を利用して移動

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d470 and d475.

第5章 セルフケア

3.4. 入浴・身だしなみ・経済・生活のケアなどで清潔を保つこと

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d510 and d510-2.

ICFコアセット 活動と参加 強行支援 (6歳-16歳版採用) 情報把握シート 第1章

Table with 2 main sections: 1. 3つの関心に関する評価の観点, 2. 機能情報に記入する内容の解説. Includes detailed text for each section.

第7章 対人関係

4.4. 一般的な対人関係

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d710 and d720.

4.5. 特定の対人関係

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes items d730 and d740.

4.6. 家族や親戚などとの対人関係

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d750.

第8章 遊び、教育、仕事や経済活動

4.8. 一人でまたは誰かと遊ぶこと

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d880.

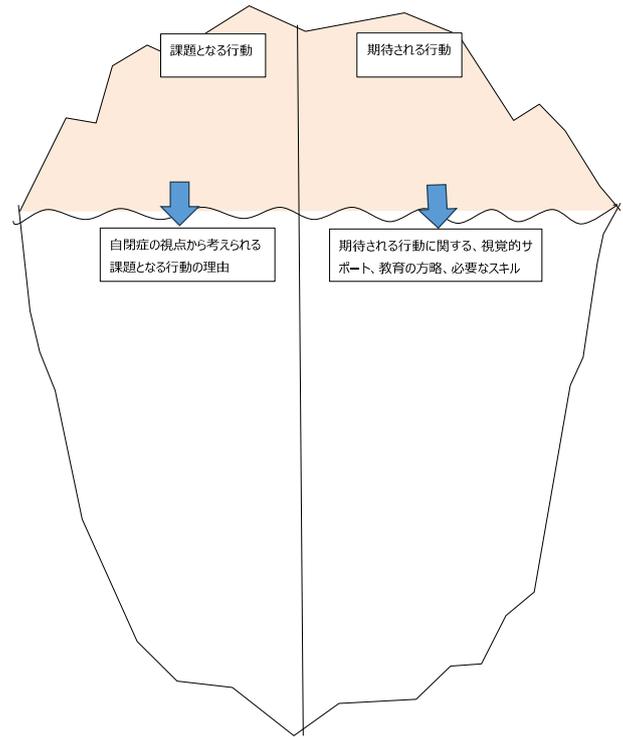
5.1. 学校での教育から学ぶこと

Table with 6 columns: 項目番号, 項目タイトル, 実証なしで困難は?, 困難程度, 達成の程度, 評価情報. Includes item d820.

氷山モデルワークシート

受講番号: _____ 記録日: / / 作成者: _____

課題 ①: 課題 ①: 課題 ①			
項目	内容	状況	備考
1	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
2	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
3	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
4	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
5	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
6	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
7	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
8	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
9	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
10	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
11	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
12	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
13	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
14	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
15	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
16	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
17	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
18	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
19	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		
20	課題 ①: 課題 ①: 課題 ①		



このワークシートは TEACCH® Autism Program の資料を参考にしています

ハイリスク場面のチェックシート

対象者: ※受講番号記入 () 場 所: _____ 実施日: / / 記録者: _____

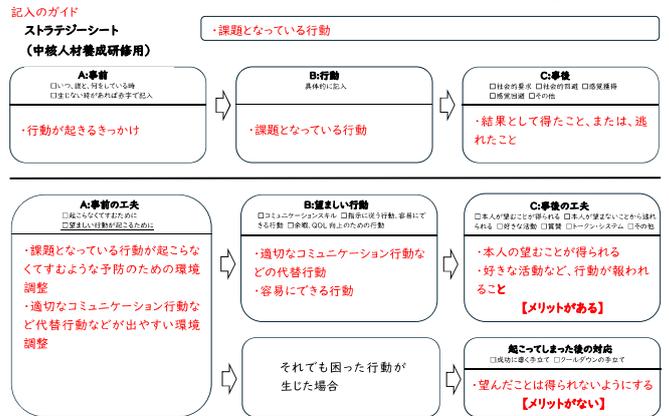
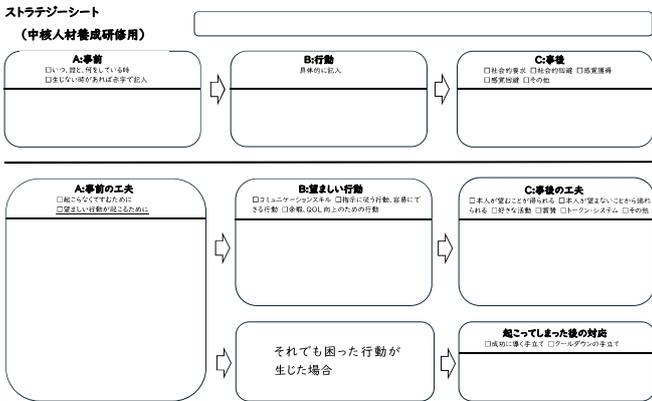
チェック項目	よくある例	現状	当面の予防・改善プラン
①物理的環境	特定の場所に居られない、じつぞでない。		
②感覚刺激	特定の感覚刺激（音、水など）に過反応		
③気になるもの・人	特定のものや人に過反応、こだわりの行動		
④見過しのなさ	得てない、何度も予定を聞く、次の活動に拒否する		
⑤適度な活動がない	自己刺激行動が増える、自分でうまく遊べない		
⑥周囲の伝え方、かかわり方	言葉指示で混乱、かかわるスタッフへの攻撃的行動		
⑦本人の表現方法	嫌なときに逃げ、黙って物を取る、かんしゃ表現		
⑧失敗経験（無理な設定）	作業が途中で材料を捨てる、嫌な場所がある		
⑨その他	好きな活動が止められない、儀式的な行動、行動の停止		

★当面の予防・改善プランを実施するにあたって、追加の検討事項

チーム支援実行状況チェックシート

1	チームに必要なメンバーの勤務等を調整し、会議を設定したか。	<input type="checkbox"/>
2	会議の参加者がポジティブな討議ができるようなグラウンドルール（他者が発言中は口を挟まない、否定をしないなど）を明示したか。	<input type="checkbox"/>
3	会議にあたって、会議の目的と終了時間を参加者に伝えているか。	<input type="checkbox"/>
4	参加者全員が会議で発言できるように会議をコントロールしているか。	<input type="checkbox"/>
	・個人ワークの時間を設ける	
	・全体共有の時間を設ける	
5	終了時、会議の参加者の意見を整理しまとめたか。また、会議に参加していないチームメンバーにも情報を共有するようにしているか。	<input type="checkbox"/>
6	支援の手立てや記録の方法を決める際は、具体的に、実行可能性や予測される効果などを検討し、参加者で確認したか。	<input type="checkbox"/>
7	支援の手立てを決める際は、『いつ・だれが・何をを行うのか』を行動レベルで決め、手順書等の作成につなげたか。	<input type="checkbox"/>
8	実施記録については『いつ・どのような方法で共有するか』を確認したか。	<input type="checkbox"/>
9	支援の進捗管理のために、次回の会議の設定や、必要なタイミングで他のスタッフに確認することなど、通時りマインドをおこなっているか。	<input type="checkbox"/>
10	支援を実行した際、一定の経過を見た後、振り返りの会議を設定しているか。	<input type="checkbox"/>
11	振り返りの会議では記録を確認し、その結果に影響しているポジティブな要因やネガティブな要因、関連する課題などを検討し整理したか。	<input type="checkbox"/>
12	支援の取り組みを通して、常にチームのメンバーの尻力を旁い、チームでのまとまりを高めているか。	<input type="checkbox"/>
13	支援の実行状況を確認し、次のアクションについてチームとして方向性を共有できているか。	<input type="checkbox"/>

※中核的人材養成研修では、MicrosoftFormsにて回答していただきます。



中核の人材養成研修 ワークシート

活動参加の支援計画書

受講番号: _____ 作成者: _____ 作成日: ____/____/____

●支援目標(具体的な短期:行動目標・長期:状態目標)

○支援に活用する道具/活動の場面

- 目標設定は次の設定基準によること
- 興味関心とスキル 発達の適切性(めばえスキルへのアプローチ) 機能性(役立つ目標か)
 - 自立性(可能な限り一人でできる目標か) 一般化(他の場面・人での応用)を目指しているか
 - 保護者との協働と優先順位

実施計画と経過			
	1回目	2回目	3回目
予告、移動手段			
時間の工夫 スケジュール提示			
場所の工夫 場面設定			
方法の工夫 取り組み方の支援			
見え方の工夫			
教え方			
指示の出し方、応え方、 タイミング、指示書の使 い方など			
結果と修正点			
見て分かる工夫の 改善プラン			

方法の工夫: □リスト 指示書 □マッピング □左から右、上から下 □終了音 □タイマー □他
見え方の工夫: □具体的な指示(□文字 □数字 □色・マーク □絵・写真 □見本 □ジグ □矢印)
□まとめる組織化(□容器 □仕切り □配慮) □はっきりと明瞭化(□ハイライト) □他

中核の人材養成研修用ワークシート
(自閉症 e サービス)

コミュニケーションプログラムの実施計画書 (より、自発的・機能的な表現性コミュニケーションを教える)

★新しい実施目標:

機能: _____ (本人が伝えようとしている内容、意図)
文脈:(場面) _____ (人) _____ (どこで、誰とコミュニケーションをおこなうか)
形態: _____ (コミュニケーションの方法)

★プログラムの根拠となるアセスメント情報(特に、表現性コミュニケーションについて)

好きなこと、欲しいもの: _____
嫌いなこと、嫌なもの: _____
本人がふだんよく伝えている内容、意図: _____
現状のコミュニケーションしやすい場面: _____
現状のコミュニケーションの形態: _____
その他: _____

★実施計画と経過

支援プラン	1回目	2回目
場面設定 本人・教授者・相手の配置 刺激の調整		
視覚の手がかり コミュニケーションツール		
教授方法 プロンプトの出し方、応え方、 タイミング 指示書や Co カード等の有 無		
結果と修正点 再構造化プラン		

機能: □要求 □拒否 □説明(コメント) □情報提供 □情報請求 □あいさつ □その他
形態: □発声 □行為動作(直接動作) □指差し・ジェスチャー □物 □絵/写真 □文字 □サイン言語
□ことば(単語) □二語文以上

このワークシートは TEACCH® Autism Program の資料を参考にしています

13: 支援計画の立案(ワークシート)

ニーズアセスメント: 目標を絞り込む				
保護者の願い		支援者の見立て		
<ul style="list-style-type: none"> ●グループホームでの生活 ●一人で買い物ができるようになって欲しい ●お仕事をたくさん頑張っていて欲しい ●パニックや自傷・他害が少なくなって欲しい ●もう少しわかりやすく伝えて欲しい 		<ul style="list-style-type: none"> ●グループホーム移行を目指して、日課の確認や身辺のことが定着して欲しい ●できる仕事の種類が増える ●仕事から楽しみやつながる意欲を育てる ●周りにわかるようにコミュニケーションを伝える ●事業所で過ごせる余暇グッズ 		
本人のニーズ				
<ul style="list-style-type: none"> ●伝えたいことをわかって欲しい ●いつもの外出先で楽しく過ごしたい ●苦手な活動にはあまり参加したくない ●好きな旅行をしたい 				
スキルアセスメント: 目標や手立てを具体的ににする				
ニーズの優先の高い項目	できる	めばえ	今は難しい	その他
身辺自立 家事活動	<ul style="list-style-type: none"> 造作 トイレ カップラーメン調理 持ち物の管理 ゴミ捨て 衣類の配膳/下着 洗濯 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールの確認 レンジを使った調理 お湯を沸かす コップを作る テーブル拭き 掃除機 タオルドライ 洗濯を干す 	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯機を使う(音など苦手意識があるため) 火を使った調理 	→本人が難しいことはスタッフが代替してあげる
興味関心 余暇活動	→一人で15-20分過ごす	<ul style="list-style-type: none"> 施設イベントに参加する(本人が取り組める活動の場合) 映像をみて過ごす(切り替えに時間がかかる場合がある) 活動を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> 施設イベントに参加する(本人が苦手意識が強い場合) 	→拒否が強い活動には無理に誘わず、別の活動設定をする
職業スキル 職業行動	<ul style="list-style-type: none"> 20分程度仕事に取り組む(3種類) アセスメント活動で新しい仕事の練習ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書を見ながら工程数の多い仕事ができる 	→チームでの仕事	→拒否が強い活動には無理に誘わず、別の活動設定をする
興味関心 余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> 交通ICカードを使う 電子マネーの支払い 信号の理解 	<ul style="list-style-type: none"> バスなどの乗車時間の振る舞い お金の計算 店員とのやり取り 購入したものの管理 	<ul style="list-style-type: none"> バスなどの待ち時間を自分で確認する(遅延を理解する) 売切れを理解する 	→本人が難しいことはスタッフが代替してあげる →怪しげな場面は代替の活動を設定する
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 近くの慣れた相手へのコミュニケーション(日常必要なものの要求): 単語、絵カードなど 	<ul style="list-style-type: none"> 離れた相手へのコミュニケーション(日常必要なものの要求) 困った場面で人に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 担当スタッフ以外への発信 言葉のみの理解 補助要素の使い分け 自分の体調にかんする訴え 	→なるべく本人が発信しやすいスタッフを近くに配置する
職業スキル 職業行動	<ul style="list-style-type: none"> トークンを貯める(短期) 作業への注目 仕事とトークンの結びつき 	<ul style="list-style-type: none"> トークン貯める(月毎) 欲しいもののリストの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 月刊給料の理解 	→月刊給料の理解が難しいので、仕事のモチベーションはトークンにしている

支援計画シート(例)

期間: 20××年4月1日 - 20××年9月30日

概ね 次のライフステージ までの目標		楽しめる余暇活動が増えて本人なりの暮らしを整えたい		
一年間の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の種類を増やす ・コミュニケーション手段の獲得 ・できる仕事の種類が増える ・楽しみの見通しを持って仕事に取り組む 		
6ヶ月間で実現可能な具体的な行動目標				
領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方	評価
職業スキル/職業行動	30分以内の事業所の仕事に取り組む(新しい仕事2種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の新しい仕事 ・30分程度持続して仕事をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業量を目で見えわかるように設定留守 ・壁側の端(決まった場所)で他利用者と距離を取る ・報告確認後はすぐにトークンを渡す 	達成/継続/変更
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす(新しい余暇グッズ5種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバウンディングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する 	達成/継続/変更
職業スキル/職業行動	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンとご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う 	達成/継続/変更
コミュニケーション	離れたスタッフに要求や困ったことを伝える(3場面/15種類のコミュニケーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの場面でコミュニケーションカードを使う ・新しい15種類のコミュニケーションカードを使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求できる余暇グッズの写真カードを用意する ・写真カードは本人がイメージできるものを用意する ・2or3つの活動を選択ボードで選択 	達成/継続/変更

※参考書式: みらくる(支援をより効果的に進めていくためのモデルフォーマット: 札幌市自閉症・発達支援センター)
https://sapporoogaru.wixsite.com/miracle

具体的な行動目標 →

15: 実施後の評価と改善(ワークシート)

6ヶ月間で実現可能な具体的な行動目標				
領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方	評価
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす(新しい余暇グッズ5種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバウンディングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する 	継続 15分程度過ごせる新しい余暇グッズを3種類増やすことができた。まだアセスメントして、取り組んでいないものもあるので、継続した支援を行う
職業スキル/職業行動	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンとご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う 	変更 1週間のトークンは理解し目標に向かってトークンを貯めることができた。2週間以上は理解が難しいので、目標を変更して支援を継続する。



再アセスメント(または追加のアセスメント)が必要良いと思われるアセスメント書いてみましょう

支援計画シート(例)

期間: 20××年4月1日 - 20××年9月30日

概ね 次のライフステージ までの目標		楽しめる余暇活動が増えて本人なりの暮らしを整えたい		
一年間の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の種類を増やす ・コミュニケーション手段の獲得 ・できる仕事の種類が増える ・楽しみの見通しを持って仕事に取り組む 		
6ヶ月間で実現可能な具体的な行動目標				
領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方	評価
職業スキル/職業行動	30分以内の事業所の仕事に取り組む(新しい仕事2種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の新しい仕事 ・30分程度持続して仕事をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業量を目で見えわかるように設定留守 ・壁側の端(決まった場所)で他利用者と距離を取る ・報告確認後はすぐにトークンを渡す 	達成 30分程度の新しい仕事を2種類増やすことができた。(時間の理解が難しかったため、作業時間は量で示している。)
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす(新しい余暇グッズ5種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバウンディングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する 	継続 15分程度過ごせる新しい余暇グッズを3種類増やすことができた。再アセスメントして、取り組んでいないものもあるので、継続した支援を行う
職業スキル/職業行動	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンとご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う 	変更 1週間のトークンは理解し目標に向かってトークンを貯めることができた。2週間以上は理解が難しいので、目標を変更して支援を継続する。
コミュニケーション	離れたスタッフに要求や困ったことを伝える(3場面/15種類のコミュニケーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの場面でコミュニケーションカードを使う ・新しい15種類のコミュニケーションカードを使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求できる余暇グッズの写真カードを用意する ・写真カードは本人がイメージできるものを用意する ・2or3つの活動を選択ボードで選択 	達成 同じ室内であれば離れたスタッフに要求を伝えることができた。再アセスメントして、今後には場面や要求できるコミュニケーションの数を増やしていくように支援を継続していく。

※参考書式: みらくる(支援をより効果的に進めていくためのモデルフォーマット: 札幌市自閉症・発達支援センター)
https://sapporoogaru.wixsite.com/miracle

課題分析シート

受講番号: _____
 目標: _____
 場所: _____

作成日 / / 作成者: _____
 期間: 年 月 日 ~ 月 日

ステップ	✓	✓	✓	✓	備考・コメント
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

実施者/記録者					
評価のまとめ	見て分かる工夫				
	教え方				
	その他の工夫・配慮				

使用する記号

- =合格 P=手添え
- △=芽生え M=モデル
- X=不合格 G=ジェスチャー、指差し
- V=声かけ
- + =自立(すでに獲得されているスキル)

15: 実施後の評価と改善 (e ラーニング演習用ワークシート)

6ヶ月間で実現可能な具体的な行動目標				
領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方	評価
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす (新しい余暇グッズ5種類)	・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす	・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバッチングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する	継続 15分程度過ごせる新しい余暇グッズを3種類増やすことができた。まだアセスメントして、取り組んでいないものもあるのので、継続した支援を行う
	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	・トークンのご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める	・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う	変更 1週間のトークンは理解し目標に向かってトークンを貯めることができた。2週間以上は理解が難しいので、目標を変更して支援を継続する。



再アセスメント(または追加のアセスメント)が必要良いと思われるアセスメント書いてみましょう

支援計画シート(例)

期間: 20××年 4月 1日 - 20××年 9月 30日

概ね次のライフステージまでの目標	楽しめる余暇活動が増えて本人なりの暮らしを整えたい
一年間の目標	・余暇活動の種類を増やす ・コミュニケーション手段の獲得 ・楽しみを見通しを持って仕事に取り組む

6ヶ月間で実現可能な具体的な行動目標				
領域	行動目標	目標に向けて習得するスキル	環境/手立て/配慮/教え方	評価
達成スキル/職業行動	30分以内の事業所の仕事に取り組む (新しい仕事2種類)	・2種類の新しい仕事 ・30分程度持続して仕事をすること	・作業量を目で見えるように設定留守 ・壁側の端(決まった場所)で他利用者と距離を取る ・報告確認後はすぐにトークンを渡す	達成 30分程度の新しい仕事を2種類増やすことができた。(時間の理解が難しいため、作業時間は量で示している。)
興味関心/余暇活動	20分程度、自由時間を過ごす (新しい余暇グッズ5種類)	・5種類の新しい余暇グッズ ・20分程度自由時間を過ごす	・要求できる余暇グッズの写真カード ・他利用者とバッチングしないような距離で職員が見守る ・最低でも3つ余暇グッズを設定し、午前と午後で変更する	継続 15分程度過ごせる新しい余暇グッズを3種類増やすことができた。まだアセスメントして、取り組んでいないものがあるのので、継続した支援を行う
達成スキル/職業行動	欲しいものリストから月刊のトークンのご褒美を選択し、目標に向かってトークンを貯める	・トークンのご褒美の交換 ・欲しいものリストから選択する ・トークンを貯める	・トークンボードを用意する ・欲しいものリストを用意する ・ほしい物リストのアセスメントを1ヶ月に1回行う	変更 1週間のトークンは理解し目標に向かってトークンを貯めることができた。2週間以上は理解が難しいので、目標を変更して支援を継続する。
コミュニケーション	離れたスタッフに要求や困ったことを伝える(3場面)で15種類のコミュニケーション)	・3つの場面でコミュニケーションカードを使う ・新しい15種類のコミュニケーションカードを使う	・要求できる余暇グッズの写真カードを用意する ・写真カードは本人がイメージできるものを用意する ・2or3つの活動を選択ボードで選択	達成 同じ室内であれば離れたスタッフに要求や困ったことを伝えるようになった。今後は場面や要求できるコミュニケーションの数を増やして、引き続き支援を継続している。

※参考書式: みらくる (支援をより効果的に進めていくためのモデルフォーマット: 札幌市自閉症・発達支援センター)
<https://sapporoogaru.wixsite.com/miracle>

タイトル

- 受講番号：
- 所属：
- 氏名：

モデル利用者の概要(プレ)

健康状態 ・ 疾病 ・ 疾患	
心身機能・構造 ・ 診断名 ・ ・	活動・参加 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を選定 【強み、支援の維持調整】 【支援の修正、支援の考案】 ・ ICFシステム項目【d●●】 困難あり・なし： 支援あり・なし： 効果大・小： ・ ICFシステム項目【d●●】 困難あり・なし： 支援あり・なし： 効果大・小：
環境因子 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を選定 ・ 促進環境： 阻害環境：	個人因子 ・ 年代 ・ 性別 ・ 障害支援区分 ・ 行動関連項目●点 ・

モデル利用者の概要(プレ) ※記載例

健康状態 重度知的障害、ASD、てんかん、便秘傾向、朝起きられない	
心身機能・構造 ・ 作業に取り組めない (実行機能の問題) ・ 物の位置が気になる (ルール学習の強さ) ・ 生活関連刺激の苦手さ (感覚特性、独特な注意) ・ 対人刺激の苦手さ (社会的認知、感覚特性?) ・ 見て学習することが得意 (暗黙的学習の難しさ)	活動・参加 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を選定 ・ (強み) 記号やシンボル、絵や写真の理解【d3151-2】 (絵や写真は理解できる) ・ (強み) まねをして学ぶこと【d130】 (見て学ぶことができる) ・ (支援修正) 一つの作業や活動を一人ですること【d210a】、問題を解決すること【d175】 困難あり：何をしようかわからない、作業に取り組むことができない 支援あり：プレハブでワークシステムを用いてバスルーム掃除(漫画)のスケジュール実施 効果小：活動に取り組むことができるが、24時間365日マンツーマン対応で持続困難 ・ (支援修正) 場面に応じた行動のコントロール【d250】 困難あり：他利用者の物の置き方が気になり、他者への暴力行為あり 支援あり：24時間365日マンツーマンによる見守り支援 効果小：支援員の制止で暴力行為に止まらないが、ご本人のQOLは上がらず、24時間365日マンツーマン対応で持続困難 ・ (支援考案) 基本的な対人関係【d710】、非公式の対人関係【d750】 困難あり：GIIの共用スペースで他の利用者との関わるスキルがない、加えて、他利用者への暴力行為があり制止される 支援なし：支援員の関わりは暴力の防止のみにとどまっている。(ご本人のQOLは上がらず、本2項目には効果なし)
環境因子 (※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を選定 ・ 阻害環境：共用スペースでの生活 (【e240, 250, 260等】生活関連刺激や対人刺激【d710, 750】への苦手さ?) ・ 睡眠薬【e110b】 ・ 促進環境：ワークシステム (【e1351】仕事のしやすさを支援する製品と用具) ・ 生活介護事業所でのプレハブ設置 (生活関連刺激や対人刺激の除去) ・ 職員3名で交代しながらの個別対応 (【e340, 440】)	個人因子 ・ 50代男性 ・ 障害支援区分6 ・ 行動関連項目12点 ・ 発達年齢4歳3か月 ・ グループホーム (5人暮らし) ・ 生活介護事業所に通所

支援チームの概要

- 【記入の視点】
- チーム構成
 - チームで検討・支援していくための工夫等

フェイス! 「行動障害状態の確認と客観的な把握」

- 【報告で使用するワークシート類(例)】
- BPI-S
 - FAST
 - ABC記録
 - スキャッタープロット 等

- 【作成の視点】
- 課題となっている行動の状況整理等

フェイズ2

「特性理解に基づく原因・理由の検討」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- 自閉症の特性&学習スタイルチェックシート 等

【作成の視点】

- アセスメントから把握した特性を基にした背景要因等

フェイズ2

「仮説-検証」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- ICFシート
- 氷山モデルシート
- ストラテジーシート 等

【作成の視点】

- アセスメントを基にした支援仮説・方針

フェイズ2

「ハイリスク場面の整理」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- ABC記録
- スキャッタープロット

【作成の視点】

- アセスメント、記録を基にしたハイリスク場面の整理

フェイズ3

「本人に合ったより適切な活動の設定」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- 日常生活場面行動アセスメントシート
- 支援計画シート

【作成の視点】

- アセスメントを基にした適切な活動、期待される行動の設定内容

フェイズ4

「肯定的で有効な支援計画の立案・実施」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- 支援計画シート
- 課題分析シート
- 支援手順書
- スキャッタープロット 等

【作成の視点】

- アセスメントを基にした支援計画・具体的な支援内容
- 支援計画シートの様式は各事業所のもので可
- 支援記録
- 実施した結果をもとにした改善点・考察 等

フェイズ5

「支援の継続」

【報告で使用するワークシート類(例)】

- 支援手順書
- スキャッタープロット 等

【作成の視点】

- 実施した支援の評価に基づく支援の見直しの視点等

モデル利用者の概要(ポスト)

※プレからの変更点を赤字で記入

健康状態 ・疾病 ・疾患	
心身機能・構造	活動・参加(※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOL向上に関わる支援実施・支援内容変更を記載
・診断名 ・ ・	【強み、支援の維持調整】 【支援の修正、支援の考案】 ・ ICFシステム項目【 d●● 】 困難あり・なし : 支援あり・なし : 効果大・小 : ・ ICFシステム項目【 d●● 】 困難あり・なし : 支援あり・なし : 効果大・小 :
環境因子(※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOL向上に関わる環境支援を記載	個人因子
・ ・ 促進環境 : 阻害環境 :	・年代性別 ・障害支援区分 ・行動関連項目●点 ・精神年齢●歳●か月

研修を通じた変化

【受講者から見た変化】

- 受講者自身の変化
- 支援チームの変化
- 事業所の変化

【支援チーム・管理者から見た変化・感想】

- 支援チームの変化
- 事業所の変化

モデル利用者の概要(ポスト)

※記載例

変更箇所を赤字にしてください

健康状態 重度知的障害、ASD、てんかん、便秘傾向、 執拗さ	
心身機能・構造	活動・参加(※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を記載
・作業に取り組みない(実行機能の問題) ・物の位置が気になる(ルール学習の強さ) ・生活関連刺激の苦手さ(感受特性、独特な注意) ・対人刺激の苦手さ(社会的認知、感受特性?) ・見て学習することが得意(暗黙的学習の難しさ)	・(強み)記号やシンボル、絵や写真の理解【d3151-2】(絵や写真は理解できる) ・(強み)まねをして学ぶこと【d130】(見て学ぶことができる) ・(維持調整←支援修正)一つの作業や活動を一人ですること【d210a】、問題を解決すること【d175】 困難あり:何をしてもよくわからない、作業に取り組むことができない 支援あり:パーティションで空間を仕切った共有スペースで、スケジュール・ワークシステム・手帳書を用いて支援 効果大 : 共有スペースでも他利用者を気にすることなく、活動に取り組むことができた。 <u>ご本人のQOLも向上。</u> また、持続的なチーム支援が可能になった ・(維持調整←支援修正)場面に応じた行動のコントロール【d250】 困難あり:物の置き方が気になり、他者への暴力行為あり 支援あり:物の位置を写真で提示 効果大 : 物の置き場で困らなくなった、支援員が常につきずとも暴力行為がなくなった。 <u>ご本人のQOLも向上。</u> ・(維持調整←支援修正)基本的な対人関係【d710】、非公式の対人関係【d750】 困難あり:QOLの共有スペースで他利用者と関わるスキルがない。加えて、他利用者への暴力行為が抑制される。 支援あり:共有スペース空間をパーティションで仕切った。(生活関連刺激や対人刺激の低減) 効果大 : 他利用者と関わるようになってはいるが、暴力行為はなくなった。 <u>ご本人のQOLも向上。</u>
環境因子(※ICFシステム項目・補足情報参考) : QOLに影響している項目を記載	個人因子
・阻害環境:共有スペースでの生活(【e240,250,260等】生活関連刺激や対人刺激【d710,750】への苦手さ?) ・睡眠薬【e110b】(全体支援で行動が落ち着いたが眠気が取れない)→減薬で眠気消失 ・促進環境:ワークシステム、スケジュール、手帳書、パーティション、置き場の整理(物の位置を決めて写真で提示) (【e135】仕事のしやすさを支援) :生活介護事業所でのアラップ設置(生活関連刺激や対人刺激の除去) :職員3名で交代しながらの個別対応(【e340,440】) :共有スペース空間を(パーティションで)仕切って生活(【e151】日常生活での使いやすさを支援)	・50代男性 ・障害支援区分6 ・行動関連項目11点 ・発達年齢4歳3か月 ・グループホーム(5人暮らし) ・生活介護事業所に通所

まとめの一言

- 研修の感想
- 今後取り組みたいことなど なんでもOK



第1部 広域的支援人材 は何を期待されているのか

厚生労働省 山根和史 発達障害施策調整官がお応えします

中核的人材養成研修がはじまり、強度行動障害のある人々を地域で支えていくための体制作りが進み始めました。地域の支援体制作りで重要な役割を果たすのが**広域的支援人材**です。
広域的支援人材は何を期待されていて、地域の体制作りにおいてどのように活用していくのか。
 強度行動障害のある人々を地域で支えている関係者が集い、広域的支援人材や地域の支援体制作りについて、厚生労働省の専門官を招き最新の情報を共有します。



日時	2025年1月21日(火) 13:00-17:00
内容	第1部：広域的支援人材は何を期待されているのか 第2部：地域の支援体制づくり “チーム佐賀”はこうして生まれ育っている 第3部：つながりtime 2分毎に人を変え名刺交換をする出合いの時間です
場所	アットビジネスセンター東京駅八重洲通り501号室 東京都中央区八丁堀1-9-8 八重洲通ハタビル ■JR東京駅(八重洲口)より徒歩約10分 ■日比谷線 八丁堀駅より徒歩2分
参加費	無料 交通費等は、各自ご負担ください



第2部 福島 龍三郎 氏

- ・社会福祉法人はる理事長
- ・NPO法人佐賀中部障がい者ふくしネット理事長 ほか
- ・強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)、中核的支援人材養成研修作成メンバーの一人

“強度行動障害の状態になった方たちを支えたい”という思いでスタートしたグループホーム。しかし、「はる」だけでは支えきれなかった。地域として支えていく必要性を実感して、地域のネットワーク作りと人材育成に取り組んできました。当日は、ネットワークの作り方と広域的支援人材の活用についてお話しします。

対象者 広域的支援人材名簿登録者、都道府県政令指定都市障害福祉担当課、発達障害者支援センター、都道府県の自立支援協議会行動障害関連部会のメンバー、発達障害者地域支援マネジャー、中核的人材養成研修ディレクター、トレーナー(SV)、サブ・トレーナー等経験者
 定員150名(定員超過の場合は、抽選となります)

申込方法 下記、公式WEBサイト もしくは 右のQRコードからお申込みください
<https://www.nozomi.go.jp/training/kouiki.html>
 令和6年10月17日10:00～11月29日10:00まで
 ※定員決定につきましては、12月13日頃にお申し込み頂きましたメールアドレスにお知らせを致します。



主催 独立行政法人国立高度知的障害者総合施設のぞみの園
 群馬県高崎市寺尾町2120-2 | TEL: 027-320-1357 平日9:00-17:00 受付 / 土日祝日休み つきおか・ながい
 E-mail nozomi-seminar-01@nozomi.go.jp

広域的支援人材とは

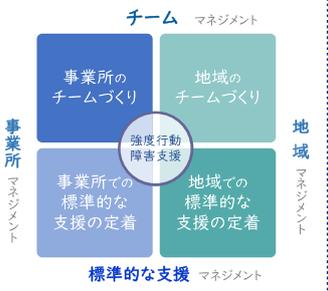
広域的支援人材とは、令和6(2024)年4月の報酬改定で生まれた**集中的支援**のアドバイスをを行う役割と中核的人材を育成し、地域支援体制のスキルアップを回る役割を担います。



集中的支援とは

集中的支援とは、令和6(2024)年4月の報酬改定で生まれ、強度行動障害を有する児者の状態が悪化した場合において
 I. 広域的支援人材が指定障害者支援施設、共同生活援助事業所等を訪問し、集中的支援を行う
 II. 集中的支援が必要な利用者を、集中的支援を提供できる体制を備えているものとして都道府県等が選定する指定短期入所事業所、指定障害者支援施設、指定共同生活援助事業所、指定障害児入所施設が、他の指定障害福祉サービス事業所又は指定障害者支援施設等で受け入れ、対象利用者に対して集中的支援を行うものです。

集中的支援のマネジメントに求められる関わり



標準的な支援 マネジメント

集中的支援の実際には、事業所や地域の標準的な支援の理解と定着、それを押し進めるチーム作りが必要です。(左図)
 事業所のチーム作りでは、法人経営者(事業所管理者)の標準的な支援の理解が重要です。標準的な支援の定着では、**核となる人材の育成**を促すとともに、チームメンバーへのサポートや的確な助言が求められます。
 また地域での標準的な支援の定着も大切です。支給決定する行政のもとで、サービス等利用計画を作成する相談支援専門員を中心に、関係機関、事業所間の連携をはかり地域のチーム作りが必要です。その際、各都道府県に設置されている発達障害者支援センター、発達障害者地域支援マネジャーなど行動障害支援で中核となる機関、人材はフル活用する必要があります。

※標準的な支援とは
 個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害の状態を引き起こしている環境要因を調整していく支援を「標準的な支援」といいます

事業所&地域のチーム作り
 # 法人経営者(事業所管理者)
 # 標準的な支援の定着
 # チームメンバーへのサポート&助言
 # 関係機関、事業所間の連携

毎年、「情報アップデートDay since 2024」を開催します

国立のぞみの園では、広域的支援人材が、全国各地の取組等に関する情報をアップデートできる機会を用意します。今年は、キックオフとして集合形式で開催し、人とのつながりを深めます。
 令和7年度以降は、■チームや地域のつくり方、■標準的な支援の定着のさせ方、■チームや事業所、管理者のサポートの仕方、■関係機関、事業所間の連携の仕方、■助言の仕方など、取り上げるテーマを広域的支援人材の皆様と検討しながら、オンデマンドを含めた開催を予定しております。
集合形式での開催は貴重な機会となりますので、是非、ご参加ください。

お願い 第3部(2分×30回=60分)で名刺交換をします。**名刺を多めにご持参ください。**